

2020 JAPAN FOUNDATION
Japanese Studies Survey

The logo of the Japan Foundation, featuring a stylized blue butterfly or flower shape with three main lobes.

英国における日本研究機関調査

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

国際交流基金ロンドン日本文化センター
日本研究機関調査
2020年

英国研究機関における日本研究の調査

国際交流基金ロンドン日本文化センター作成

© 2020 国際交流基金ロンドン日本文化センター

目次

謝辞:	5
調査について:	6
調査方法、対象範囲および回答者:	6
2015年の調査からの変更点:	7
調査についての考察	8
グループ1の大学:	11
ロンドン大学バークベック校	12
ケンブリッジ大学	17
ダラム大学	22
イースト・アングリア大学	28
マンチェスター大学	34
ニューキャッスル大学	41
オックスフォード大学	46
オックスフォード・ブルックス大学	52
シェフィールド大学	58
ロンドン大学 SOAS	65
グループ2の大学	78
カーディフ大学	79
セントラル・ランカシャー大学	84
エディンバラ大学	90
リーズ大学	96
グループ3の大学	102
バース・スパ大学	103
バーミンガム大学	103
ボーンマス大学	103
ブリストル大学	103
バッキンガム大学	104
ロンドン大学シティ校	104
コベントリー大学	105
ダービー大学	105
エッジ・ヒル大学	105
エクセター大学	105
グラスゴー大学	106
ロンドン大学ゴールドスミス校	106
グリニッジ大学	106
ハイランド・アンド・アイランド大学	107
ハダースフィールド大学	107
キングス・カレッジ・ロンドン	107

国際交流基金ロンドン日本文化センター

2020年度日本研究機関調査

キングストン大学	108
レスター大学	108
リバプール・ジョン・ムーア大学	108
ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス	109
ラフバラ大学	109
ノーサンプトン大学	109
ノッティンガム大学	110
プリマス大学	110
リージェンツ大学ロンドン	110
サルフォード大学	111
シェフィールド・ハラム大学	111
セント・アンドルース大学	111
ストラスクライド大学	112
西スコットランド大学	112
ウインチェスター大学	112
ウルバーハンプトン大学	112
レクサム・グリンドウル大学	112
リトル・ユニバーシティ・カレッジ	113
ヨーク大学	113
語学課程のみの教育機関:	114
バーミンガム大学	115
エセックス大学	117
ハートフォードシャー大学	118
ロンドン・メトロポリタン大学	119
マンチェスター・メトロポリタン大学	120
ポーツマス大学	121
ロンドン大学クイーン・メアリー校	122
レディング大学	123
サウサンプトン大学	124
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	125
ウォリック大学	127
ヨーク・セント・ジョン大学	129
大学教員への調査	130
学生への調査	147
付表	170
表1: 2015年と2020年に日本関連の学位を修得できた(語学のみを選択肢を含む)英国の大学の学士課程の一覧	171
表2: 2015年と2020年に日本関連の学位を修得できた(語学のみを選択肢を含む)英国の大学院の一覧	183
表3: 日本の大学と提携しているグループ1とグループ2の英国の大学	186
表4: グループ1とグループ2の大学の教育分野	189

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

謝辞：

国際交流基金は、本報告書の作成にあたり、多大なるご協力をいただいた英国日本研究協会に厚く御礼申し上げます。そして、今回の調査にご回答いただいた関係機関・関係者の皆様、学生の方々にも心より感謝申し上げます。

調査について：

2020年夏、国際交流基金ロンドン日本文化センターは、2015年に実施した英国日本研究機関調査の最新版作成のための調査を実施した。

国際交流基金は、世界の全地域において総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関であり、各種助成プログラムを通じて、日本研究者や日本研究機関を支援している。調査を通じて、英国における日本研究の動向を把握し、調査結果を研究振興のための方針策定や目標設定に利用し、適切な支援を行っていくことに役立てたいと考えている。

本報告書が、英国の大学における日本研究や教育について知るための有用な参考資料となること、英国における日本研究とその価値に光を当てることで、英国全土での多様な研究と教育を知る一助になることを期待する。

調査方法、対象範囲および回答者：

本調査は、教育機関、大学教員、学生の3グループに区分して実施した。教育機関への調査は、学部または大学院で単一専攻／複数専攻学位として日本語または日本研究の課程を提供している全大学が対象である。調査実施時(2020年夏)には、該当大学は26校であった。日本研究の課程は提供せず、語学または翻訳のみの課程を提供する大学は12校で、同12大学については、教育機関への調査で語学課程のみの教育機関として掲載している。残りの14の大学は、学部または大学院で単一専攻または複数専攻の学位として日本研究の課程を提供しており、該当機関の教員は、日本研究に関心がある教員と、日本研究関連の学部で定期的に講義を行っている教員の両方に記載している。なお、日本研究に関心がある教員については、日本研究を行っていない学部にも所属している教員や語学教師といった研究職以外の教員も含まれている。

大学教員への調査は、教育機関への調査で対象となった大学に所属する日本研究の専門家全員と、研究実績に日本研究の要素が含まれる現役の大学教員を対象として実施し、調査票を送付した198人のうち、64人から回答を得た。大学教員への調査を実施する中で、日本研究の課程は有しないものの、日本関連の研究を行なっている教員を擁する大学が数校見出され、これらの大学は、教育機関への調査で「グループ3」として記載している。

大学は以下のように分類する:

グループ1:単一専攻学位として日本研究の課程を提供する大学(10校)

グループ2:複数専攻学位として日本研究の課程を提供する大学(4校)

グループ3:日本関連の研究を活発に行っている常勤職員がいる大学(35校)

語学のみ:日本語学または翻訳学で学位相当の課程を提供しているが、日本研究の課程は提供していない大学(12校)

学生を対象とした調査では、グループ1とグループ2の大学で日本関連の学位の課程を履修している大学院生と学部生に調査票を送付した。GDPRの制約により、調査票を学生に直接送付することが叶わないため、大学職員経由等、間接的な手段を利用して調査票を配布した。合計142名の学生から回答があったが、最終的な調査票配布数については不明である。

2015年の調査からの変更点:

英国日本研究協会と協議し、調査の定義を一部変更した。最も大きな変更点は「グループ3」の大学の定義変更である。2015年度の調査では、日本研究課程の単位を提供する大学として定義されていた。しかし、提供される単位にはしばしば変更が起こりうることから、日本研究が行われている大学を対象とする方が経年での変化を観察できることが判明した。したがって、本調査における「グループ3」の大学は、人文科学または社会科学において日本関連の研究を行なっている研究者を少なくとも一人は擁する大学と定義した。

日本研究と日本語学の区別を容易にするために、語学／翻訳のみの課程を提供する大学は別のグループに分類した。

また、これまでとは異なり、2020年度はグループ1とグループ2の教育機関以外で活動する大学教員も調査に含まれるよう、大学教員への直接調査を行った。

調査についての考察

英国日本研究協会会長、カーディフ大学日本学講師
クリストファー・フッド博士

政治の世界では一週間は長いと言われますが、大学の世界における五年間はどうか。大学の世界は変化が緩やかであり、五年はそれほど長くはないように思われるかもしれませんが。しかし五年という期間は、英国の大学で日本学の学士課程を卒業するまでよりも一年長く、博士課程を修了する最短期間より二年長く、修士課程の5回分に相当します。したがって、国際交流基金が英国の大学における日本語学と日本研究の現状について前回調査から五年を経て、再び調査を行なうことは、研究の動向を捉える好い機会だと思われま

「調査について」で述べましたように、英国日本研究協会(BAJS)は国際交流基金と協力して、前回の調査の質問内容を見直し、2020年の調査に使う質問項目を設定しました。この取り組みは二つの組織関係をさらに緊密にするだけでなく、英国における日本研究の発展・拡大という同じ目的を持つ両組織にとって有益であったと考えます。その結果、「2015年の調査からの変更点」で記したように、本調査はさまざまな日本研究のために利用しやすくなったと考えています。

本調査の結果について分析する前に、調査対象となった五年間に新型コロナウイルス感染症が及ぼした影響について留意しなくてはなりません。ロックダウンの段階、各地域における規制、大学ごとの対策は回答時の状況によっては異なるため、全体像や年ごとの調査結果の比較が非常に難しくなっています。

新型コロナウイルスの影響があったものの、最新のデータを見ると、日本語または日本研究を学ぶ学生数の推移は堅調であることがわかります。学部レベルでは、「グループ1」、または「グループ2」の大学(日本語学または日本研究の学位課程を持つ大学)は14校あり、1500人以上の学生が日本語または日本研究を学んでいます。さらに100人以上が修士課程に、約80人が博士課程に在籍しています。それに加えて、日本研究の学位課程はないが日本語学が学べる大学や、その他の日本関連の選択肢がある大学(グループ3)が数多くあります。BAJSの観点からは、特にグループ3の大学のBAJS未加入者に関心があります。BAJS会長として、私はすでに会員がいる大学以外にもBAJSの活動範囲を広げようと努めてきました。やるべきことはまだ沢山あり、国際交流基金の調査結果を今後の発展の足がかりとして利用したいと考えています。

本調査では大学組織だけでなく学生と教員の視点も考慮しました。大学教員への調査については、日本関連の研究をしている教員 64 名から回答がありました。回答者の 50%は英国人でしたが、それ以外の教員の国籍は英国外の 10 か国と多岐にわたっており、これは英国の EU 離脱による悪影響を抑えようと努めている高等教育の国際性を反映しています。

大学教員に専門分野を訊ねると答えに窮することが多いことが、問題の核心を突いています。「日本研究」と「地域研究」は、特に「経済学」「政治学」「文学」などの分野と比較して、必ずしも相応の敬意を払われていません。回答者の 58%は自身を日本研究者と見なしているのに対して、他の回答者は、自身の専門分野をより広い地理的領域の一部と見なしているか、日本研究者ではないものの、日本とのつながりが強いのか専門性のある研究を行っているか見なしています。繰り返しになりますが、このような大学教員に BAJS の会員になってもらうことで、大学教員のみならず、同じような研究を進めようとしている大学院生にとっても利点があると説得するために、BAJS にもできることはもっとあると思います。BAJS は日本研究の重要性を訴えるために、国際交流基金も含めた他機関とも協力して、さらに努力していかなければならないでしょう。

日本研究がさまざまな課題に対して強力かつ総合的なアプローチをとれることは、教員の研究に関連する分野の広がりにあることが、64 名の大学教員から得られた 156 の異なる回答(一人あたり平均 2.4 の回答)からわかりました。日本研究者同士だけでなく日本研究という枠組みを超えた研究者の交流をもたらしていることが、日本研究の大きな強みの一つなのです。しかし皮肉なことに、回答者の約3分の1が「学際性の狭さ／欠如」を日本研究が直面する主な課題として見なしています。この相反する回答についてはさらなる調査が必要でしょう。これは日本研究者がそう自認しているのか、日本研究者が周りからそう見られていると感じているのか、もしくは日本研究者ではない人々から見た日本研究の印象なのか、ということです。これは日本研究の利点を訊ねた質問への2番目に多かった回答が「学際的研究の機会」であったことから、2番目か3番目のどちらかでしょう。日本研究に携わることは、誰に訊ねるかによって、長所にも短所にもなるようです。それなら、専門分野を訊ねると答えに窮する大学教員が多いことも理解できます。

大学が直面している課題としては、大学教員にとっても学生にとっても、資金とリソースの問題が際立っています。また、回答者の約 25%が自分の仕事量について懸念を示しており、多くの人がポストの不安定さやキャリアパスの不透明さについて言及していることも注目されます。大学教員が多くの課題と圧力に直面していることは明らかで、大学教員のみならず学生のためにも、この状況を改善するためのさらなる努力が必要でしょう。

学生への調査では、大学教員と同じく、回答者の約半数が英国人ですが、その他は世界 21 ヶ国出身者でした。英国における日本研究は真にグローバルになっています。

2015年の調査と同じく、学生の関心が最も高い分野は言語です。次が文化、そしてより一般的な事柄やキャリア関連の目標となっています。また、学生の回答者の3分の2近くが大学進学前に日本語を学んだことがあることも注目に値します。大学進学前にどのような学習が行われているのかと、それが学生の大学での履修に、どのくらい助けになったり妨げになっているかについて、さらなる調査が必要でしょう。

学生の86%が在学中に日本に留学することは非常に重要、もしくは重要であると答えています。したがって、新型コロナウイルスの制限によって多くの学生が日本に留学できなかった時期に実施された本調査において、学生が直面する最大の課題は「新型コロナウイルス」であるとの回答結果となりました。

学生の履修科目と履修希望科目に関しては、どちらも多岐にわたっています。これは日本研究に共通する課題、つまり日本の幅広い側面を学びたいという願望を示していますが、すべてを学ぶ時間(または教育リソースや専門分野)は限られています。これは、日本研究そのものには国のカリキュラムがないため、どの大学へ進学するかが学べる科目に大きく影響するからです。

学生の関心が最も高いのは言語であり、多くの学生が語学教育の改善を期待しているのは重要ですが、こちらについても、本調査が新型コロナウイルスの最中に行なわれたことは留意すべきでしょう。外国語教育は特に大きな影響を受けており、これが調査結果を左右した可能性があります。なお、2015年と比較して2020年の調査で際立っているのは、回答した学生が、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの相対的な重要性について、よりバランスの取れた見方をしていることです。リーディングとライティングの2つが最も重視されていることに変わりはありませんが、ライティングとリスニングとの差は2015年よりも縮まっています。

BAJS 会長として、本調査を実施して下さった国際交流基金と、回答いただいたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。本調査は、日本研究と日本関連に携わるすべての人を網羅しているわけではありませんが、英国における日本研究の全体像を描写するものであると言え、今後のプログラムや活動において極めて有用なものとなるでしょう。

グループ1の大学：

グループ1の大学は、単一専攻学位もしくは複数専攻学位として、日本研究の課程を履修できる。

註:すべての回答は原文ママ記載

ロンドン大学バークベック校

基本情報

<p>担当学部： 文化言語学部</p> <p>所在地： 43 Gordon Square, London, WC1H 0PD</p> <p>電話番号： +44 (0)20 7631 6000</p> <p>メール： culturesandlanguages@bbk.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： http://www.bbk.ac.uk/departments/cultures-languages/</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none">- 日本研究- 日本語(と副専攻) <p>英語 映画／メディア グローバル政治 歴史 国際法 ジャーナリズム</p> <ul style="list-style-type: none">- 日本語(と共同学位／副専攻) <p>マネジメント 政治 国際関係 美術史</p> <ul style="list-style-type: none">- コミュニケーション(と共同学位／副専攻の)日本語
	<p>日本関連大学院課程：</p> <p>MA</p> <ul style="list-style-type: none">- 比較文学と文化研究 <p>MRes</p> <ul style="list-style-type: none">- 比較文学と文化研究

研究対象に日本を含む教員：

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
川上あかね教授 Prof Akane Kawakami	教授(フランス文学)	旅行記と異国情緒、国境を超えた物語、現代フランス小説
マルコス・チェン テーノ博士 Dr Marcos Centeno	講師(日本研究)	日本のドキュメンタリー映画、ユース映画と「ニューウェーブ」、アイヌ

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 歴史
- 政治・国際関係
- 社会学
- メディア
- その他
ポピュラー・カルチャー、漫画・アニメ、多文化主義、多様性、マイノリティ

日本研究課程の特徴：

本学の課程は日本の現代文化に焦点を当てており、柔軟性が高く、日本研究を初歩から学び始めることができる。単一専攻学位または複数専攻学として、パートタイムまたはフルタイムの学生として履修でき、日本の提携大学へ1年間留学する「国際経験」プログラムに参加することも可能である。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務		X			
学会発表		X			
論文査読／編集			X		
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数

常勤職員:2名
非常勤職員:6名

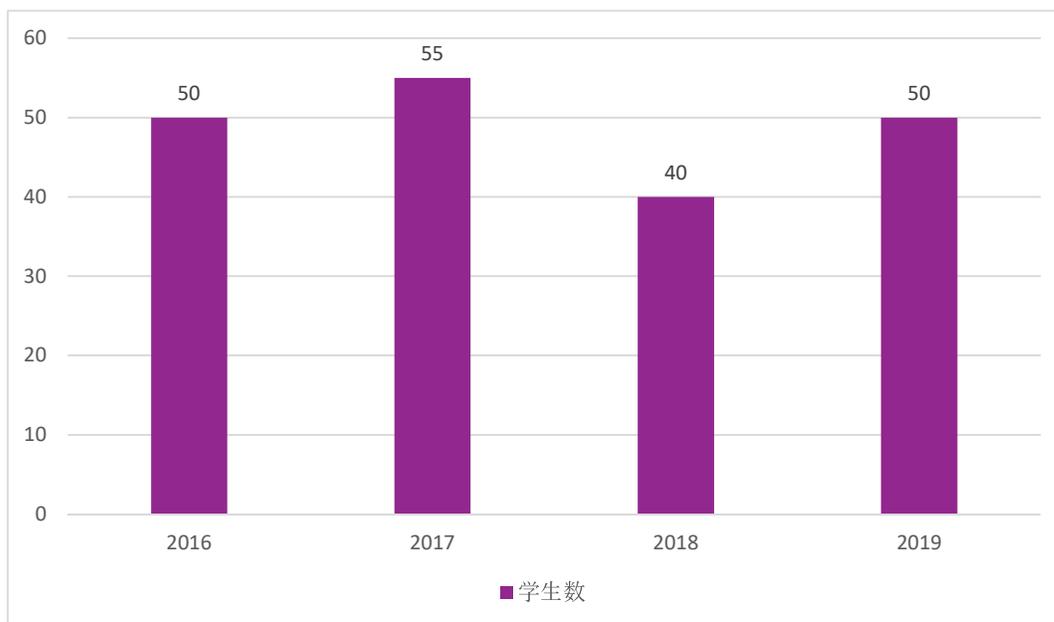
日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部生:184名
修士課程:3名
博士課程:4名

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：

該当なし(2020年/2021年に初めて単一専攻学位が導入されたため)

複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

特定の奨学金ではないが、本学の芸術学部はリバーヒューム財団、英国学士院、グレイトブリテン・ササカワ財団からの助成金を日本関連の研究プロジェクトに優先的に配分している。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

データなし

提携している日本の大学：

なし

交換留学協定を締結している日本の大学：

法政大学、国際基督教大学、上智大学、早稲田大学、関西大学、お茶の水女子大学

中長期的な成長目標：

講師を追加して提供できる日本研究を増やす。

追加情報：

特になし

ケンブリッジ大学

基本情報

<p>担当学部： アジア・中東学部</p> <p>所在地： Sidgwick Avenue, Cambridge, CB3 9DA</p> <p>電話番号： +44 (0)1223 335 106</p> <p>メール： enquiries@ames.cam.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.ames.cam.ac.uk</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - アジアと中東研究(日本研究)</p> <p>日本関連大学院課程： MPhil - アジアと中東研究 MA - 日本研究</p>
---	--

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
ミカエル・アドルフ ソン教授 Prof Mikael Adolphson	日本学科長、日本研究 の経団連教授	前近代日本史
川端美樹 Dr Miki Kawabata	上級語学教員オフィサー (Senior Language Teaching Officer)	日本語教授法
バラク・クシュナー 教授 Prof Barak Kushner	教授(東アジア史)	現代日本史、日中関係、プロパガン ダ

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ローラ・モレッティ 博士 Dr Laura Moretti	上級講師(前近代日本研究)	前近代日本研究
ジョン・ニルソン =ライト Dr John Nilsson- Wright	上級講師(現代日本政治)	日米関係、戦後日本政治と国際関係
ブリジット・ステイ ガー博士 Dr Brigitte Steger	上級講師(現代日本研究)	日本社会と日常生活の文化人類学
クリスティン・ウィ アムズ Dr Kristin Williams	ケンブリッジ大学図書館 日本部長	日本児童文学
ビクトリア・ヤング 博士 Dr Victoria Young	講師(日本文学・文化)	現代・近代日本文学、沖縄研究、日本のマイノリティ作品、ポストコロニアル研究、フェミニスト批評、翻訳理論

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 歴史
- 政治／国際関係
- 人類学
- メディア
- 文学
- 現代社会
- 伝統文化

日本研究課程の特徴：

語学集中プログラム。近代と前近代の両方の日本研究を専門とする欧州でも数少ない大学である。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務	X				
学会発表		X			
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

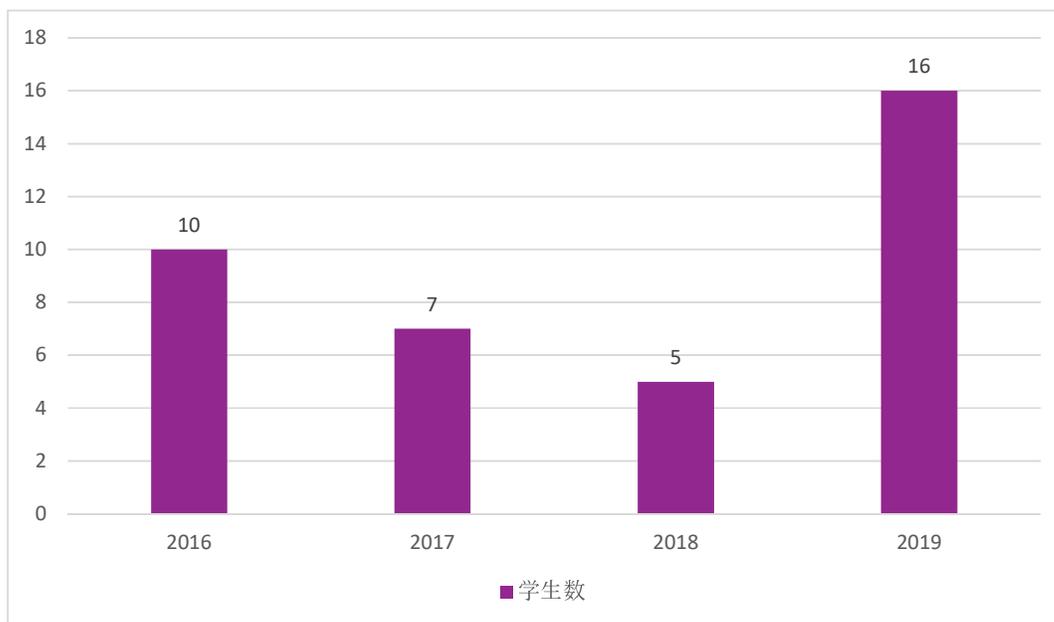
教育業務に携わる職員数：

常勤職員：8名
非常勤職員：2名

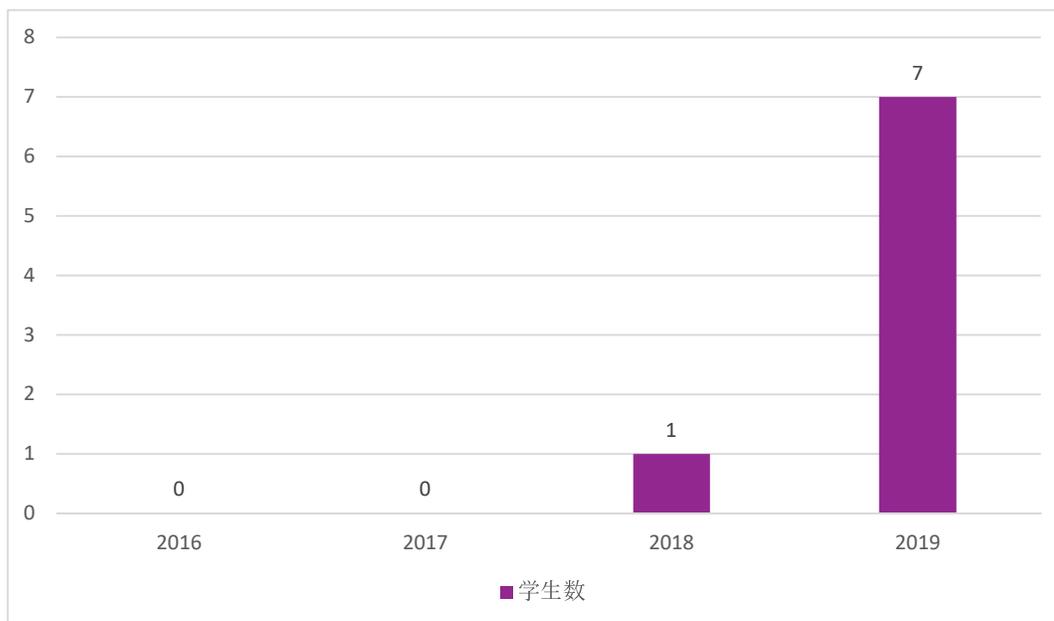
日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部生：35名
修士課程：5名
博士課程：14名

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

外部基金からの大学院生奨学金と日本研究からの支援。寄付金による賞金。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

多くは日本で就職先を見つけたり、政府機関や金融業界に就職している。大学院に進んで研究を続ける卒業生もいる。

提携している日本の大学：

同志社大学、慶應義塾大学、京都大学、一橋大学、早稲田大学、立教大学と了解覚書

交換留学協定を締結している日本の大学：

立教大学と学部生の交換留学、一橋大学、早稲田大学、慶應義塾大学、京都大学と大学院生の交換留学

中長期的な成長目標：

大学院は現在毎年10～12人を受け入れており定員に達しているが、学部生はわずかに増えている。また産業や政府とのさらなる提携も必要である。

追加情報

今年3月に日本グローバル研究センターという一般社団法人を設立した。
www.jgrc.org.

ダラム大学

基本情報

<p>担当学部： 現代語学・文化学部</p> <p>所在地： The Palatine Centre, Stockton Road, Durham, DH1 3LE</p> <p>電話番号： +44 (0)191 33 43420</p> <p>メール： mlac.schoolsupport@durham.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.durham.ac.uk/departments/academic/modern-languages-cultures/about-us/</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 日本研究 - 社会科学での共同学位</p> <p>日本関連大学院課程： MA - 翻訳 - 語学、文学、文化</p>
--	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
アダム・ブロンソン博士 Dr Adam Bronson	助教授	19世紀以降の日本の知的・文化的歴史、噂話の歴史
印南芙紗子博士 Dr Fusako Innami	助教授	身体、感覚、愛と親密性、睡眠などのトピックを含む文学、身体的体験の言語化を含む「翻訳」問題

熊漢生博士 Dr Hansun Hsiung	助教授	約 1750～1900 年の日本と西欧の 版画を通じての交流
ポール・ベイリー 教授 Prof Paul Bailey	教授(東アジア史)	現代中国史、東アジア史

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 歴史
- メディア
- 美術
- 文学
- 科学／技術

日本研究課程の特徴：

日本へのグローバルなアプローチに基づく課程を履修できる。日本研究がある現代語学・文化学部では、アラビア語、中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ロシア語の授業や、ビジュアル・アートのプログラムも履修できる。これにより日本研究を履修する学生は、日本を越えて、東アジアにまで至る広範な研究を学ぶことができる。

職員評価において大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義		X			
指導／相談			X		
運営業務		X			
学会発表			X		
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数：

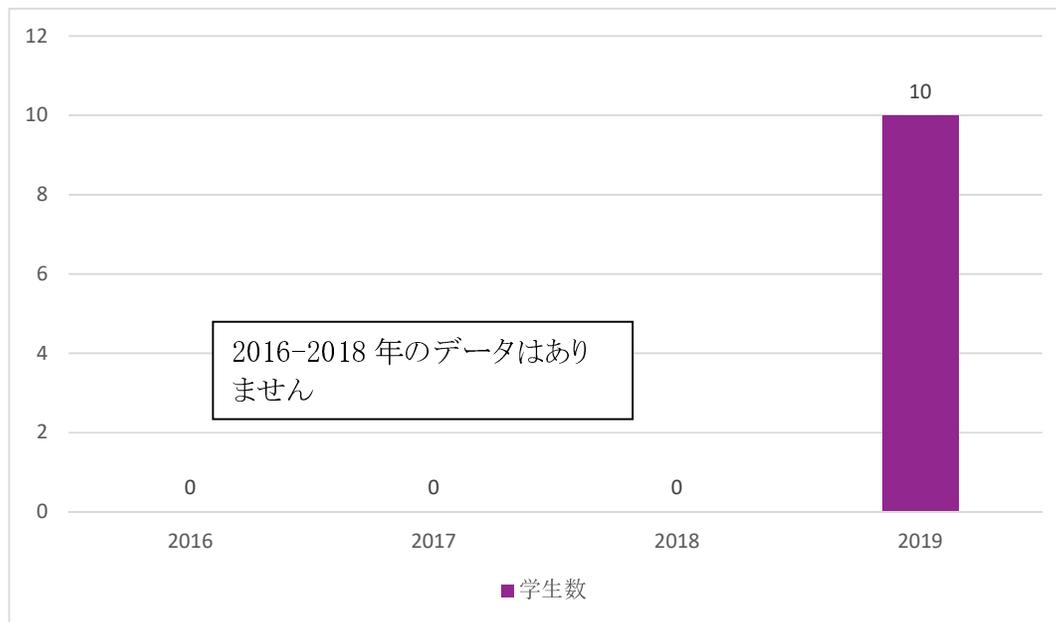
常勤職員：4名
非常勤職員：3名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

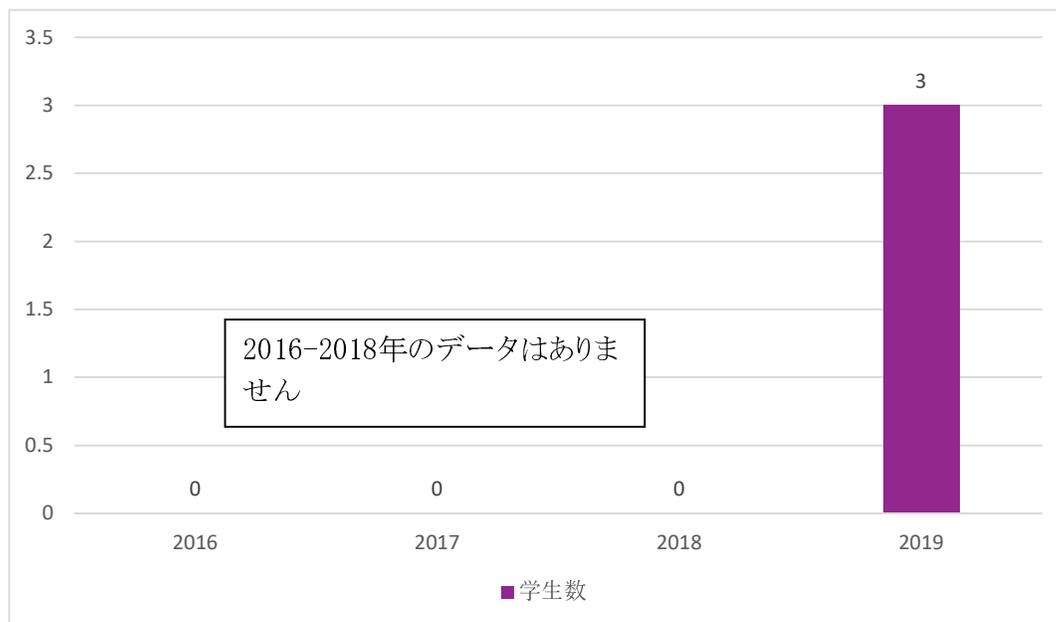
学部生：91名*
修士課程：1名
博士課程：1名

* 日本研究は、教養課程の副専攻として履修したり、社会学の複数専攻学位としても履修できる。正確な人数は不明であるが、毎年5名くらいが履修している。

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

グレイトブリテン・ササカワ財団。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

包括的な統計データを得ることは残念ながら難しい。学生指導の個人的な体験から把握しているのは、アジア研究の修士課程で日本や中国、より広く東アジアを研究したり、大学院で翻訳やビジネスを学んだり、JETプログラムに参加した卒業生もいる。

提携している日本の大学：

帝京大学

交換留学協定を締結している日本の大学：

東京大学、早稲田大学、国際基督教大学、京都大学、名古屋大学、大阪大学、千葉大学、熊本大学、九州大学(締結準備中)、広島大学(締結準備中)

中長期的な成長目標：

1)職員採用:日本研究は規模が大幅に拡大しており、新課程には現在25～30人の学生がいる。これに対応するため、特に美術史、映画学、メディア学、演劇学の分野の教員と、少なくとも1人の追加の語学教員を募集している。

2)リソース:ダラム大学の日本語資料と関連するデータベースの機関購読は不十分なままである。ジャパンレッジ、朝日新聞、読売新聞といった基礎的な資料の購読さえできていない。大学職員と学生が研究を行なえるよう、現物の書籍とデータベースの取得に投資するよう大学図書館に積極的に要請している。

追加情報：

ダラム大学には研究に必要な書籍とデジタルの購読の両方で日本研究のリソースが不足している。これは ILL/DDS サービスがあまり機能しておらず、よりよいリソースを揃えている他の機関(大英図書館、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学、SOAS など)へ学生が利用者として登録しようとしても移動できなかったロックダウン期間中、特に問題となった。国際交流基金が、日本研究のための共同機関購読(例えば、英国北東部のダラム大学、ニューキャッスル大学、ノーサンブリア大学で共有する)を補助したり、図書館の書籍購入への助成金を提供する可能性を探っていたらと考えている。

イースト・アングリア大学

基本情報

<p>担当学部： 大学:政治・哲学・語学・コミュニケーション学部 大学院:日本学センター</p> <p>所在地： Norwich Research Park, Norwich, Norfolk, NR4 7TJ</p> <p>電話番号： +44 (0)1603 591819</p> <p>メール： cjs@uea.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.uea.ac.uk/groups-and-centres/centre-for-japanese-studies</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 現代語学(日本語) - 現代語学(と副専攻の)マネジメント研究 - 翻訳と通訳(と副専攻の)現代語学 - 翻訳メディア(と副専攻の)現代語学 - 国際関係(と副専攻の)現代語学</p> <p>日本関連大学院課程： MA - 学際的日本研究</p>
--	--

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
レイナ・デニソン 博士 Dr Rayna Denison	上級講師(美術・メディア・アメリカ研究)	日本映画／テレビ。映画とテレビの国際流通、テキスト、文化、アニメ
サイモン・ケイナー教授 Prof Simon Kaner	日本学センター所長、セインズベリー日本藝術研究所の考古・文化遺産センター所長	日本の先史時代と考古学史。日本の歴史的都市環境の比較研究。日本の文化遺産および考古遺産管理の国際的役割
ラー・メイソン博士 Dr Ra Mason	ササカワ講師(国際関係・日本の外交政策)	国際関係のリスクと日本の外交政策

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ニコル・ルーマニ エール教授 Prof Nicole Rousmaniere	セインズベリー日本藝術 研究所研究担当所長	東アジア、特に日本における近世か ら現代の陶磁器、東アジアの貿易ネ ットワーク、考古学史、日本のものの 収集。
戸祭哲子 Dr Akiko Tomatsuri	講師(日本語)	日本における古代ギリシアとローマ の文学と文化の受容
富澤ケイ愛理子 Dr Eriko Tomizawa-Kay	講師(日本語)	日本語、日本画、19世紀後半から 20世紀初頭のアメリカの美術品市 場
渡辺俊夫教授 Prof Toshio Watanabe	教授(日本美術・文化遺 産)	日本美術史、特に 1850～1950 年
ナディン・ウィレム ス博士 Dr Nadine Willems	講師(日本史)	知的歴史。20世紀初頭の国境を越 えた視点からのアナキズムと日本の 農村における社会運動の歴史
ハンナ・オズボー ン博士 Dr Hannah Osborne	講師(日本文学、文学・ 演劇・クリエイティブ・ライ ティング学部)	テキスト、イラスト、前衛芸術の交 差。ジェンダーと身体。現代日本文 学における女性作品と翻訳

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 歴史
- 政治／国際関係
- 伝統文化
- メディア
- 文学
- 美術

日本研究課程の特徴：

イースト・アングリア大学の日本学センターは日本理解への学際的アプローチを重視して世界的な地位を確立しており、セインズベリー日本藝術研究所との協力関係によって、日本の芸術的、文化的遺産の理解を教育と研究の中心に置いている。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務		X			
学会発表		X			
論文査読／編集			X		
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数：

常勤職員：13名
非常勤職員：3名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部生：110名*
修士課程：12名
博士課程：2名

* 学部生数：日本語を中心として現代語学位課程の数；これに加えて、55名が現代日本史の単位を履修しており、さらに約50名が日本文学、日本の国際関係と外交政策の講義を受講している。

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：

データなし

複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：

データなし

日本／アジア研究を特に対象とした奨学金：

セインズベリー研究所奨学金は、芸術人文学部の学際的日本研究の修士課程の学生が対象で、学部のすべての学生が選考に応募できる。グレートブリテン・ササカワ財団大学院生奨学金は、日本学センターを通じて応募する。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

データなし

提携している日本の大学：

なし

交換留学協定を締結している日本の大学：

国際教養大学、学習院大学、北海道大学、国際基督教大学、関西大学、神戸女学院大学、京都大学、明治大学、明治学院大学、南山大学、岡山大学、大阪大学、立命館大学、龍谷大学、上智大学、東北大学、早稲田大学、横浜国立大学

中長期的な成長目標：

本学では2020年に新設された学際的日本研究の修士課程の学生数を2024年に向けて拡大していく計画であるが、これは新型コロナウイルス感染症の影響を受けるかもしれない。現在、芸術人文学部のすべての学部には日本関連の専門家がおり、他の学部でもこの機能を拡充する計画である。日本学センターは、セインズベリー日本芸術研究所がイースト・アングリア大学のメイン・キャンパスへ移転する予定の2024年に向け、UEAビジョン2030に沿って研究評価制度REF2027への計画を作成している。2024年にはセインズベリー・センター・フォー・ビジュアル・アートで日本をテーマにした企画展を計画している。日本研究における図書館の設備の強化を計画しているが、パンデミックによりオンライン教育を強いられた教訓から、電子書籍やデジタル教育設備を考慮する必要がある。日本関連のサマー・プログラムが成功したことから、これを今後も実施していきたいと考えている。イースト・アングリア大学はシビック・ユニバーシティ・ネットワークの一員として、地元社会とのプログラムを強化したいと考えている。日本語課程のプログラムとして国外留学の需要が高まっていることから、日本の大学との交換留学関係をさらに発展させていく必要がある。

追加情報：

特になし

マンチェスター大学

基本情報

担当学部：

美術・語学・文化学部

所在地：

The University of Manchester,
Oxford Road,
Manchester, M13 9PL

電話番号：

+44 (0)161 275 8129

メール：

ug.languages@manchester.ac.uk

ウェブサイト：

<https://www.alc.manchester.ac.uk/>

日本関連の学部課程：

BA

- 日本研究
- 中国語と日本語
- フランス語と日本語
- ドイツ語と日本語
- 言語学と日本語
- 政治学と日本語
- 社会学と日本語
- スペイン語と日本語
- 美術史と日本語
- 英語と日本語
- 映画研究と日本語
- 現代語学とビジネスとマネジメント(日本語)

BSc

- 解剖学(と副専攻の)現代語学
- 生化学(と副専攻の)現代語学
- 生物学(と副専攻の)現代語学
- 細胞生物学(と副専攻の)現代語学
- 遺伝学(と副専攻の)現代語学
- 生命科学(と副専攻の)現代語学
- 医学生理学(と副専攻の)現代語学
- 微生物学(と副専攻の)現代語学
- 薬理学(と副専攻の)現代語学
- 動物学(と副専攻の)現代語学

	<p>日本関連大学院課程：</p> <p>MA</p> <ul style="list-style-type: none"> - 翻訳・通訳研究 - 語学と文化 <p>PhD</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本研究
--	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
エリカ・バフェッリ 博士 Dr Erica Baffelli	上級講師(日本研究)	現代日本の宗教、新興宗教と「新」新興宗教、宗教とメディア、宗教とインターネット
ジョナサン・バント Mr Jonathan Bunt	上級講師(日本語)	日本語、翻訳、映画、テレビドラマ
ピーター・ケイブ 博士 Dr Peter Cave	上級講師(日本研究)	現代日本の教育改革、日本の自己像、日本の教育史、日本の初等教育、日本の政治と教育、課外教育(特に学校のクラブ活動)、教育史、子供時代、日本の若者
ルパート・コックス 博士 Dr Rupert Cox	上級講師(社会科学部)	米軍基地騒音、日本とアジア太平洋における太平洋戦争の記憶、16世紀の日欧間の視覚的・物質的交流、禅と禁欲主義と日本の伝統美術、禅と静寂と日本の場所
保明綾博士 Dr Aya Homei	講師(日本研究)	現代および近代日本の医学史、助産師、真菌感染症、放射線障害への医学的反応、第五福龍丸事件、人口管理と家族計画

アリヤン・カイザー博士 Dr Arjan Keizer	講師(国際人材管理・労使関係比較)	特に日本を中心とした、雇用環境と労使関係の比較研究。女性と派遣労働者、労働組合の役割
シャロン・キンセラ博士 Dr Sharon Kinsella	講師(日本研究)	社会学、若者、少女、アニメ
鈴木章悟博士 Dr Shogo Suzuki	上級講師	東アジアに関する国際関係論、日中関係、中国の外交政策、日本の外交政策、日中の和解
渡辺知花博士 Dr Chika Watanabe	講師(社会人類学)	開発、人道主義、NGO、宗教、世俗主義(特に神道)、倫理と道徳、スピリチュアル・エコロジー、災害

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 歴史
- 現代社会
- メディア
- 科学／技術
- その他
宗教

日本研究課程の特徴：

課程の最終学年では目標言語で授業が行われ、読み書き議論はすべて日本語で行なわれる。課程では日本社会についての幅広い学術的論文を取り上げるという、意欲的な課題にも挑戦している。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義		X			
指導／相談			X		
運営業務		X			
学会発表			X		
論文査読／編集	無回答				
イベント企画運営			X		

教育業務に携わる職員数：

常勤職員：8名（講師5名と特別語学教員3名）
非常勤職員：0名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部生：125名（+国外在住40名）

修士課程：信頼できるデータなし*

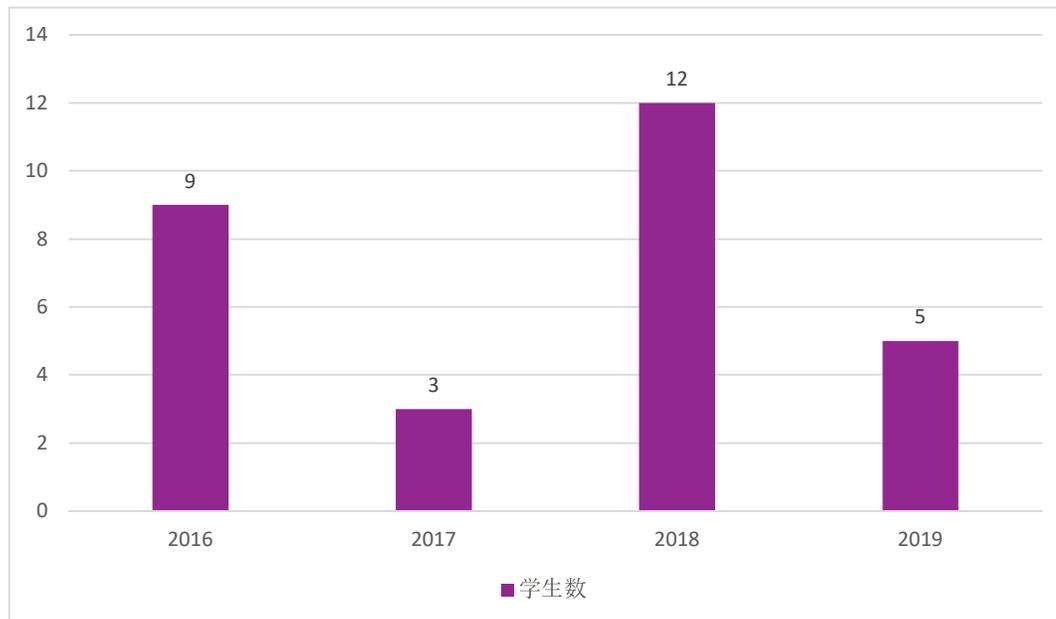
博士課程：3名

* 言語と文化の修士課程と翻訳学の修士課程では日本をテーマに選ぶ学生が毎年2～3名いる

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を特に対象とした奨学金：

なし

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

データなし

提携している日本の大学：

なし

日本の大学との交換留学協定：

中央大学、獨協大学、同志社大学、福岡女子大学、広島大学、一橋大学、北海道大学、国際基督教大学、神奈川大学、関西外国語大学、神戸大学、慶應義塾大学、関西学院大学、京都大学、明治大学、明治学院大学、南山大学、お茶の水女子大学、大分大学、大阪大学、立教大学、立命館大学、埼玉大学、東京大学、東京外国語大学、早稲田大学、山形大学

中長期的な成長目標：

より広い東アジア研究を含めて、教育活動を拡大し研究活動を発展させる（学部の課程と大学院の研究の両方に中国研究と東アジア研究の分野がある）

追加情報：

特になし

ニューキャッスル大学

基本情報

<p>担当学部： 現代語学部</p> <p>所在地： Old Library Building, Claremont Rd, Newcastle upon Tyne, NE1 7RG</p> <p>電話番号： +44 (0) 191 208 6000</p> <p>メール： sml@ncl.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.ncl.ac.uk/sml/</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none">- 日本研究- 日本語- 言語学(と副専攻の)日本語- 日本語(と共同学位の) <p>考古学 ビジネス 中国語 古典 教育 英語言語学研究 英文学 映画研究 ドキュメンタリー実践 フランス語 地理学 ドイツ語 歴史 美術史 メディアとコミュニケーション 音楽 哲学 政治学 ポルトガル語 社会学 スペイン語とラテンアメリカ研究</p>
--	---

	<p>日本関連の大学院課程：</p> <p>MLitt - 日本研究</p> <p>MPhil - 現代語学</p> <p>PhD - 現代語学・日本語</p>
--	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
フィリップ・ガレット博士 Dr Philip Garret	講師(日本史)	日本の出家による社会的・経済的権力、地方の歴史と中央と周辺の相互作用、古代と中世の犯罪と治安維持
ジット・ハンセン博士 Dr Gitte Hansen	上級講師(日本研究)	現代日本文学、漫画、アニメ、アートワーク、ポップ・カルチャー、ジェンダー研究、フェミニスト理論、規範性、摂食障害、自傷行為、暴力、キャラクター構築理論
吉岡史朗博士 Dr Shiro Yoshioka	講師(日本研究)	日本のアニメ、日本の近現代史、集合的記憶と媒介された記憶、日本の文化的アイデンティティ、郷愁と民衆史

調査への回答

日本研究課程の特徴：

- 語学
- 文学
- その他
ポピュラー・カルチャー

日本研究課程の特徴：

ポピュラー・カルチャー、留学先としての日本の大学の選択肢の多さ

職員評価において大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務	X				
学会発表	X				
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数：

常勤職員：7名
非常勤職員：3名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部生：データなし
修士課程：1名
博士課程：0名

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：

データなし

複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：

データなし

日本／アジア研究を対象とした奨学金：

本学の芸術学部はリバーヒューム財団、英国学士院、グレートブリテン・ササカワ財団からの助成金を日本関連の研究プロジェクトに優先的に配分している。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

データなし

提携している日本の大学：

なし

交換留学協定を締結している日本の大学：

20校以上

中長期的な成長目標：

大学院生の数を増やし、研究体制を維持する。

追加情報：

特になし

オックスフォード大学

基本情報

<p>担当学部： 東洋学部</p> <p>所在地： Pusey Lane, Oxford, OX1 2LE</p> <p>電話番号： +44 (0)1865 278200</p> <p>メール： orient@orinst.ox.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.orinst.ox.ac.uk/#/</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 日本語</p> <p>日本関連の大学院課程： MSC - 日本研究 MPhil - 日本研究 - 伝統的な東アジア Dphil - 地域研究</p>
--	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
インゲ・ダニエルズ博士 Dr Inge Daniels	准教授(社会人類学)	物質文化と視覚文化、日本(東アジア)の人類学、経済人類学、空間と建築環境の人類学、商品化、宗教的实践、民族誌学、展示デザイン
リンダ・フロレス教授 Prof Linda Flores	准教授(日本文学)	現代日本文学、プロレタリア文学(小林多喜二、平林たい子、宮本百合子)女性文学、ジェンダー理論、比較文学、原爆文学
ビヤルケ・フレレスビグ教授 Prof Bjarke Frellesvig	教授(日本言語学)	日本言語学、日本語と朝鮮語の比較言語学、歴史言語学、言語変化理論、音韻論

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ロジャー・グッドマン教授 Prof Roger Goodman	ニッサン教授(現代日本研究)	教育、家族政策、社会政策.
ジェニファー・ゲスト教授 Prof Jennifer Guest	准教授(日本語)	古代～中世日本文学、漢文
エカテリーナ・ヘルトグ博士 Dr Ekaterina Hertog	キャリア開発フェロー(日本の社会学)	家族、母親、結婚
マーガレット・ヒレンブランド博士 Dr Margaret Hillenbrand	准教授(現代中国語)	中国、日本、香港、台湾の文学と視覚文化
荻谷剛彦教授 Prof Takehiko Kariya	教授(日本社会の社会学)	社会学、教育、社会階層化、社会流動性
ウィリアム・ケリー博士 Dr William Kelly	助教(人類学部)	娯楽、ポピュラー・カルチャー、ポピュラー・カルチャー産業
ショウ・コニシ教授 Prof Sho Konishi	准教授(現代日本史)	現代日本史
イアン・ニアリー教授 Prof Ian Neary	学際領域研究学部長	20世紀の日本政治社会史、特に工業化と近代化の過程における部落社会の経験。東アジアの人権と現代日本政治
ヒース・ローズ博士 Dr Heath Rose	准教授(応用言語学)	言語教授法研究
酒向真理教授 Prof Mari Sako	教授(経営学)	グローバル戦略、経済社会学、比較ビジネス・システム、人的資源と労働市場、アウトソーシングとオフショアリング、法務サービス市場、制度分析、専門サービス会社のグローバル化
ジョナサン・サービス博士 Dr Johnathon Service	オキナガ・ジュニア・リサーチ・フェロー(日本研究)	日本史と音楽学

ヒュー・ウィットカー教授 Prof Hugh Whittaker	教授(日本経済・ビジネス)	経済行動、イノベーションのマネジメント、比較社会経済学的コンテキストにおける企業統治と起業家精神
ピーター・ウィン・カービー博士 Dr Peter Wynn Kirby	研究員	環境人類学、日本における環境への取り組みと社会的行動
山浦ちぐさ博士 Dr Chigusa Yamaura	研究員・教員	現代日本の人類学;ジェンダー、家族、ライフコースへの期待、母性、生殖、育児、出産、および東アジアにおける移民、植民地時代の記憶、トランスナショナリズム

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 言語学
- 伝統文化
- 歴史
- 文学

日本研究課程の特徴：

最高水準の語学教育／教授。文語習得が必須。言語と日本関連コンテンツを等しく強調。気鋭の研究者による幅広い専門研究。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務		X			
学会発表		X			
論文査読／編集		X			
イベント企画運営			X		

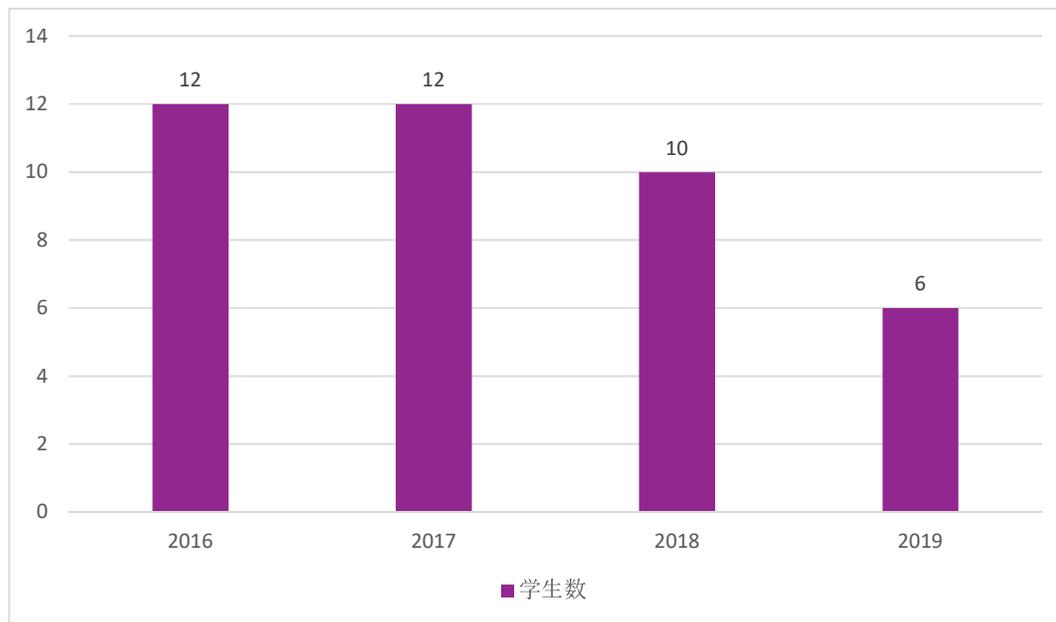
教育業務に携わる職員数：

常勤職員:13名
非常勤職員:7名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部生:55名
修士課程:3名
博士課程:7名

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：

データなし

日本／アジア研究を対象とした奨学金：

グレートブリテン・ササカワ財団と、学生支援基金。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

非常に多様であり、正確なデータはない。

提携している日本の大学：

なし

交換留学協定を締結している日本の大学：

本学部：神戸大学；その他多くの大学と非公式の協定を結んでいる。オックスフォード大学としてはその他多くの大学と協定を結んでいる。

中長期的な成長目標：

日本語のテニユア教員を1名追加

追加情報：

特になし

オックスフォード・ブルックス大学

基本情報

<p>担当学部： 英語・現代語学部</p> <p>所在地： Tonge Building, Headington Campus, Oxford, OX3 0BP</p> <p>電話番号： +44 (0)1865 483748</p> <p>メール： english.languages@brookes.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.brookes.ac.uk/english-languages/</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 日本研究 - 日本研究(と共同学位の) 英語と言語学 歴史 国際関係</p> <p>日本関連の大学院課程： なし</p>
---	---

研究関心に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
ジェイソン・デンリー博士 Dr Jason Danely	上級講師(日本の人類学)	日本の高齢化と日本の人類学
ジョン・ロー・ブレリオ Mr John Lo Breglio	上級講師(日本研究)	明治時代(1868～1911年)の曹洞宗の教義的、儀式的、制度的な近代化
藤野華子博士 Dr Hanako Fujino	暫定プログラム長(現代語学)	日本語文法の詳細、特に学習者にとって日本語が最初の外国語である場合。留学を通じた異文化能力の育成

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

アレクサンダー・ ジェコビー博士 Dr Alexander Jacoby	上級講師(日本研究)	日本の古典映画
ルセラ・マツナガ 博士 Dr Louella Matsunaga	プログラム長(人類学・地 理学)	日本企業内のジェンダー、ブランデ ィング、日本国外の日本の宗教
ケリー・ラッセル 博士 Dr Kerri Russell	上級講師(日本語と言語 学)	日本の言語学と「オックスフォード上 代日本語コーパス」

調査への回答

日本研究課程の特徴：

- 語学
- 言語学
- 歴史
- 現代社会
- 伝統文化
- メディア
- 美術
- 文学
- その他

英語・現代語学部では日本の人類学は教えられていないが、日本研究を強みとする人類学部と協力して、学生は人類学部が提供する日本関連の科目単位を履修することができる。

日本研究課程の特徴：

言語と文化の間の研究のバランス。日本研究と人類学との協力。特に最終学年では、日英両方での就業能力を重視。欧日研究センターで開催されているゲスト講師による講演プログラム。伝統工芸職人により建造された本格的な和室。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談		X			
運營業務		X			
学会発表		X			
論文査読／編集			X		
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数：

常勤職員:7名
非常勤職員:4名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

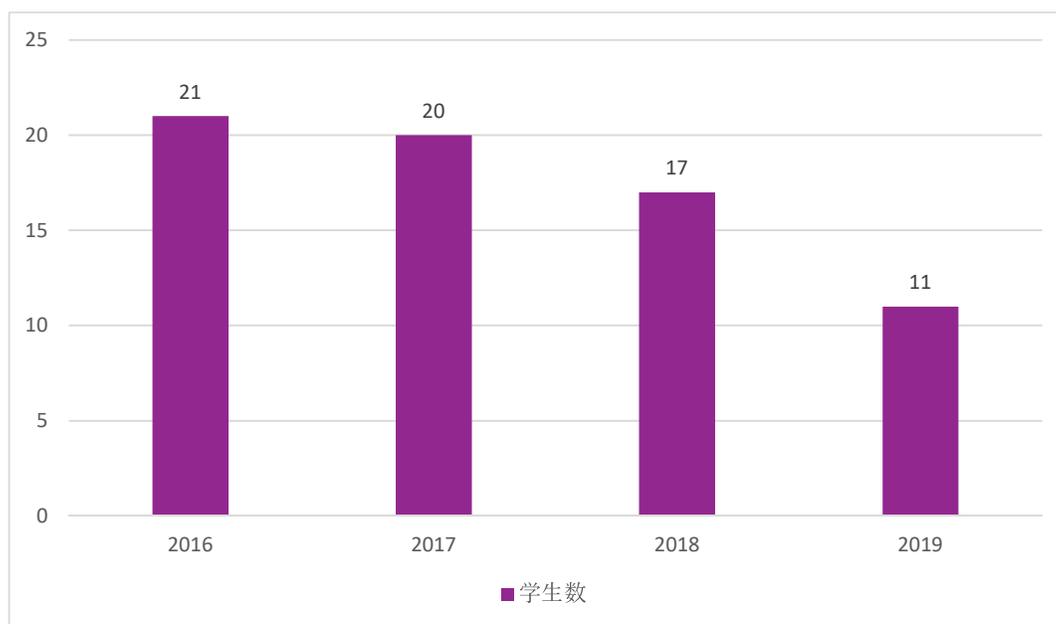
学部生：180名

修士課程：0名*

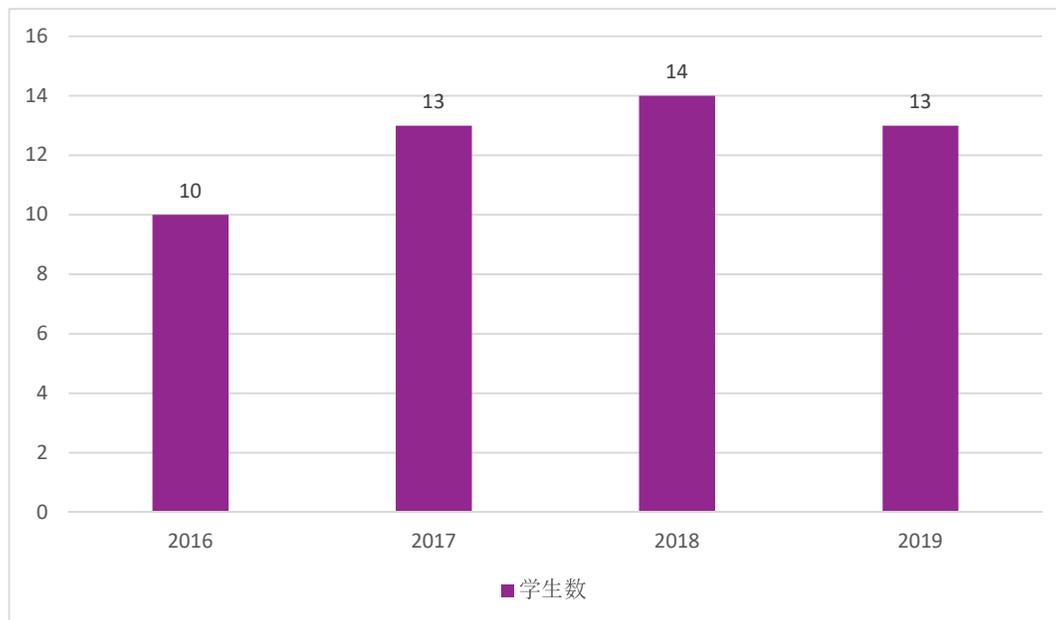
博士課程：0名*

*現在、英語・現代語学部には日本をテーマに研究する大学院生はいないが、人類学部では日本関連のトピックを研究する大学院生が2名いる。

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

なし

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

卒業生はさらに研究を続けたり、日本で教職に就いたり、翻訳などの分野や日本語能力の要求されるさまざまな職業環境で職に就いている。

提携している日本の大学：

なし

交換留学協定を締結している日本の大学：

交換留学協定を結んでいるのは、愛知淑徳大学、青山学院大学、学習院大学、北九州大学、京都外国語大学、明治学院大学、長崎大学、名古屋外国語大学、桜美林大学、龍谷大学、成蹊大学、筑波大学、都留文科大学、山梨大学。

中長期的な成長目標：

本学は入学する学生数ですでに英国最大の日本語学科であり、この既存の強みを維持したいと考えている。社会言語学的、語用論的なコンテキストで学生の日本語理解を深め、発展させることを主眼とした新しい授業を導入しつつある。

追加情報：

特になし

シェフィールド大学

基本情報

<p>担当学部： 東アジア学部</p> <p>所在地： Jessop West, 1 Upper Hanover Street, Sheffield, S3 7RA</p> <p>電話番号： +44 (0)114 222 8400</p> <p>メール： seas@sheffield.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.sheffield.ac.uk/seas</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本研究 - 東アジア研究 - 日本研究と歴史 - ビジネス・マネジメントと日本語 - 言語学(と副専攻の)日本研究 - 韓国研究(と副専攻の)日本語
	<p>日本関連の大学院課程：</p> <p>MA</p> <ul style="list-style-type: none"> - 東アジアのビジネス - 国際関係と東アジア - 東アジアの政治とメディア

研修対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
ジェニファー・コーツ博士 Dr Jennifer Coates	上級講師	日本映画
ジェイミー・コーツ博士 Dr Jamie Coates	講師(東アジア研究)	東アジアのコスモポリタニズムの民族誌、中国人の日本への移住

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ヒューゴ・ドブソン 教授 Prof Hugo Dobson	教授(日本の国際関係)	国際関係、多国籍組織、グローバル・ガバナンスにおける日本の役割
マージョリー・ドライバーク博士 Dr Marjorie Dryburgh	講師	日中関係
クリスチャン・ホーケン博士 Dr Kristian Hauken	ティーチング・アソシエイト(東アジア研究)	日本の国際関係、国際関係論、国際関係における地位、名声、汚名
ピーター・マタヌル博士 Dr Peter Matanle	上級講師	大規模組織における正規雇用の理論と実践。ポピュラー・カルチャーにおける仕事と表現。脱工業化社会における農村開発
トマス・マコーリー博士 Dr Thomas McAuley	講師	文語体の言語学と文学。翻訳。日本のポピュラー・カルチャー
マーク・ペンドルトン博士 Dr Mark Pendleton	講師	20世紀日本の歴史。ジェンダーとセクシュアリティの歴史。国境を越えた社会運動の歴史。暴力の政治。記憶と歴史の関係
ケイト・テイラー＝ジョーンズ教授 Prof Kate Taylor- Jones	教授(東アジア映画)	日本映画、植民地時代の映画、視覚文化におけるジェンダー、女性監督、売春、視覚文化における性産業と性的人身売買、映画・文学・パフォーマンスアートを含む視覚文化における身体の問題
マーティン・スミス博士 Dr Martyn Smith	講師	日本とアジアの音の研究と技術の歴史
植松のぞみ博士 Dr Nozomi Uematsu	講師	感動、幸福と新自由主義。現代女流文学。ジェンダーとセクシュアリティの交差
渡辺“リチャード”宏彰博士 Dr Hiroki Richard Watanabe		日本／比較政治経済学と東アジアの国際関係
アンナ・バイノ博士 Dr Anna Vaino	ティーチング・アソシエイト	現代農村地域。ジェンダーと国と市民の関係

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 歴史
- 政治／国際関係
- 社会学
- メディア
- 文学

日本研究課程の特徴：

社会科学と人文科学のトピックの融合。幅広い応用可能な技能の習得、日本専門単位とともに幅広い東アジア研究単位を履修する機会。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談		X			
運営業務	X				
学会発表			X		
論文査読／編集			X		
イベント企画運営			X		

教育業務に携わる職員数：

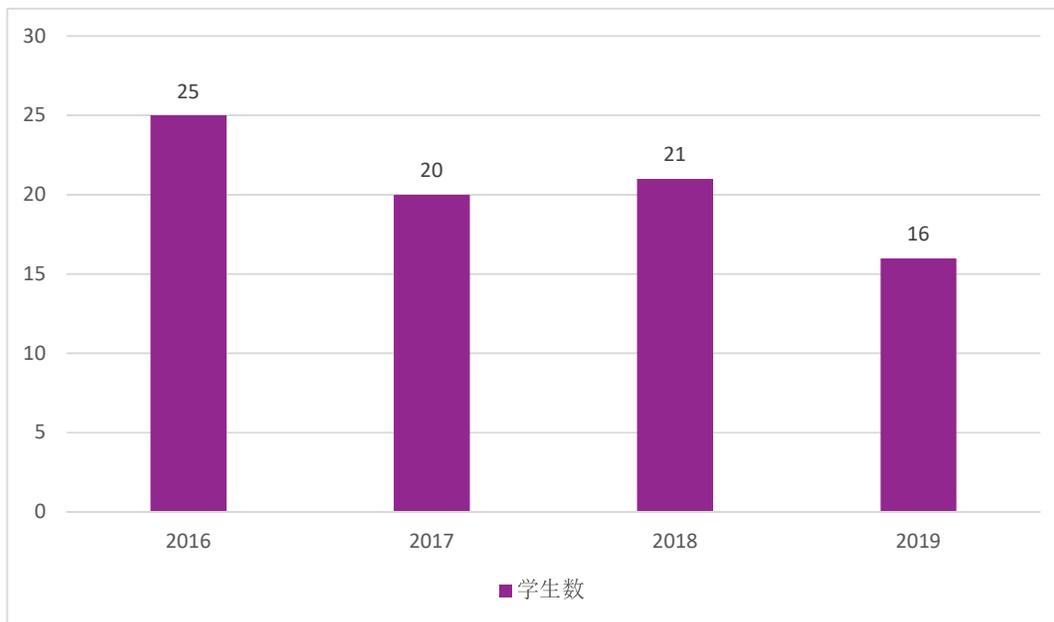
常勤職員：45名
非常勤職員：9名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部生：100名
修士課程：0名*
博士課程：9名

*日本専門の修士課程はない。修士課程の学生は350名以上おり、すべての科目単位に日本コンテンツがある。

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を特に対象とした奨学金：

経済社会研究会議 ERSC White Rose Doctoral Training Partnership
芸術・人文科学研究会議 AHRC White Rose College of the Arts and Humanities
グレートブリテン・ササカワ財団。詳細は下記参照：
<https://www.sheffield.ac.uk/seas/postgraduate/phd/fees-scholarships>

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

データなし

提携している日本の大学：

帝京大学

交換留学協定を締結している日本の大学：

国際教養大学、青山学院大学、中央大学、同志社大学、広島大学、北海道大学、法政大学、国際基督教大学、金沢大学、慶應義塾大学、神戸大学、京都大学、九州大学、明治大学、名古屋大学、岡山大学、大阪大学、小樽商科大学、立教大学、立命館大学、琉球大学、成城大学、上智大学、東北大学、東京大学、筑波大学、早稲田大学、山口大学、横浜国立大学

中長期的な成長目標：

本学は、デジタルメディア、東アジアのクリエイティブ産業、政治、IR に特に重点を置いて成長したいと考えている。現在、東アジア研究の分野で新しい職を募集しており、日本の専門知識を持つ人材を期待している。

追加情報：

今年は新型コロナウイルスの混乱により日本への国外留学も大きく変更された。どこも困難な時期であるが、学位の課程から国外留学がなくなるのに対応するため、大幅な変更を余儀なくされた。

ロンドン大学 SOAS

SOAS は日本研究の学生と研究者で最大の数を擁する。日本関連の研究はいくつもの学部で行われており、4学部を以下に紹介する。

基本情報

<p>担当学部：</p> <p>研究は日本研究センター(JRC)傘下で行なわれている。さまざま学部で日本関連の課程を提供している。</p> <p>所在地：</p> <p>10 Thornhaugh Street, Russell Square, London, WC1H 0XG</p> <p>電話番号：</p> <p>+44 (0)207 637 2388</p> <p>メール：</p> <p>undergradadmissions@soas.ac.uk postgraduateadmissions@soas.ac.uk centres@soas.ac.uk</p> <p>ウェブサイト：</p> <p>https://www.soas.ac.uk/</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none">- 日本語- 日本語(と副専攻の) <p>開発学 経済学 歴史 美術史／考古学 国際関係 言語学 音楽 政治学 社会人類学 世界の哲学</p> <ul style="list-style-type: none">- 東アジア研究- 東アジア研究(と共同学位の) <p>開発学 経済学 歴史 美術史 国際関係 法学 言語学 音楽 政治学 社会人類学 世界の哲学</p>
--	--

	<p>日本関連の大学院課程：</p> <p>MA</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本研究 - 日本研究と集中語学 - 美術史と東アジアの考古学 - 美術史と東アジアの考古学と集中語学 - 東アジアのグローバル外交 - 翻訳研究 <p>MSC</p> <ul style="list-style-type: none"> - アジアの政治 <p>Mphil/PhD</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本研究 - 翻訳研究
--	---

研修対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
古川彰子博士 Dr Akiko Furukawa	准教授(日本語と応用言語学)	日本語と言語学.
アラン・カニングス博士 Dr Alan Cummings	上級ティーチング・フェロー(日本語)	前近代の日本語、文学、演劇、特に江戸時代と明治時代。戦後の音楽サブカルチャー
バーバラ・ピッツィコーニ博士 Dr Barbara Pizziconi	上級講師(日本語応用言語学)	日本語応用言語学。言語教授法。語用論的側面を重視した第二言語習得。言語の礼儀正しさ
クリストファー・ゲアタイス博士 Dr Christopher Gerteis	上級講師(現代日本史)	現代日本史、労働組合、労働運動、ジェンダー、日本近現代史。20世紀の社会的・文化的な歴史、特に消費者資本主義と歴史的記憶の交差
コスタス・ラパビツァス教授 Prof Costas Lapavitsas	教授(経済学)	銀行と金融の理論。経済思想史。日本の金融システム。教育分野には、銀行と金融、日本経済、経済思想史が含まれる

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ファビオ・ジジ博士 Dr Fabio Gygi	講師(人類学)	日本社会、物質文化、医療人類学、科学技術研究、文化史
フォーラム・ミタニ博士 Dr Forum Mithani	研究員	日本におけるジェンダーと母性の表現
グリゼルディス・キルシュ博士 Dr Griseldis Kirsch	講師(現代日本文化)	現代日本文化、特に関心があるのは、日本のメディアとポピュラー・カルチャー、「他者性」の表現、社会現象、戦争の記憶
ヘレン・マクノータン博士 Dr Helen Macnaughtan	上級講師(国際ビジネスとマネジメント)	現代日本における(そしてより広い東アジアのコンテキストにおける)経済、ビジネス、労働、人材管理の問題。研究対象は、日本におけるジェンダー問題と雇用に関連する幅広いトピックである
ルチア・ドルチェ博士 Dr Lucia Dolce	ヌマタ准教授(日本の仏教)	日本の宗教史、特に中世。日本の密教と宗教的実践の難解化。千年王国の著作と予言。カミとホトケの関連
マチコ・ニッサンケ教授 Prof Machiko Nissanke	教授(経済学)	南北経済関係、調整と開発、金融と開発、国際貿易と金融、アジアとアフリカにおける比較経済政策研究
有地芽湮博士 Dr Meri Arichi	上級ティーチング・フェロー	日本美術史。前近代日本の宗教美術
佐藤=ロスベアグ・ナナ博士 Dr Nana Sato-Rossberg	講師(翻訳研究と日本語)	日本における翻訳研究の歴史、属間翻訳(漫画から映画へ)、口頭の物語や口述の翻訳、文化翻訳、翻訳と権力の関係

鈴木里奈博士 Dr Satona Suzuki	上級ティーチング・フェロ ー(日本語)	歴史、翻訳
宮村敏博士 Dr Satoshi Miyamura	講師(日本経済)	(インドと日本に関する)開発経済学、労働経済学、制度派経済学、労使交渉、経済学の研究方法
ウルリッヒ・ボルツ博士 Dr Ulrich Volz	准教授(経済学)	国際金融、開放経済マクロ経済学、金融市場の発展と安定性、開発と移行経済、グローバル経済ガバナンス、東アジア金融市場
篠沢義勝博士 Dr Yoshikatsu Shinozawa	上級講師(金融研究)	資産運用会社とその製品。企業統治、日本の銀行業界
サラ・パーソンズ博士 Dr Sarah Parsons	上級ティーチング・フェロ ー	国際ビジネスにおけるジェンダー、特に日本におけるジェンダーの役割
モニカ・ヒンケル博士 Dr Monika Hinkel	上級ティーチング・フェロ ー	明治時代の木版画、特に豊原国周
ジェニー・プレストン博士 Dr Jenny Preston	上級ティーチング・フェロ ー	日本美術
タイモン・スクリーチ教授 Prof Timon Screech	教授(美術史)	近世の日本美術。日本における英国東インド会社の歴史
フィリッポ・チェルベリ博士 Dr Filippo Cervelli	上級ティーチング・フェロ ー(日本近現代文学)	日本近現代文学と大衆文化にわたる個人的および社会的な危機の表現
ペレラ柴田奈津子博士 Dr Natsuko Shibata Perea	講師(日本語と言語習得)	語学教授法、第二言語習得研究、バイリンガリズム

アダム・ビンガム 博士 Dr Adam Bingham	上級ティーチング・フェロ ー	日本映画
--------------------------------------	-------------------	------

調査への回答

履修できる主な学科：

東アジア文化・言語学部

- 語学
- 言語学
- 歴史
- 現代社会
- メディア
- 文学
- その他
伝統演劇
前近代言語

ファイナンス・マネジメント学部

- ビジネスとマネジメント

経済学部

- 経済

美術学部(美術史・考古学科)

- 美術

歴史・宗教・哲学学部

- 歴史
- 現代社会
- その他
宗教

日本研究課程の特徴：

東アジア文化・言語学部

地域を横断する文化的・歴史的流れを特に注視する東アジア研究の一環として、厳格な語学と文化の教育を提供しつつ、日本とより広い地域のバランスをとっている。

経済学部

日本と日本語を専門とする人文科学と社会科学のさまざまな分野にわたる専門知識。

美術学部(美術史・考古学科)

美術史・考古学科にはアジアとアフリカの美術史と考古学の世界的専門家がおり、その画期的な研究は教育にも反映されている。学生は教員の比類なき知識と熱意から恩恵を受けている。美術学部の一員として、歴史的および現代的なコンテキストでアジア、アフリカ、中東の音楽、映画、メディアを研究している学生や研究者の洞察から恩恵を受けている。アジア、中東、アフリカの歴史的芸術と現代芸術を専門とする数少ないグローバル・センターの1つである。

歴史・宗教・哲学学部

研究の幅／研究をベースとした教育

ファイナンス・マネジメント学部

地政学と国際貿易、経済発展と政策、雇用、ジェンダー、人口動態、エネルギー、産業セクターなど、重要な問題への洞察とともに、過去と現在の日本のビジネス(および経済)の研究を提供している。

職員評価における大学業績目標の重要度：

東アジア文化・言語学部

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務	X				
学会発表	X				
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

経済学部

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務	X				
学会発表		X			
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

美術学部(美術史・考古学科)

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務		X			
学会発表	X				
論文査読／編集	X				
イベント企画運営	X				

歴史・宗教・哲学学部

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務	X				
学会発表	X				
論文査読／編集	X				
イベント企画運営		X			

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ファイナンス・マネジメント学部

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務	X				
学会発表			X		
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数*

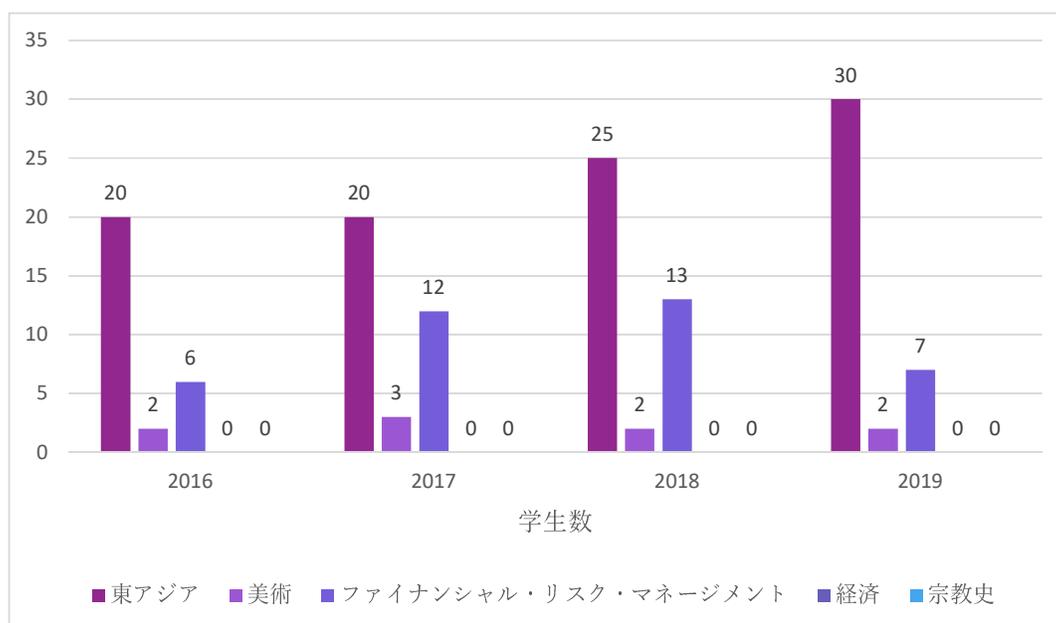
*これは研究対象に日本を含む教員とは別である。すべての研究職員が教育義務を負っているわけではなく、すべての教員が日本関連の研究を行なっているわけではない。

学部	常勤職員	非常勤職員
東アジア文化・言語学部	8	4
経済学部	16	5
美術学部(美術史・考古学科)	1	2
歴史・宗教・哲学学部	25	0
ファイナンス・マネジメント学部	2	0
	52	11

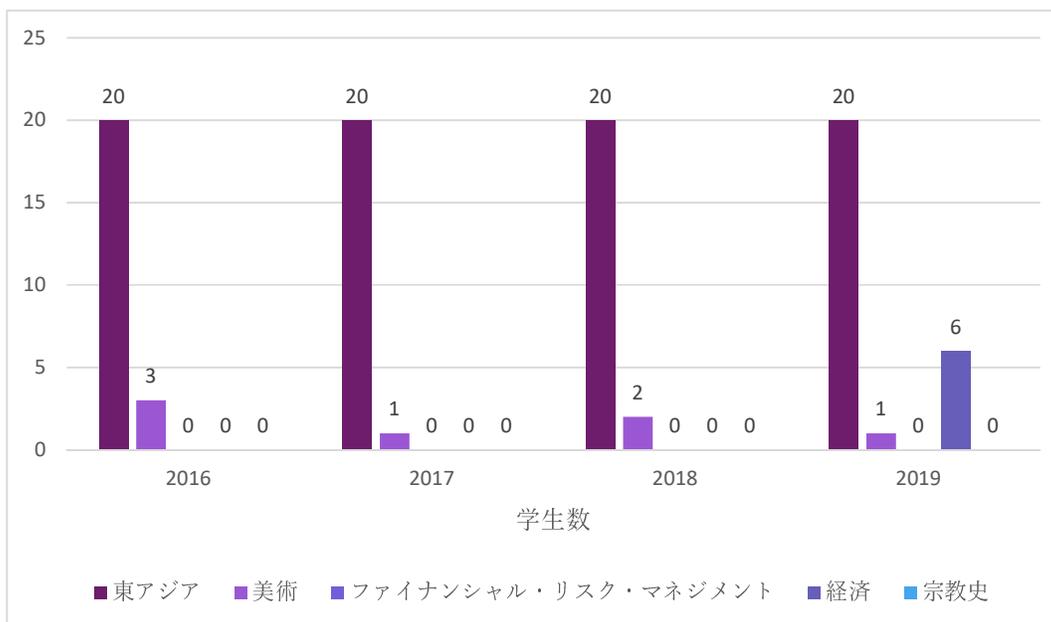
日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部	学部生	修士課程	博士課程
東アジア文化・言語学部	200	50	10
経済学部	0	2	5
美術学部(美術史・考古学科)	5	1	4
歴史・宗教・哲学学部	0	15	1
ファイナンス・マネジメント学部	16	5	2
	221	73	22

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

東アジア文化・言語学部

はい、JRC ふわく奨学金

経済学部

はい、G.C.アレン賞：1983年にG.C.アレン教授の依頼により「東アジアまたは東南アジアの経済または経済史の課程で最も功績のある研究を発表した学部生、特に日本をテーマとした候補に優先して賞与する」として創設。日本世界銀行共同大学院奨学金プログラム(JJWBGSP)：開発途上国出身または開発途上国で働く中堅専門家の、開発関連のトピックを研究する修士課程への奨学金。

歴史・宗教・哲学学部

日本の宗教／仏教についての大学院での研究に給付される CSJR bursary

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ファイナンス・マネジメント学部

学生は日本研究センター奨学金(明治神宮、グレートブリテン・ササカワ財団、JRC の助成)に応募できる。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

卒業生の就職について正確なデータを提供することはできません。

提携している日本の大学：

全学部

東京外国語大学、立命館大学

日本の教育機関から JRC 客員研究員がサバティカルに SOAS へ来ます。

交換留学協定を締結している日本の大学：

全学部

約 20 校と交換留学協定を結んでいる。

経済学部のみ

経済学部は一橋大学と神戸大学と学部協定を結んでいる。

中長期的な成長目標：

東アジア文化・言語学部

学部全体で入学する学生を拡充し続ける

経済学部

日本を含むアジアを研究する学部生と大学院生を拡大する

国際交流基金ロンドン日本文化センター

2020年度日本研究機関調査

歴史・宗教・哲学学部

世界の音楽の練習と上演、メディアと映画、博物館学と展示、文化とクリエイティブ産業は、成長している分野である。

ファイナンス・マネジメント学部

日本のビジネス研究は、東アジアのビジネス研究とより広く融合しつつある。

追加情報：

特になし

グループ2の大学

グループ2の大学は、複数専攻学位としてのみ(または、より広い地域研究の学位の一部として)日本研究の課程を、学部もしくは大学院で提供する大学である。

カーディフ大学

基本情報

<p>担当学部： 現代語学部</p> <p>所在地： 66a Park Place, Cardiff, CF10 3AS</p> <p>電話番号： +44 (0)29 2087 4889</p> <p>メール： modernlanguages@cardiff.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.cardiff.ac.uk/modern-languages</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BSc - ビジネス研究と日本語</p> <p>BA - フランス語と日本語 - ドイツ語と日本語 - 国際関係と政治学(と語学) - イタリア語と日本語 - スペイン語と日本語 - 現代語学と翻訳</p>
	<p>日本関連の大学院課程：</p> <p>MA - 翻訳</p>

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
マックス・デーグ 教授 Prof Max Deeg	教授(仏教史)	仏教史と、インドから中央アジアと東アジアへの仏教の広がり
クリストファー・フッド博士 Dr Christopher Hood	准教授(日本研究)	航空、アイデンティティと象徴、日本の教育制度、新幹線、日本航空123便墜落事故
ラッセル・ミード博士 Dr Ruselle Meade	講師(日本研究)	日本科学技術史

稲葉美穂博士 Dr Miho Inaba	上級講師(日本研究)	自律的言語学習、言語学習の動機づけ、リテラシー、言語学習と教育のための社会文化理論
稲川繭子博士 Dr Mayuko Inagawa	講師(日本語)	現代日本における言語接触と変化および言語使用
マユ・メグミ=ハンドフォード Ms Mayu Megumi-Handford	講師(日本研究)	ポピュラー・カルチャー・テキストの談話分析。言語における性同一性
イアン・ラプリー博士 Dr Ian Rapley	講師(東アジア史)	20世紀日本の文化的・知的歴史
ステファニー・スレイター博士 Dr Stephanie Slater	准教授(国際マーケティング)	アジアの経営慣行、文化、アジアにおける管理労働力アイデンティティの侵食と変化、日本のリーダーシップ、集団社会
梅村真希博士 Dr Maki Umemura	講師(国際ビジネス)	東アジアのフロンティア産業の進化。技術開発の形成における期待の役割。マーケット・カテゴリー

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 言語学
- 歴史
- 政治／国際関係
- 人類学
- 社会学
- 美術
- 経済学
- 科学技術
- メディア
- 文学

- 現代社会
- 伝統文化
- その他
象徴主義、災害、翻訳

日本研究課程の特徴：

日本と日本語を同時に教える革新的な方法を提供することを重視して、教員と学生の間
に素晴らしい関係を築いている。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義		X			
指導／相談		X			
運営業務		X			
学会発表			X		
論文査読／編集			X		
イベント企画運営			X		

教育業務に携わる職員数：

常勤職員: 5名
非常勤職員: 2名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：*

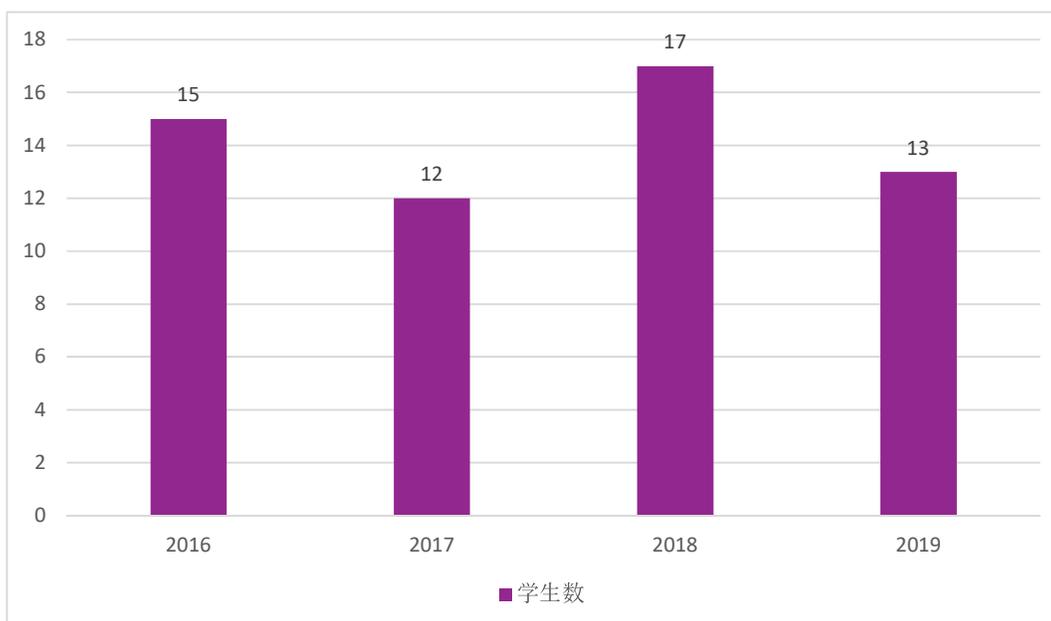
学部生:80名
修士課程:1名
博士課程:1名

* 日本や日本語に関連する専門の修士課程はないが、本学部の2つの修士課程を履修している学生が少なくとも1人は日本を研究することが多い。また、日本関連の活動や教育／研究は他の学部でも行なわれている。さらにどの学部の学生でも受講できる語学プログラムがある。日本語はこのプログラムで最も人気のある言語の一つだが、学生と職員の人数は上記のデータには含まれていない。

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：

単一専攻学位は提供していないので、データなし。

複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

なし

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

卒業生は英国と日本を中心にさまざまな職に就いている。大学院へ進む者もいる。
JETプログラムに行く者も数人いる。

提携している日本の大学：

なし

交換留学協定を締結している日本の大学：

中央大学、獨協大学、成蹊大学、東京大学、東洋大学、国際基督教大学、慶應義塾
大学、明治大学、早稲田大学、横浜国立大学、立命館大学、神戸大学、関西学院大
学、広島大学、北九州大学

中長期的な成長目標：

学部生と大学院生の数を少しずつ増やし続ける。

追加情報：

特になし

セントラル・ランカシャー大学

基本情報

<p>担当学部： 人文科学・言語・グローバルスタディーズ学部</p> <p>所在地： University of Central Lancashire, Adelphi Building, Preston, PR1 2HE</p> <p>電話番号： +44 (0)177 289 2400</p> <p>メール： cenquiries@uclan.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.uclan.ac.uk/subjects/languages-and-global-studies</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none"> - アジア太平洋研究(日本語) - 現代語学 - 英語と現代語学 - TESOLと現代語学 <p>日本関連の大学院課程：</p> <p>MA</p> <ul style="list-style-type: none"> - 東アジア研究 - 翻訳と通訳
---	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
エド・グリフィス博士 Dr Ed Griffith	講師(アジア太平洋研究)	日中関係、東アジアの国際関係、靖国神社論争
ロバート・カシャ博士 Dr Robert Kasza	講師(日本研究)	日本語学と教授法(eラーニング)
ツーシー・ユー博士 Dr Zixi You	准講師	デジタル人文科学、言語学、日本／中国研究

ビル・ミハロポロス 博士 Dr Bill Mihalopoulos	講師(東アジア研究)	東南アジアにおける日本と欧州の帝国主義の共生、セクシュアリティとジェンダー、労働力の移動と人身売買
--	------------	---

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 言語学
- 歴史
- 人類学
- 現代社会
- 伝統文化
- メディア
- 美術
- 文学
- 科学技術
- 翻訳研究

日本研究課程の特徴：

日本語、文化、歴史を包括的に探求しつつ、就業能力(翻訳/通訳、ビジネス日本語)に直結する課程を提供している。学生はキャンパスで日本文化のさまざまな側面を体験することができ(例えば「ジャパン・ウィーク」文化フェスティバル)その後、約30校ある日本の提携大学に留学する。研究主導の教育プログラムは誇りで、講師は積極的に研究を行ない、さまざまな科目単位(談話分析、ジェンダーと言語、翻訳理論と実践、歴史と政治)の教育に自身の専門知識を取り入れている。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表		X			
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務	X				
学会発表		X			
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数：

常勤職員：7名
非常勤職員：該当なし

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：*

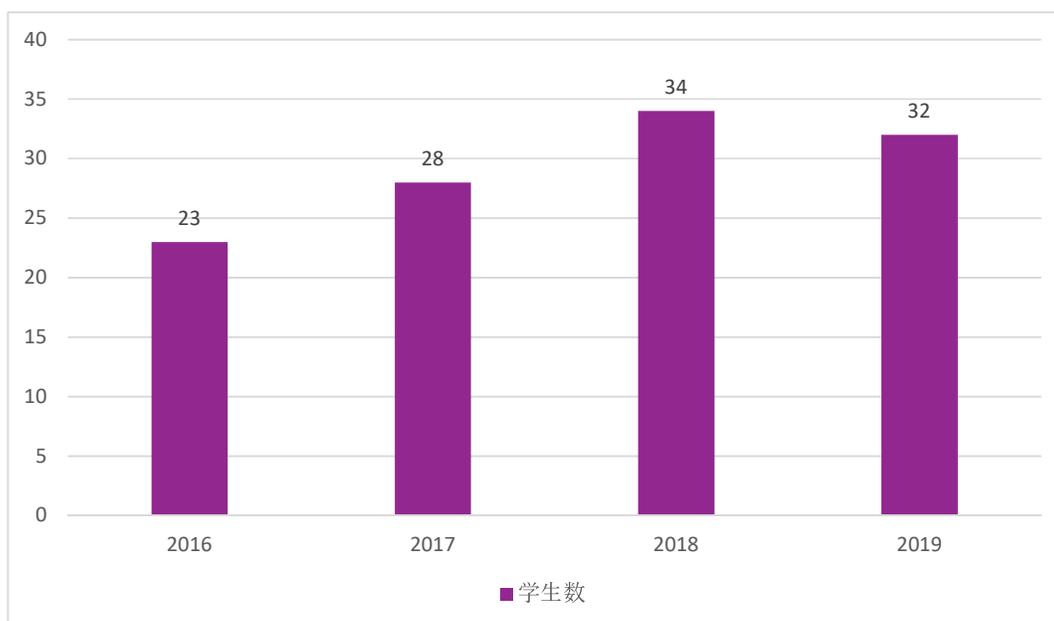
学部生：166名
修士課程：0名
博士課程：1名

* 翻訳・通訳コースで修士課程の日本語コースを開発している。担当チームの教員は博士課程の指導教官も務めている。

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：

データなし

複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

本学部では申請手続きとビザ申請料金、渡航費を支援する留学奨学金を提供している。日本に数多くある提携大学での広範な留学の機会に加えて、学生は大学院での研究を支援するために日本政府の奨学金に応募することが奨励されている。また、大和日英基金や欧州日本研究協会にも候補者を推薦している。イバン・モリス賞のような学術賞を検討する機会もある。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

卒業生の就職先は、外交官、翻訳者、教師(英語、日本語)、管理職(コンピューターゲーム会社、旅行会社など)、日本の地方自治体の職員などに就いている。

提携している日本の大学：

なし

交換留学協定を締結している日本の大学：

北星学園大学、国際教養大学、宇都宮大学、神田外語大学、目白大学、東洋大学、大東文化大学、金沢大学、福井大学、名古屋外国語大学、金城学院大学、愛知県立大学、三重大学、龍谷大学、大阪国際大学、和歌山大学、武庫川女子大学、山口大学、西南学院大学、福岡大学、久留米大学、大分大学、長崎外国語大学、鹿児島国際大学、名桜大学

学生の交換留学のみの協定：熊本学園大学。
二重学位取得の交換留学協定：東京外国語大学

アジア太平洋研究の修士課程(合意済み)と学部生の交換留学(2022年合意予定)：
九州大学

中長期的な成長目標：

日本研究所を設立して、日本語の翻訳・通訳コースを設置し、学部課程として日本語とアニメの学位を創設する。

追加情報：

特になし

エディンバラ大学

基本情報

<p>担当学部： 文学・言語・文化学部</p> <p>所在地： 50 George Square, Newington, Edinburgh, EH8 9JU</p> <p>電話番号： +44 (0)131 651 5984</p> <p>メール： llc.reception@ed.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.ed.ac.uk/literatures-languages-cultures</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 日本語 - 日本語と言語学</p> <p>日本関連の大学院課程： MA - 日本語 - 日本語と言語学 - 国際ビジネス(と副専攻の)日本語 MScR - 日本語 MSc - 東アジア関係 PhD - 日本語 - 東アジア研究</p>
---	--

研修の対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
イアン・アストリー 博士 Dr Ian Astley	上級講師(日本語)	日本と中国の宗教と哲学、特に中国と日本の真言宗の伝統
クリストファー・ハーディング博士 Dr Christopher Harding	上級講師(アジア史)	日本と精神分析
松本スタート洋子 Ms Yoko Matsumoto-Stuart	講師(日本語)	日本語、翻訳、言語学

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

アーロン・ムーア 教授 Prof Aaron Moore	ハンダ講座(日中関 係)、アジア研究部長	日本、中国。ロシアの比較社会史
スティーブン・オ ズボーン教授 Prof Stephen Osbourne	ビジネス・スクール	国際パブリック・マネジメント議長
ヘレン・パーカー 博士 Dr Helen Parker	講師(日本語)	歌舞伎、古典文学(江戸時代の散 文、演劇、俳句)と近代文学
クリストファー・パ ーキンス博士 Dr Christopher Perkins	講師(日本語)	日本の国家アイデンティティと日本 のメディア。(日本と国外の)社会的 および政治的理論、記憶、国際関 係と国境、日本の新左翼の現代的 表現
ニック・プライアー 教授 Prof Nick Prior	教授(文化社会学)	初音ミク。ポピュラー音楽、デジタル 技術とポピュラー音楽制作の関係を 含む現代メディア、文化的専門知識 の形態の変化、技術的調停、日常 の慣行

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 歴史
- 政治／国際関係
- 人類学
- 現代社会
- 社会学
- 伝統文化
- 美術
- 文学
- その他
宗教

日本研究課程の特徴：

学生に日本研究の幅広い側面を学び、東アジアのコンテキストで日本を考える機会を提供している。アジア研究学科は日本、中国、朝鮮を比較する観点から研究する課程を提供している。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務	X				
学会発表		X			
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数：

常勤職員:9名

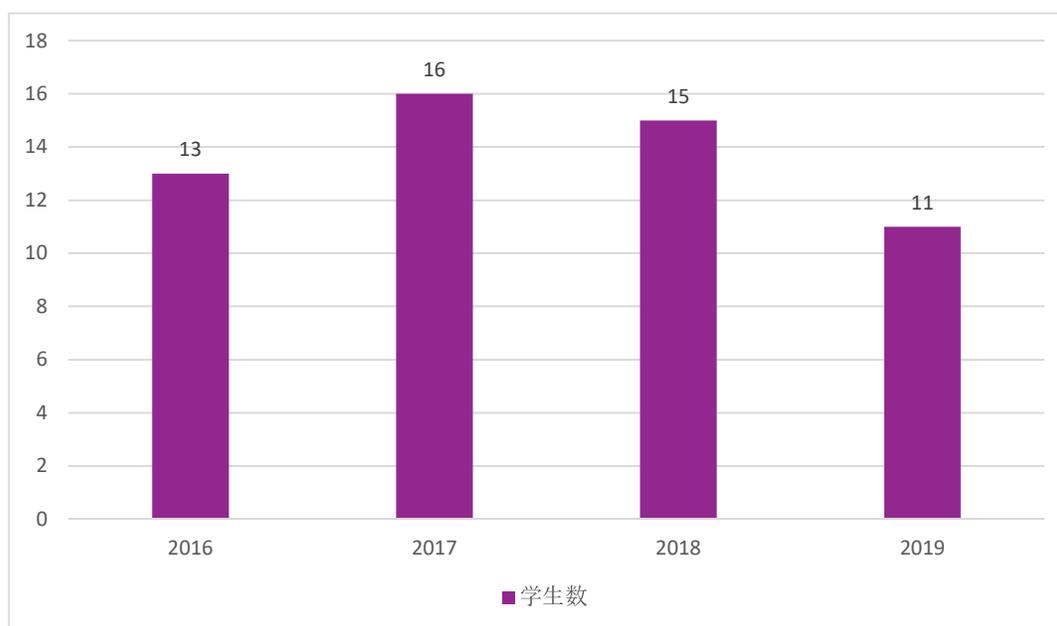
非常勤職員:6名

日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

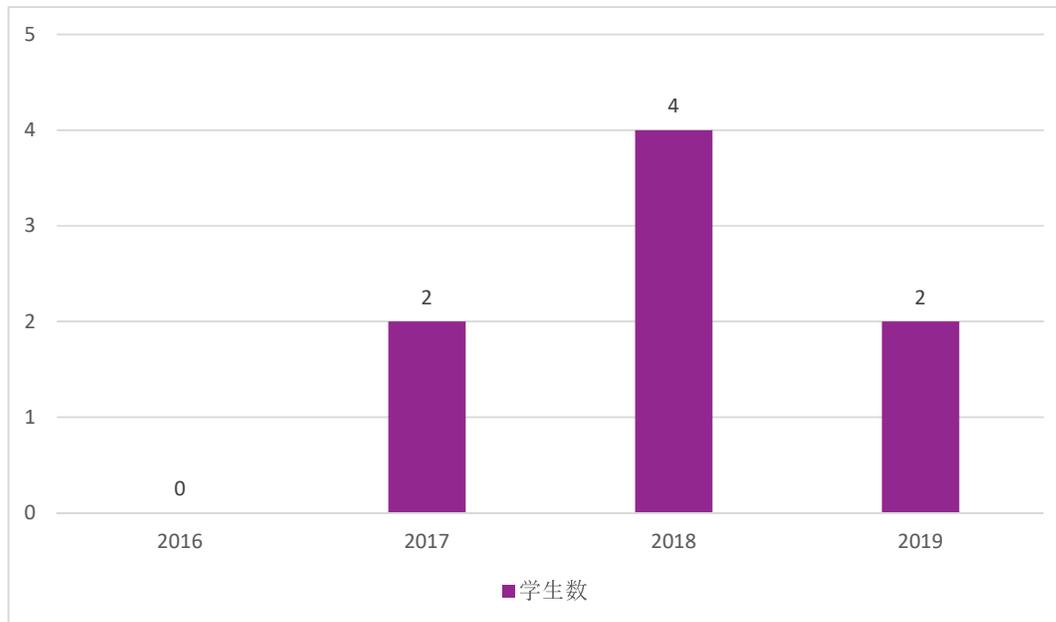
学部生:71名
修士課程:3名
博士課程:14名

- *1. 学部生の人数には休学が認められた学生は含まれていない。その数は新型コロナウイルス関連の問題のため通常より高くなっている。
- *2. 修士課程の日本社会と文化の課程学位は2020/21年には開講されなかったため、修士課程の人数は研究学位のみである。アジア研究の課程学位はすべて現在検討され再構築されている。

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



複数専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

1. 修士課程と博士課程の学生をササカワ日本研究奨学金に推薦することができる。
2. 韓国学中央研究院が資金提供しているスコットランド韓国学センターは、韓国学を専攻する大学院生に部分的な奨学金を提供したり、研究の関心に韓国が含まれる大学院生に(韓国学や東アジア関係の学生に応募資格がある)研究費や渡航費の支援がある。

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

エディンバラ大学は、2016/17年の高等教育修了者の追跡調査と、それに続く2017/18年の大学卒業生調査のためのデータ収集に参加している。データは高等教育統計局(HESA)によって管理・集計され、参加大学に配布されている。大学全体の回答率が低く、日本研究課程を卒業する学生数が比較的少ないため、学位課程レベルで信頼できる情報を推定することは困難である。GDPR 準拠も要因である。日本研究の職員は、卒業生に推薦状を書いたり知らせを受けたり、日本研究の卒業生支援組織による卒業生講演などの活動を通じて、就職活動の結果と就職先について大まかな傾向は把握しているが、公式の統計データではない。

提携している日本の大学：

なし

交換留学協定を締結している日本の大学：

学部生の交換留学協定を締結しているのは以下の通り：同志社大学、学習院大学、北海道大学、国際基督教大学、慶應義塾大学、関西学院大学、京都大学、岡山大学、立命館大学、成蹊大学、上智大学、筑波大学、早稲田大学、横浜国立大学

中長期的な成長目標：

学部生と大学院生の両方の学生数を増やし、Q4で強調された国境を超えた教育機関を築くことを目指している。

追加情報：

特になし

リーズ大学

基本情報

<p>担当学部： 言語・文化・社会学部</p> <p>所在地： Michael Sadler Building, University of Leeds, Leeds, LS2 9JT</p> <p>電話番号： +44 (0)113 34 33234</p> <p>メール： lcspg@leeds.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://ahc.leeds.ac.uk/languages</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none">- 日本語- アジア太平洋研究- アラビア語と日本語- アジア太平洋研究と日本語- イタリア語Bと日本語- 日本語とロシア語A- 中国と日本研究- 日本語とロシア語B- 現代語学(と共同学位の) <p>ビジネス 経済学 英語 映画研究 国際関係 言語学 哲学 政治学</p>
	<p>日本関連の大学院課程：</p> <p>MA</p> <ul style="list-style-type: none">- 応用翻訳研究- 視聴覚翻訳研究- 会議通訳と翻訳研究- ビジネスと公共サービス通訳と翻訳研究- 専門言語と異文化間研究

研究対象に日本を含む教員：

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
キャロライン・ローズ教授 Prof Caroline Rose	教授(日中関係)	日中関係(特に歴史問題)、日中の外交政策、日中の歴史と市民権教育
エイドリアン・ファベル教授 Prof Adrian Favell	教授(社会学と社会理論)	日本美術の社会学、移行.
ダンカン・マカーゴ教授 Prof Duncan McCargo	教授(政治学)	日本政治(焦点は現代タイ政治)
福岡真紀博士 Dr Maki Fukuoka	講師	日本美術と哲学の歴史
アイリーン・ヘイター博士 Dr Irene Hayter	講師(日本研究)	現代日本文学、映画、文化史。歴史的形態と文化的形態の関係(例えば、視覚、映画、現代性、モダニズム、高度資本主義)、文化理論
ジェウン・キム博士 Dr Jieun Kim	講師(日本研究)	日本と韓国における社会的疎外と差別。都市の貧困と社会的苦痛。社会運動。民族性と国民性。身体と健康。民族誌的方法
ジーハン・セリム博士 Dr Gehan Selim	准教授	建築:解放/抗議の空間
ポール・ウェイリー博士 Dr Paul Waley	上級リサーチ・フェロー	東京を含む比較の観点から見た現代の東アジアの都市

調査への回答

履修できる主な学科：

- 語学
- 歴史
- 政治／国際関係
- 現代社会
- メディア
- 文学
- その他
宗教

日本研究課程の特徴：

2年生に1年間の留学、2か国語（例えば、日本語と中国語、日本語とアラビア語、日本語とロシア語）を学ぶ複数専攻学位の学生は2年間の留学があり、幅広い科目（言語と非言語）を日本語とともに学べる。

職員評価における大学業績目標の重要度：

	非常に重要	重要	やや重要	あまり重要ではない	全く重要ではない
研究発表	X				
講義	X				
指導／相談	X				
運営業務		X			
学会発表		X			
論文査読／編集		X			
イベント企画運営		X			

教育業務に携わる職員数：

常勤職員:9名
非常勤職員:1名

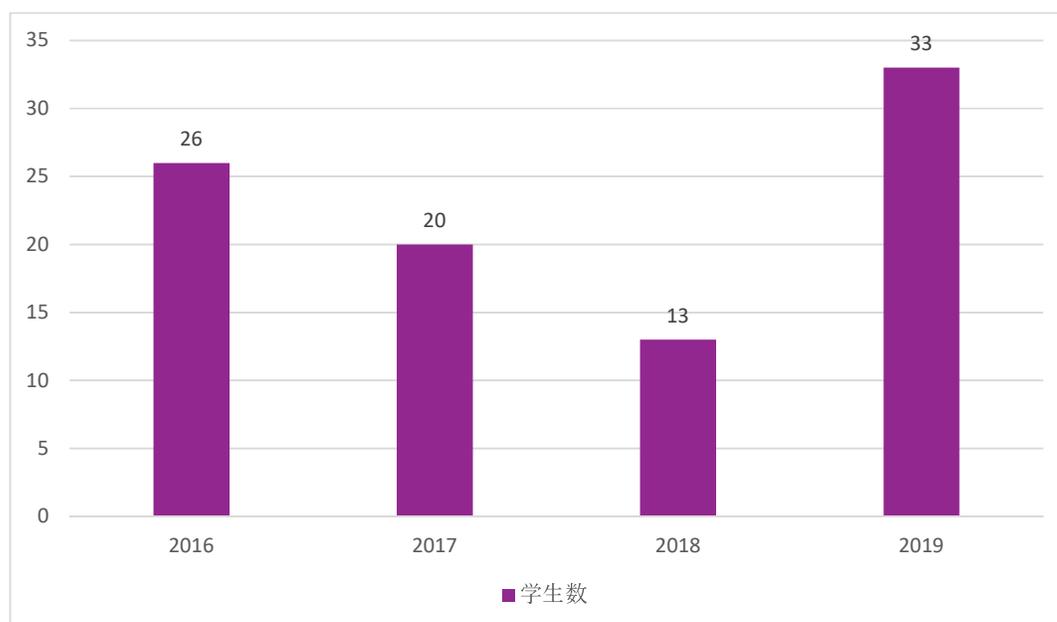
日本関連の学位課程を現在履修している学生数：

学部生:115名*
修士課程:0名
博士課程:2名

* 近年、日本語課程の学生の1年生は50-60名から始めている。

単一専攻学位として日本研究の課程を卒業した学生数：*

* リーズ大学は単一専攻学位と複数専攻学位を区分したデータを提供できない。このグラフは単一専攻学位と複数専攻学位の両方の人数である。



日本／アジア研究を対象とした奨学金：

なし

過去3年間に日本研究の課程を卒業した学生の就職先：

就職先はさまざまである：金融業、旅行業、製造業、英国・欧州各国・日本の公務員。JETプログラム(CIR & ALT)、日本食研ロンドン支店、愛知県のトヨタ紡織、神戸のプロクター&ギャンブル・ジャパンなど。

提携している日本の大学：

帝京大学

交換留学協定を締結している日本の大学：

国際教養大学、早稲田大学、法政大学、東京外国語大学、国際基督教大学、学習院女子大学、南山大学、同志社大学、関西外国語大学、甲南大学、神戸学院大学、大阪大学、九州大学、福岡大学、熊本大学

中長期的な成長目標：

なし

追加情報：

特になし

グループ3の大学

グループ3の大学は、人文科学、芸術または社会科学において日本関連の重要な研究を行なっている研究者が少なくとも一人はいる大学である。

バース・スパ大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
スティーブン・ボーン Mr Stephen Vaughan	上級講師(写真学)	日本の地震や地震学を含む写真

バーミンガム大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
ハリス・バイダー教授 Prof Harris Beider	教授(コミュニティと公共政策)	社会的結束、人種政治、住宅

ボーンマス大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
マクシン・ジー博士 Dr Maxine Gee	講師(脚本)	英米映画と日本アニメにおけるポスト・ヒューマン・ノワールの SF ジャンル
ジェイミー・マシューズ博士 Dr Jamie Matthews	上級講師(コミュニケーションとメディア)	2011年の日本の災害の国際ニュース報道
大江宏子博士 Dr Hiroko Oe	上級講師(マーケティング)	マーケティング、マネジメント、起業家精神

ブリストル大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
ミサ・イズハラ博士 Dr Misa Izuhara	准教授(政策学部、比較政策研究)	住宅と都市/社会の変化。家族の変化と社会政策。高齢化と世代間の関係
パトリア・ケネット教授 Prof Patricia Kennet	教授(比較政策研究と国際政策研究)	都市と国境を越えた研究、そして東アジアとヨーロッパ全体の社会政策

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ベネデッタ・ロミ博士 Dr Benedetta Lomi	講師(東アジアの宗教)	日本の仏教徒物質文化
コロンバ・ピープルズ博士 Dr Columba Peoples	上級講師(国際関係)	国際関係:批判的安全保障学、批判的理論、技術(2013年の日本の宇宙政策に関する研究)
山下順子博士 Dr Junko Yamashita	講師(現代日本社会)	社会政策、社会学、ジェンダー研究、市民社会。東アジアと欧州の福祉国家の比較社会政策分析
ヨンジン・ツァン教授 Prof Yongjin Zhan	教授(社会学・政治・国際研究学部の国際政治)	国際関係論と中国の歴史、政治、経済変革、国際関係。中国のグローバル企業の政治経済学と東アジアの地域主義、アジア太平洋地域の安全保障

バッキンガム大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
飛澤一弘博士 Dr Kazuhiro Tobisawa	名誉研究員	軍縮、グローバル・ガバナンス、外交、国際法。英国、日本、米国、スイス、豪州

ロンドン大学シティ校

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
デイナ・バーンズ博士 Dr Dayna Barnes	講師(現代史)	アジアにおける米国の外交政策
アンディ・プラット教授 Prof Andy Pratt	教授(文化経済学)	米欧日の文化産業の分析。文化産業の都市空間クラスター化。文化的、クリエイティブ産業の雇用の定義と測定。文化的、クリエイティブ産業のための政策立案

コベントリー大学

氏名	職位	研究対象
ニール・レニック教授 Prof Neil Renwick	教授(グローバル安全保障)	東アジア安全保障
フェリックス・ロシュ博士 Dr Felix Rosch	上級講師(国際関係)	「知の営み」についての歴史学、知識移転、日本の政治思想。公共圏、権力、社会批判の側面を概念化する

ダービー大学

氏名	職位	研究対象
スンヒー・リー博士 Dr Sung-Hee Lee	講師(社会学と社会政策)	「韓国、日本、中国、台湾などの東アジア諸国におけるジェンダー政治とケアの社会化」と題された東アジア社会

エッジ・ヒル大学

氏名	職位	研究対象
クリストファー・デント博士 Dr Christopher Dent	教授(経済学と国際ビジネス)	東アジア地域(中国、日本、韓国、東南アジア)が世界の経済システムに与える影響、特に貿易と貿易外交、エネルギー、気候変動、持続可能な開発、地域統合、国際ビジネス

エクセター大学

氏名	職位	研究対象
イザ・カベジヤ博士 Dr Iza Kavedzija	上級講師(人類学)	日本における人生の意味、モチベーション、人生の選択、幸福、老化、そしてライフコース

グラスゴー大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
ロバート・マスレン 博士 Dr Robert Maslen	上級講師	ファンタジーと幻想、16世紀と17世紀の英文学と日本のアニメ／漫画

ロンドン大学ゴールドスミス校

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
ラジャスリー・パン デイ博士 Dr Rajyashree Pandey	教授(日本研究)	中世と現代の日本におけるジェンダー、身体、セクシュアリティ。現代のポピュラー・カルチャー、特に漫画とアニメ。前近代の仏教を通じた世界の理解と、日本の「ポストモダン」状態の間の交差
玉利智子博士 Dr Tomoko Tamari	講師(社会学)	日本の文化と社会、消費者文化、女性、百貨店、美化、視覚社会学、身体

グリニッジ大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
ジョナサン・ルート 博士 Dr Johnathan Wroot	上級講師(映画研究)	日本映画、国境を越えた映画、映画の受容、映画やメディア内のジャンル、家庭用メディアのフォーマット、業界調査、特にアニメの配布、マーケティング、プロモーションのプロセス

ハイランド・アンド・アイランド大学

氏名	職位	研究対象
レスリー・メイボン 博士 Dr Leslie Mabon	上級講師(社会学)	地域、都市、地方レベルでの気候変動 適応のためのガバナンス(福岡)リスク、 環境インフラ、沿岸・海洋環境(福島)

ハダースフィールド大学

氏名	職位	研究対象
セーラ・ファルカス 博士 Dr Sarah Falcus	准教授(歴史・英語・言語学・音楽学部)	日英の児童書における認知症と高齢化の物語

キングス・カレッジ・ロンドン

氏名	職位	研究対象
林真由美博士 Dr Mayumi Hayashi	リバーヒューム若手フェロー	日英の政策と実践における認知症患者の参加、社会的市民権、権利、特に認知症に優しいイニシアチブ
アレシオ・パタラーノ博士 Dr Alessio Patalano	准教授(東アジア軍事)	日本の軍事史と戦略、東アジアの安全保障と海洋安全保障
エイタン・オレン博士 Dr Eitan Oren	ティーチング・フェロー(日本プログラム)	現代アジア安全保障、アジアの冷戦の歴史、驚異の認識、政治心理学

キングストン大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
スティーブン・バー バー教授 Prof Stephen Barber	教授(美術・デザイン史)	現代の都市文化、実験的な映画とパフォーマンスアートの文化。デジタル美術、インスタレーションとパフォーマンス。1960年代から現代までの日本の視覚文化
クリストファー・ホロックス教授 Prof Christopher Horrocks	准教授(美術・デザイン史)	日本と中国の現代アートと技術
一條都子博士 Dr Atsuko Ichijo	准教授(経済学・政治・歴史)	日欧のナショナリズムと民族意識
フラン・ロイド教授 Prof Fran Lloyd	大学院研究部長 および視覚・物質 文化研究センター 共同所長	日本の現代アートとアクティビズム

レスター大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
ジム・キング博士 Dr Jim King	講師(応用言語学)	日本の語学教育と教室の沈黙

リバプール・ジョン・ムーア大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
地村孝充博士 Dr Takamitsu Jimura	国際ツーリズム・マネジメント修士課程プログラム長	日英のツーリズム・マネジメント。遺跡と観光への影響

レックス・リー教授 Prof Rex Li	教授(国際関係)	東アジアの政治と安全保障のアイデンティティ
ニック・ホワイト教授 Prof Nick White	教授(植民地帝国と英連邦の歴史)	脱植民地化の歴史(特にマレーシア、シンガポール、インドネシア)および国際ビジネスの歴史(特に遠洋海運と日本の造船)

ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリ
ティカル・サイエンス

氏名	職位	研究対象
アンソニー・ベスト 博士 Dr Anthony Best	准教授	日英関係、太平洋戦争の原因、東アジアの国際史、現代日本史、インテリジェンスと国際史
ミッチェル・セジック 博士 Dr Mitchell Sedgwick	上級客員研究員 Senior Visiting Fellow	日本、経済人類学、グローバル化、組織の人類学、多国籍企業、異文化間の関係／民族主義と仕事、日本のマイノリティと疎外、災害人類学、津波後の日本

ラフバラ大学

氏名	職位	研究対象
玉置拓博士 Dr Taku Tamaki	講師(国際関係)	アジア太平洋地域の国際政治／国際政治経済学

ノーサンプトン大学

氏名	職位	研究対象
ウェンディ・バナー マン Mrs Wendy Bannerman	上級講師(教育学)	ニートの若者への介入に関する日本との比較研究

ノッティンガム大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
アンドルー・コビン グ博士 Dr Andrew Cobbing	准教授	東アジアの文化史、国際史、特に東西 関係と現代日本のコンテクスト
ジュリアン・ストリン ガー博士 Dr Julian Stringer	准教授	映画とテレビの文化的地理。東アジア映 画(中国、日本、韓国)、国際映画祭、国 境を越えた映画文化
スーザン・タウンゼ ンド博士 Dr Susan Townsend	准教授	日本の近代史、名古屋とバーミンガムの 自動車産業の空間的、経済的、社会的 発展

プリマス大学

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
ダレン・アオキ博士 Dr Darren Aoki	講師(世界史)	太平洋を横断した日本人ディアスポラの アイデンティティ。人種と民族が交差する ジェンダーとセクシュアリティを通じた現 代日本の文化史。戦後の男らしさと同性 欲
サンドラ・バーコフ 博士 Dr Sandra Barkhof	講師(歴史)	第一次世界大戦中、日本で戦争捕虜と なったドイツ人

リージェンツ大学ロンドン

<u>氏名</u>	<u>職位</u>	<u>研究対象</u>
エンジェルズ・トリア シバルス博士 Dr Angels Trias-i- Valls	ディレクター	コスモポリタニズム、ジェンダー、流動性 とグローバル化、新しいコミュニケーション と仮想技術、日欧のオープンアクセス 学習と研究方法

オラフ・ジュビン教授 Prof Olaf Jubin	教授(音楽・舞台・メディア研究)	戦後日本映画
ロバート・ジョンソン Mr Robert Johnson	上級講師	異文化間コミュニケーションとビジネスの日本語

サルフォード大学

氏名	職位	研究対象
マヌエル・ヘルナンデス＝ペレス博士 Dr Manuel Hernandez-Perez	講師(デジタル・メディア)	アニメーション研究、コミュニケーション理論、コミック本/シーケンス言語によるメディアの文化横断リーディング、トランスメディアの物語(アニメや漫画を含む)への心理学的メディア・アプローチ

シェフィールド・ハラム大学

氏名	職位	研究対象
クレア・ムーナン博士 Dr Clare Moonan	上級講師	国際マネジメントにおける文化的問題、東アジア、特に日本の政治経済

セント・アンドルース大学

氏名	職位	研究対象
コンラド・ローソン博士 Dr Konrad Lawson	講師(現代史)	東アジア近代史。大日本帝国
マルク・デ・ボア博士 Dr Marc De Vore	講師(国際関係)	東アジア安全保障、軍需産業、紛争研究
ルーク・ガートラン博士 Dr Luke Gartlan	上級講師(美術史)	19世紀の写真。旅行写真、異文化美術、オリエンタリズム、ジャポニズム

ストラスクライド大学

氏名	職位	研究対象
エスペランサ・ミヤケ博士 Dr Esperanza Miyake	ストラスクライド学 長フェロー(ジャー ナリズム、メディア、 コミュニケーション)	日本のアイデンティティ、技術(特にオー トバイ)、国境を越えた視覚文化

西スコットランド大学

氏名	職位	研究対象
エリック・バウムガ ートナー博士 Dr Eric Baumgartner	副学長、教育・社 会学部	日英における男らしさと若さと刑事司法

ウィンチェスター大学

氏名	職位	研究対象
クリス・アルドウス教 授 Prof Chris Aldous	教授(歴史学部)	日本現代史、特に戦後の占領下の日本 本土(1945~52年)と沖縄県(1945~72 年)。

ウルバーハンプトン大学

氏名	職位	研究対象
セバスチャン・グロ ーズ教授 Prof Sebastian Goes	教授(英文学)	カズオ・イシグロ

レクサム・グリンドゥル大学

氏名	職位	研究対象
レベッカ・ウッドフォ ード＝スミス博士 Dr Rebecca Woodford-Smith	講師(舞台と演劇)	日本の劇団の演劇と動き

リトル・ユニバーシティ・カレッジ

氏名	職位	研究対象
ジル・ラゲット博士 Dr Jill Raggett	准教授(庭園と風景のデザイン)	英国内の日本庭園

ヨーク大学

氏名	職位	研究対象
ヒザー・マースデン博士 Dr Heather Marsden	講師(語学・言語学部)	日本語学と第二言語としての日本語習得
オレグ・ベネシュ博士 Dr Oleg Benesch	講師(東アジア史)	日本と中国の近現代史、現代日本における武士道
ピーター・セルズ教授 Prof Peter Sells	教授、語学・言語学部長	言語学、構文、および形態論と意味論へのインターフェイス、特に日本語と韓国語に焦点をあてる
ステビ・ジャクソン教授 Prof Stevi Jackson	女性研究センター所長	東アジアのセクシュアリティ、ジェンダー

語学課程のみの教育機関：

英国の大学には、純粹に語学または翻訳学の一部としての課程の日本語学はあるものの、日本研究の課程は提供していないところが数多くある。これらの大学は日本研究の調査の対象ではないが、その情報はここに掲載しておく。

バーミンガム大学

基本情報

<p>担当学部： 言語・文化・美術史・音楽学部</p> <p>所在地： University of Birmingham, Edgbaston, Birmingham, B15 2TT</p> <p>電話番号： +44 (0) 121 414 3344</p> <p>メール： lcahm@contacts.bham.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.birmingham.ac.uk/schools/lcahm/index.aspx</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none"> - 現代語学 - 現代語学(と共同学位の) 英語 美術史 音楽 - 現代語学(と副専攻の)ビジネス・マネジメント <p>BSc</p> <ul style="list-style-type: none"> - 国際ビジネス(と副専攻の)日本語
	<p>日本関連の大学院課程：</p> <p>なし</p>

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
サイモン・コリンズ 教授 Prof Simoon Colins	教授(国際ビジネス・イノベーション)	日本と中国:ローカルの商慣行と異文化間マネジメント。外国直接投資と経済的変化
ジュリー・ギルソン 博士 Dr Julie Gilson	准教授(アジア研究)	東アジア地域主義、アジアと欧州の地域間関係と日本の外交政策

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

ピーター・リー博士 Dr Peter Lee	准教授(地球・環境科学)	福島第一原発事故後のコンテキストにおけるレジリエンス。長期的な人口減少の中で、突然の衝撃に対処するために設計された対応と介入を計画する。
---------------------------	--------------	--

エセックス大学

基本情報

<p>担当学部： 語学・言語学部</p> <p>所在地： Department of Languages and Linguistics, Wivenhoe Park, Colchester, CO4 3SQ</p> <p>電話番号： +44 (0) 1206 872083</p> <p>メール： lalopc@essex.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.essex.ac.uk/departments/language-and-linguistics</p>	<p>日本関連の学部課程： なし</p> <p>日本関連の大学院課程： MA - 視聴覚翻訳と文章翻訳 - 翻訳とプロフェッショナルの実践</p>
--	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
ハン・ドルセン教授 Prof Han Dorussen	教授(政府行政学)	EU アジア関係と EU 日本安全保障協力

ハートフォードシャー大学

基本情報

<p>担当学部： 人文科学学部</p> <p>所在地： University of Hertfordshire, Hatfield, Hertfordshire, AL10 9AB</p> <p>電話番号： +44 (0) 1707 284000</p> <p>メール： ask@herts.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.herts.ac.uk/study/schools-of-study/humanities</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none">- 英語(と副専攻の)日本語- 英文学(と副専攻の)日本語- 歴史(と副専攻の)日本語- 哲学(と副専攻の)日本語- 会計学(と副専攻の)東アジアの語学- ビジネス(と副専攻の)東アジアの語学- 経済学(と副専攻の)東アジアの語学- イベント・マネジメント(と副専攻の)東アジアの語学- 人材管理(と副専攻の)東アジアの語学- 国際ビジネス(と副専攻の)東アジアの語学- 国際観光マネジメント(と副専攻の)東アジアの語学- 観光(と副専攻の)東アジアの語学 <p>日本関連の大学院課程： なし</p>
--	---

ロンドン・メトロポリタン大学

基本情報

<p>担当学部： ビジネス・法学部</p> <p>所在地： 84 Moorgate, London, EC2M 6SQ</p> <p>電話番号： +44 (0)20 7423 0000</p> <p>メール： gsbl@londonmet.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.londonmet.ac.uk/schools/business-and-law/</p>	<p>日本関連の学部課程： なし</p> <p>日本関連の大学院課程： MA - 会議通訳 - 通訳 - 翻訳</p>
---	---

マンチェスター・メトロポリタン大学

基本情報

<p>担当学部： 人文科学・言語・社会科学学部</p> <p>所在地： Geoffrey Manton Building, 4 Rosamond Street West, Manchester, M15 6LL</p> <p>School Telephone +44 (0)161 247 2000</p> <p>メール： Contact form available at https://www.mmu.ac.uk/contact/course-enquiry/</p> <p>ウェブサイト： https://www.mmu.ac.uk/hlss/</p>	<p>日本関連の学部課程：</p> <p>BA</p> <ul style="list-style-type: none">- ビジネス(と副専攻の)日本語- 英語(と副専攻の)日本語- フランス語(と副専攻の)日本語- 言語学(と副専攻の)日本語- スペイン語(と副専攻の)日本語- TESOL(と副専攻の)日本語- 国際関係(と副専攻の)日本語 <p>日本関連の大学院課程：</p> <p>なし</p>
---	--

ポーツマス大学

基本情報

<p>担当学部： 語学・応用言語学学部</p> <p>所在地： King Henry 1st Street, Park Building, Portsmouth, PO1 2DZ</p> <p>電話番号： +44 (0)23 9284 2992</p> <p>メール： hss-enquiries@port.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.port.ac.uk/about-us/structure-and-governance/organisational-structure/our-academic-structure/faculty-of-humanities-and-social-sciences/school-of-languages-and-applied-linguistics</p>	<p>日本関連の学部課程： なし</p> <p>日本関連の大学院課程： MA - 翻訳研究</p>
---	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
スティーブン・クラブ博士 Dr Stephen Crabbe	上級講師(応用言語学・翻訳)	入墨(特に日本の入墨と日本国外の和彫)、テクニカル・コミュニケーション(現在と過去の両方)、日本で外国語教育するためのテクニカル・コミュニケーションの利用

ロンドン大学クイーン・メアリー校

基本情報

<p>担当学部： 語学・言語学・映画学部</p> <p>所在地： ArtsOne Building, Room 1.40, Mile End Road, London, E1 4NS</p> <p>電話番号： +44 (0)20 7882 5555</p> <p>メール： sllf@qmul.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.qmul.ac.uk/sllf/</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 現代語学</p> <p>日本関連の大学院課程： なし</p>
---	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
ジョン・ナイト博士 Dr John Knight	准教授(人類学)	日本の田舎における人類学、移住、林業、農業、観光業。観光、狩猟、害獣の対象として見る動物と人間の関係
ハイケ・シュローダー博士 Dr Heike Schroder	講師(マネジメント)	国際人材システムと労働力高齢化による公共政策への影響

レディング大学

基本情報

<p>担当学部： 文学・語学学部</p> <p>所在地： Whiteknights, PO Box 218, Reading, RG6 6AA</p> <p>電話番号： +44 (0) 118 987 5123</p> <p>メール： languages@reading.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： http://www.reading.ac.uk/literature-and-languages/sll-home.aspx</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 現代語学</p> <p>日本関連の大学院課程： なし</p>
--	---

サウサンプトン大学

基本情報

<p>担当学部： 現代語学・言語学部</p>	<p>日本関連の学部課程： なし</p>
<p>所在地： Building 65, Avenue Campus, Southampton, SO17 1BF</p>	<p>日本関連の大学院課程： MA - 翻訳と専門コミュニケーション技能</p>
<p>電話番号： +44 (0) 23 8059 2206</p>	
<p>メール： hums.studentoffice@southampton.ac.uk</p>	
<p>ウェブサイト： https://www.southampton.ac.uk/ml/index.page</p>	

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン

基本情報

<p>担当学部： 欧州言語・文化・社会学部</p> <p>所在地： Room 131 Foster Court, Malet Place, London, WC1E 7JG</p> <p>電話番号： +44 (0)20 7679 2000</p> <p>メール： rachel.anderson@ucl.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://www.ucl.ac.uk/european-languages-culture/</p>	<p>日本関連の学部課程： なし</p> <p>日本関連の大学院課程： MSc <ul style="list-style-type: none"> - 翻訳と技術(視聴覚) - 翻訳と技術(科学的、技術的、医学的) - 翻訳と技術(と通訳) MPhil / PhD <ul style="list-style-type: none"> - 翻訳研究 </p>
--	--

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
アンディ・グリーン 教授 Prof Andy Green	教授(比較社会学)	西欧と東アジアの比較教育
ジム・マキンリー博士 Dr Jim McKinley	准教授(文化・コミュニケーション・メディア)	特に日本で、英語を国際語として教える

国際交流基金ロンドン日本文化センター

2020年度日本研究機関調査

北川香博士 Dr Kaori Kitagawa	講師(教育・実践・ 社会学部)	比較教育学(日本を含む)、生涯学習、 専門能力開発、公共教育学、災害／防 災教育
斉藤一弥博士 Dr Kazuya Saito	准教授	第二言語習得(文法的・実践的発達、留 学の影響)、語学教授法、心理言語学 (生産言語、認知、言語)、日本語言語 学

ウォリック大学

基本情報

<p>担当学部： 現代語学・文学部</p> <p>所在地： Humanities Building, University Road, University of Warwick, Coventry, CV4 7AL</p> <p>電話番号： +44 (0)24 7652 3462</p> <p>メール： resource.languages@warwick.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://warwick.ac.uk/fac/arts/modernlanguages</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 言語学(と副専攻の)日本語 - 現代語学 - 現代語学(と共同学位の) 経済学 言語学 - 現代語学(と副専攻の)言語学</p> <p>日本関連の大学院課程： なし</p>
--	---

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
マイケル・ガーデ イナー教授 Prof Michael Gardinier	教授(英語・比較文学研 究)	英国の 20 世紀文化史、モダニズム の政治、比較モダニズムと日欧交 流、クリエイティブ・ライティング

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

<p>クリス・ヒューズ教授 Prof Chris Hughes</p>	<p>政治・国際研究学部長</p>	<p>日本の外交・安全保障政策、日本の国際政治経済学、東アジアの地域主義、日本の過激主義とテロリズム、冷戦後の従来型・非従来型の安全保障政策、北朝鮮の対外政治経済関係</p>
<p>ドミニク・ケリー博士 Dr Dominic Kelly</p>	<p>准教授(政治・国際研究)</p>	<p>日本の原子力政治、国際貿易の政治経済学、東アジアの地域主義、政府・企業・NGO 関係。</p>
<p>松岡美里博士 Dr Misato Matsuoka</p>	<p>研究員</p>	<p>国際関係、日米の外交政策</p>

ヨーク・セント・ジョン大学

基本情報

<p>担当学部： 教育・語学・心理学部</p> <p>所在地： School of Education, Language and Psychology Lord Mayor's Walk, York, YO31 7EX</p> <p>電話番号： +44 (0)1904 624624</p> <p>メール： schoolofsocial@yorks.ac.uk</p> <p>ウェブサイト： https://blog.yorks.ac.uk/schoolofelp/</p>	<p>日本関連の学部課程： BA - 日本語、TESOLと言語学 - 日本語、異文化間コミュニケーションと言語学</p> <p>日本関連の大学院課程： なし</p>
---	--

研究対象に日本を含む教員：

氏名	職位	研究対象
段上知里博士 Dr Chisato Danjo	上級講師	日本語と日本言語学
ウェイン・ジョンソン博士 Dr Wayne Johnson	上級講師(メディア・映画研究)	日本のポピュラー・カルチャーとメディア
ベッキー・ムラダステイラー博士 Dr Becky Muradás-Taylor	副長:カリキュラム開発	日本語の音韻論と高低アクセントの習得

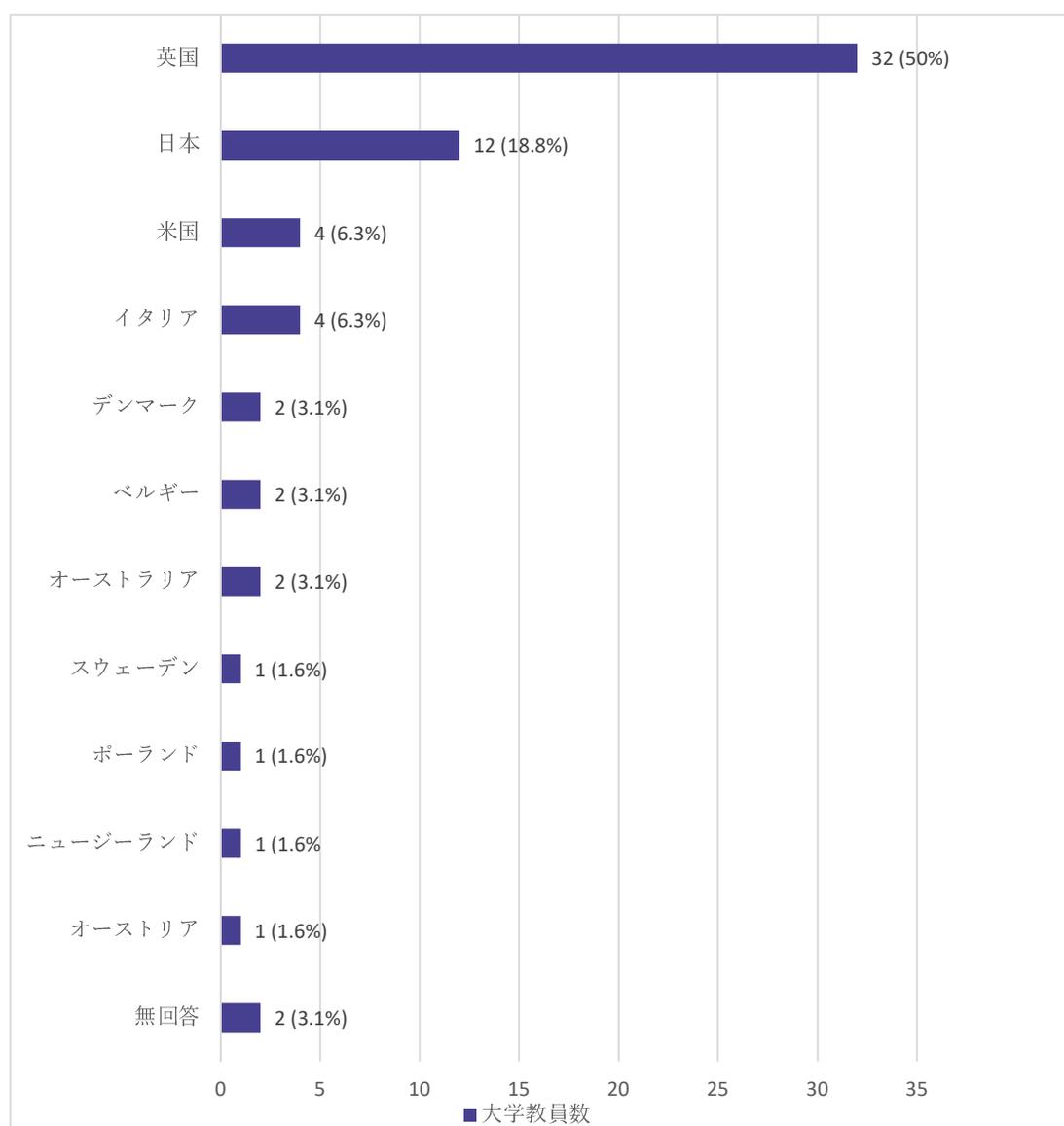
大学教員への調査

人文科学および社会科学において日本を主な研究分野としている、さまざまな大学の教員 64 名から回答が寄せられた。

註: すべての回答は原文ママ記載

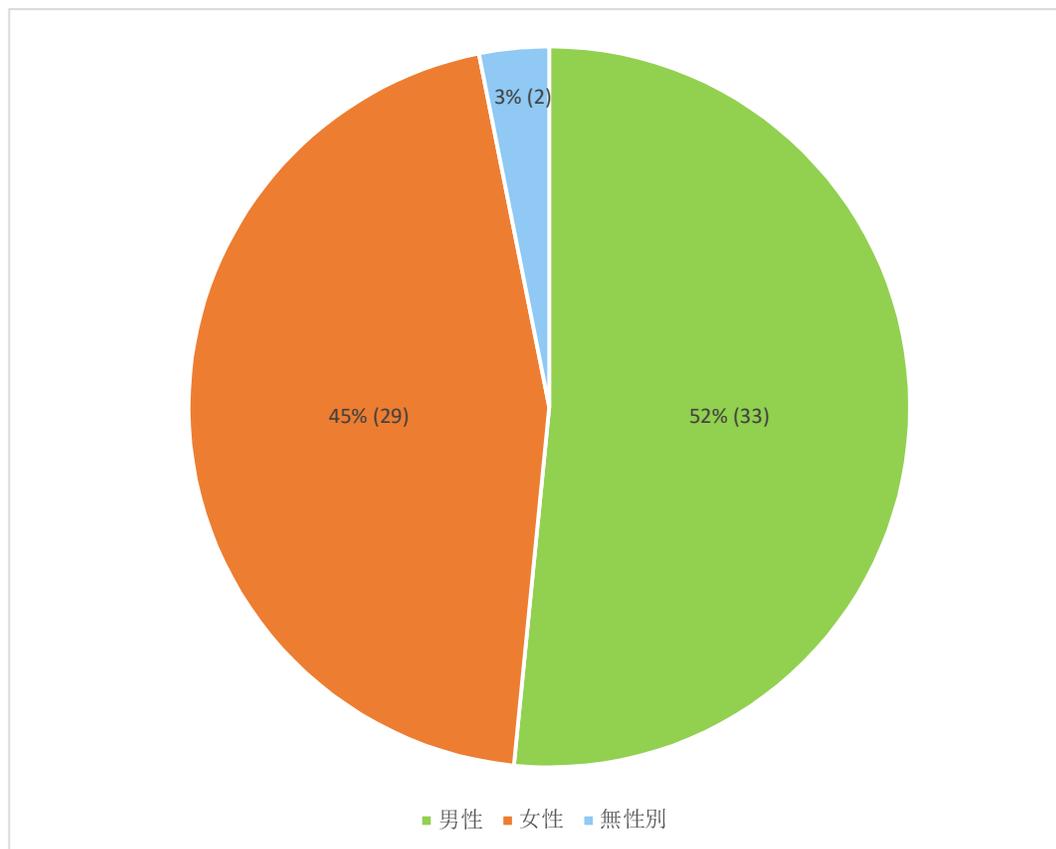
Q1. 国籍

学生への調査と同じように、約 50%の回答者が英国籍で、あとはさまざまな国から来ている。学生への調査では中国籍の学生が3番目に多かったが、大学教員では少なくなる。



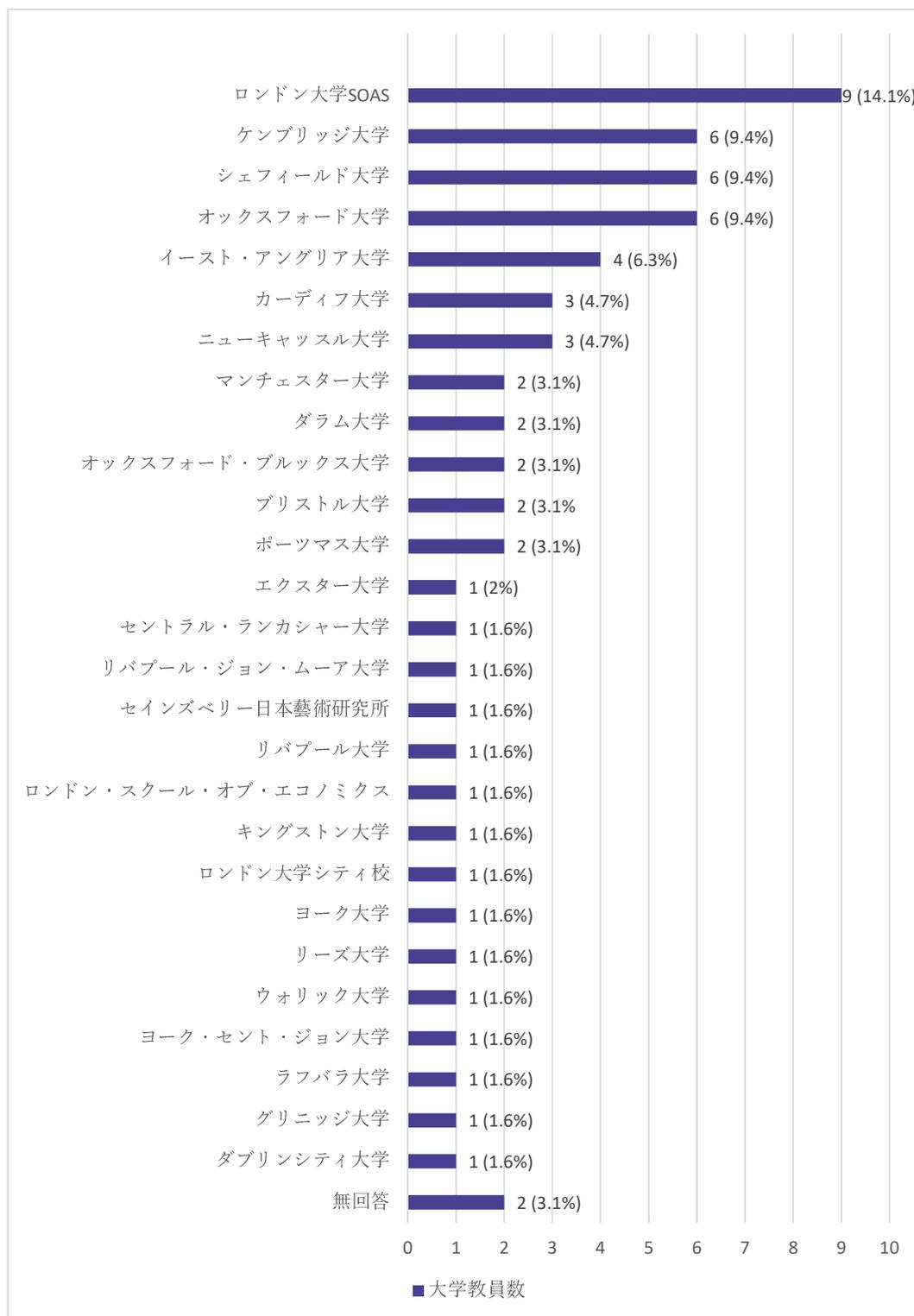
Q2：性別

大学教員の性別は、女性がわずかに多い学生と比べて、男性がわずかに多くなっている。全女性職員数の英国平均は約55%である。¹

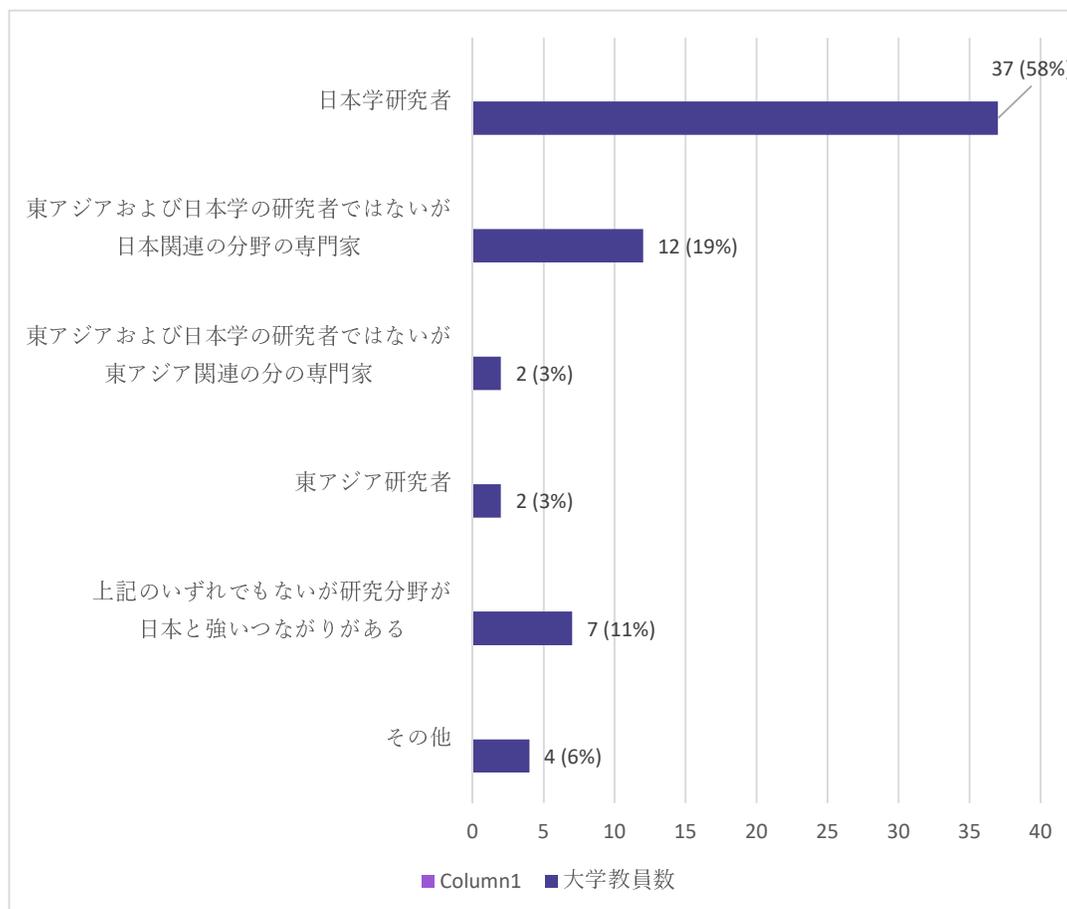


¹ <https://www.hepi.ac.uk/2020/03/07/mind-the-gap-gender-differences-in-higher-education/#:~:text=The%20gender%20pay%20gap%20of,higher%20education%20and%20achieving%20academically.>

Q3. 研究の拠点としている主な大学



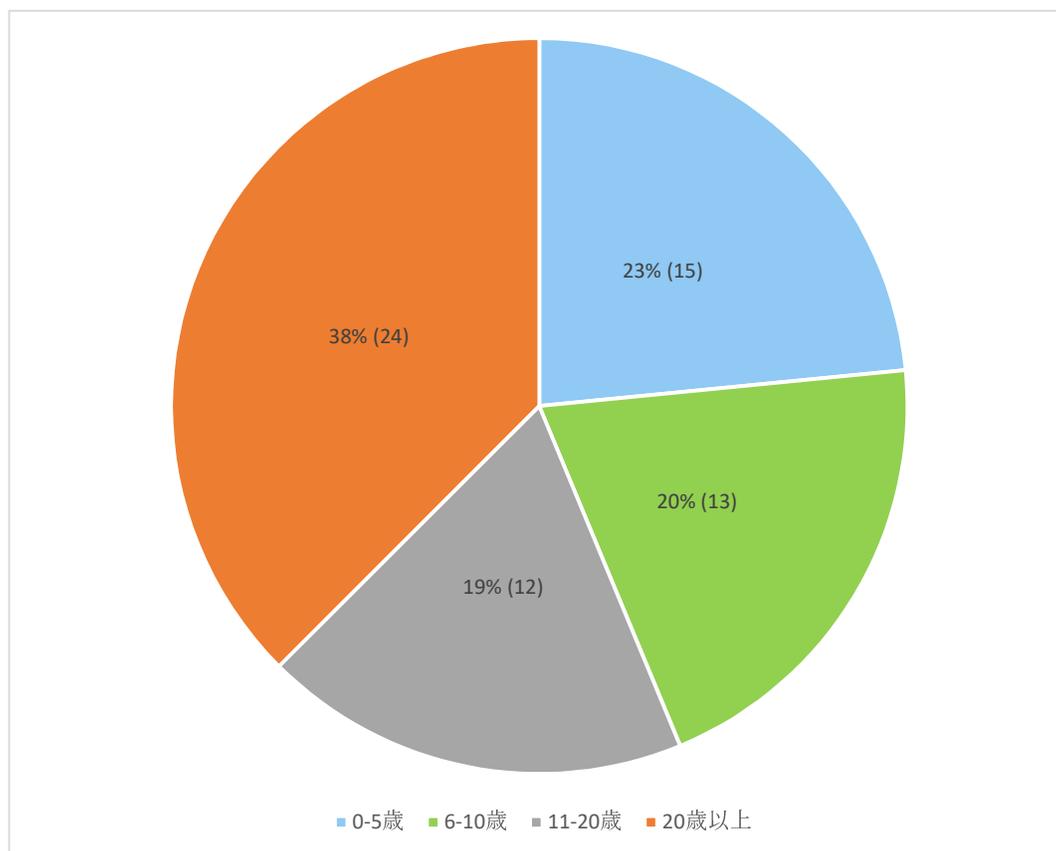
Q4. 研究者としての専門分野



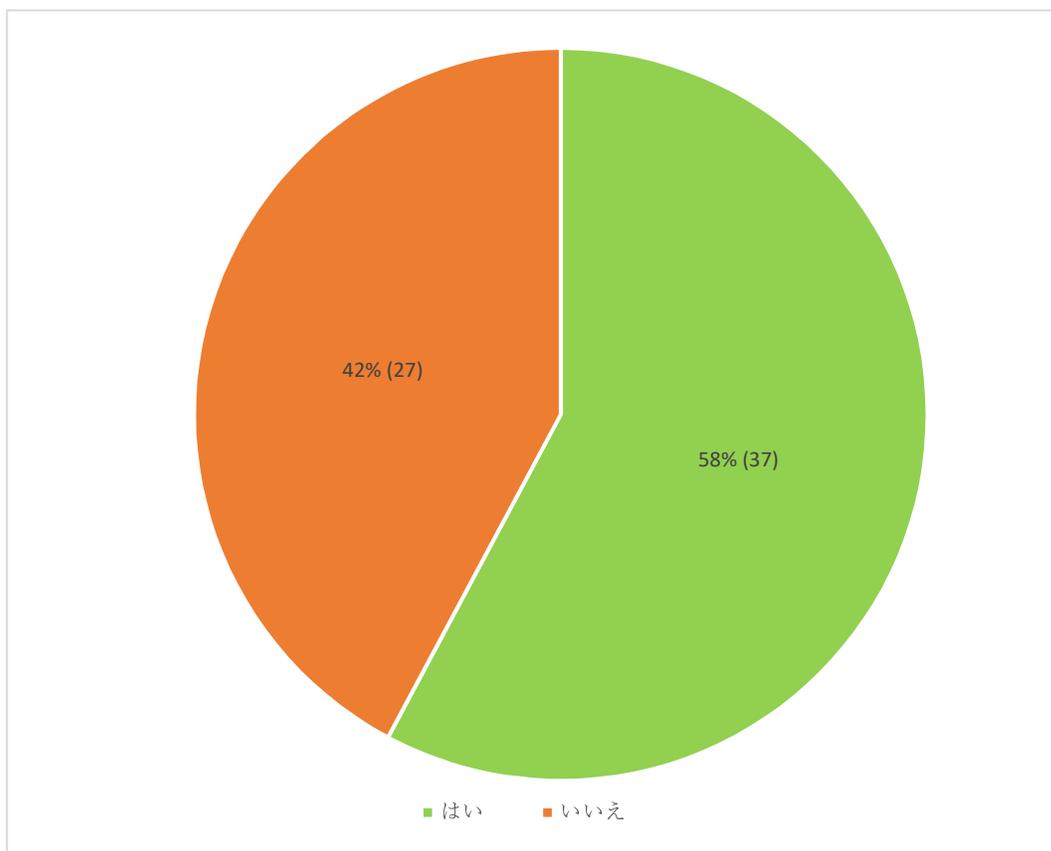
「その他」の回答の内訳: 日本を中心に研究している東アジア学研究者(1名)、政治学部(1名)、日本について研究している比較分析学者(1名)、日本研究と地域研究を兼ねている研究者(1名)

Q5. 大学教員としての勤続年数

20年以上働いている大学教員は調査に回答者全体の37%を占め、0～5年の大学教員は15%であった。

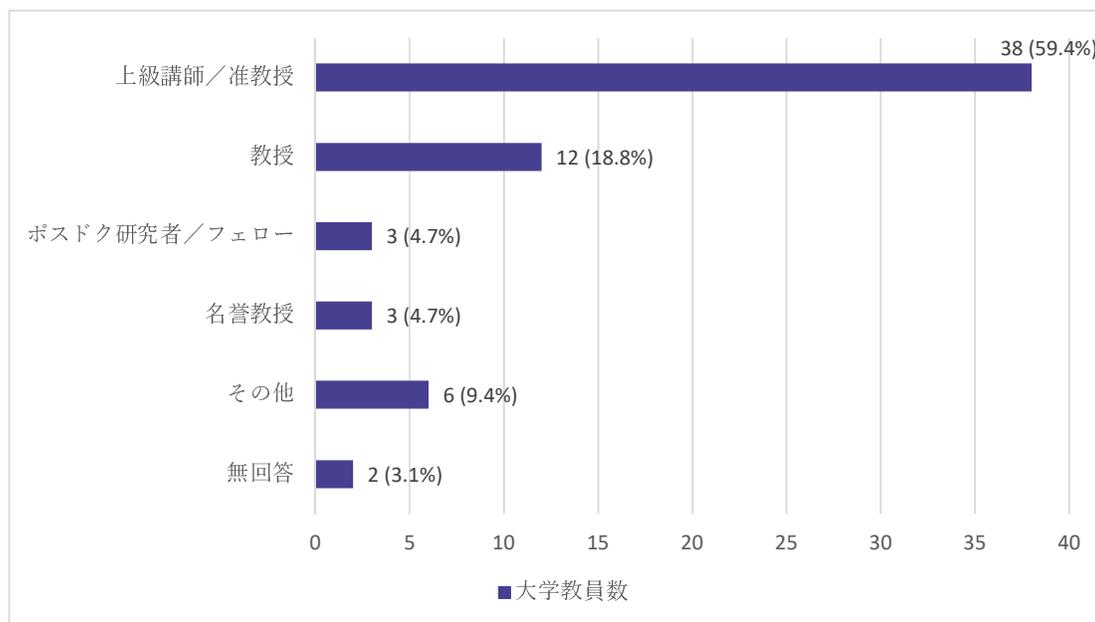


Q6. 現在、博士課程の学生を指導していますか？



Q7. 現在の職位

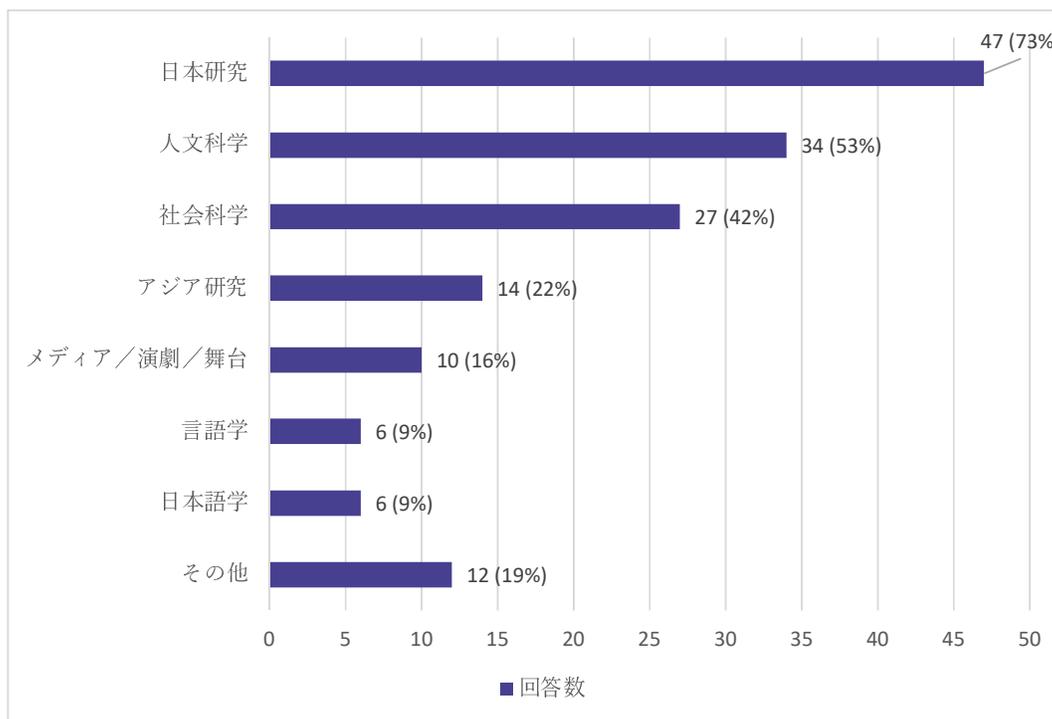
最も多い職位は上級講師/准教授で、全回答者の60%弱を占めている。



「その他」の回答の内訳: 助教(2名)、独立系研究者(1名)、研究業務も行なう日本語学科長(1名)、上級ティーチング・フェロー/有給講師(1名)、若手研究者(1名)

Q8. 研究に関わっている分野（複数回答可）

日本研究が最も関わりの多い分野である。人文科学と社会科学との関わりも強い。



「その他」の回答は多種にわたる。内訳：**歴史(3名)、宗教(2名)、文学(2名)ジェンダー(2名)、地学(1名)、身体と感覚(The Body and Senses)(1名)、ポピュラー・カルチャー(1名)、アジア太平洋研究(1名)、政治(1名)、歴史社会学(1名)、社会人類学(1名)、建築学**

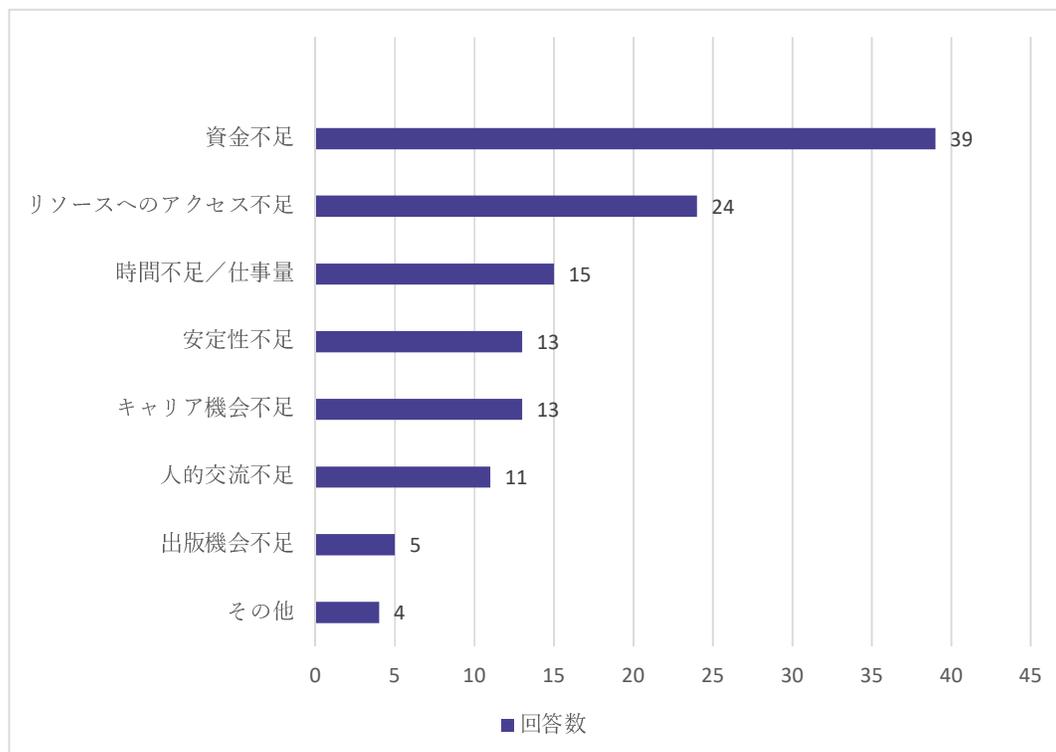
Q9. 助成団体が英国の日本研究を支援するために最も重要な方法は？

これは自由回答式の質問で、さまざまな回答が寄せられた。圧倒的に多かったのは、大学院生のための資金の必要性であった。図書館への助成金／資料購入への助成金という形での資金支援、および研究旅行への資金提供も言及されている。

方法	言及数
大学生／大学院生への奨学金への資金提供	16
日本への渡航費助成	11
図書館への資金支援	10
大学教員／ポストドク職への資金提供	9
日英を拠点とする大学／研究者の連携への支援	7
条件の柔軟性を高める	7
学会や講演会への支援	5
研究助成金一般	4
語学支援	4
学際的研究の推進	3
国外留学支援	2
教える機会への支援	2
大学イベントへの市民参加	2

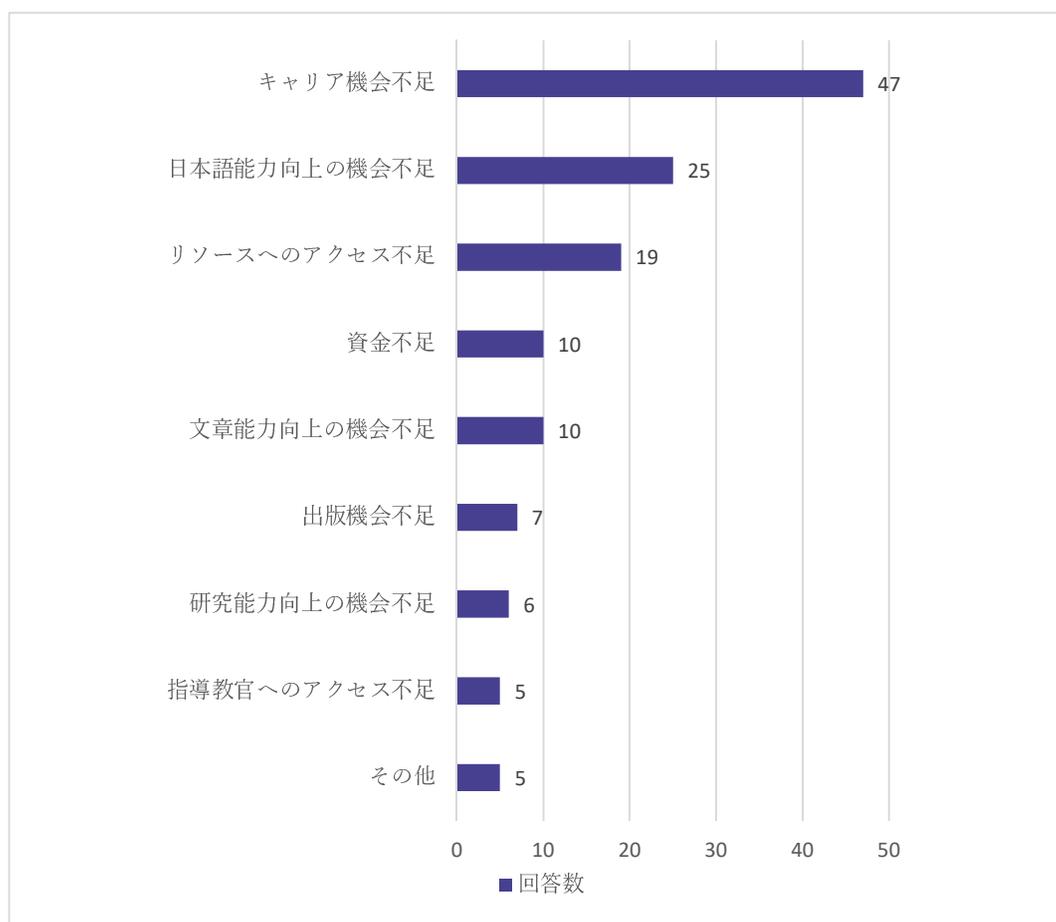
Q10. 研究者として直面している主な課題

資金不足は研究者が直面する最大の課題である。リソース不足は大学職員にとって2番目に大きな課題であり、これは学生への調査でも3番目に大きな問題と見なされている。



Q11. 日本研究の大学院生が直面している主な課題（複数回答可）

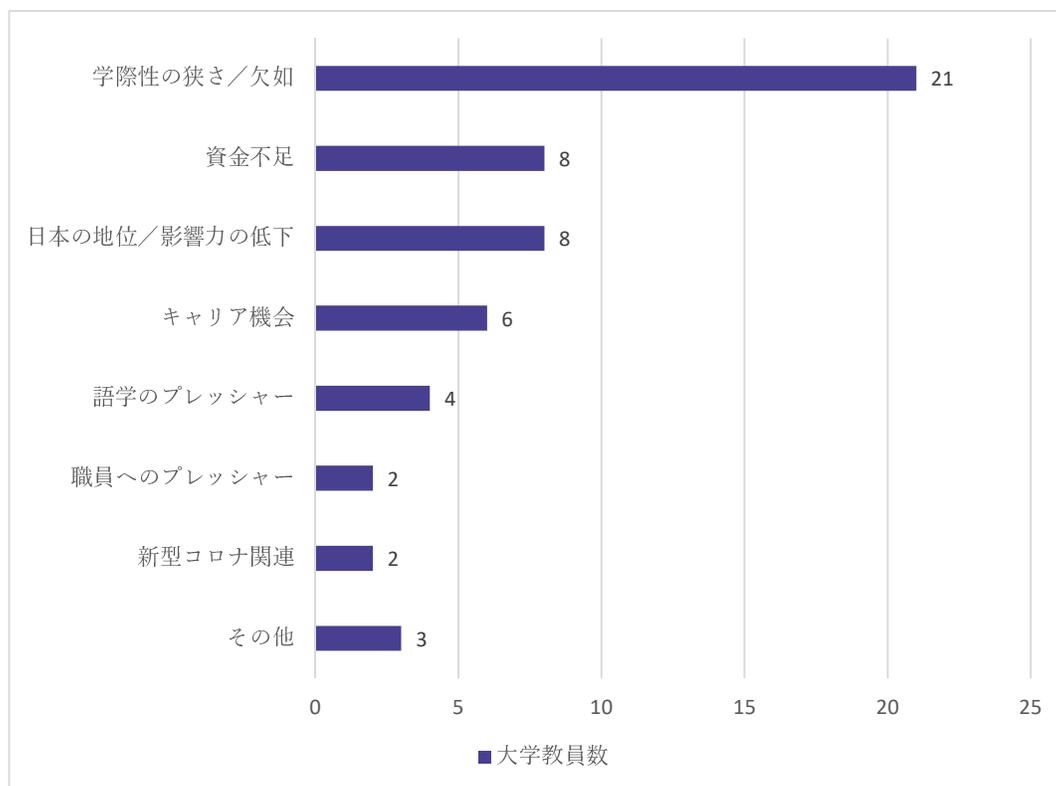
大学教員は、大学院生が直面している最大の課題はキャリアの機会不足であると見ている。新型コロナウイルス／渡航制限が主な課題であると指摘した大学教員は1人だけであった。



「その他」の回答の内訳: **教授能力向上の機会の少なさ(2名)、過度のプレッシャー(1名)、就業能力不足(1名)、渡航制限(1名)**

Q12. 学問分野としての日本研究が直面している主な課題

これは自由回答式の質問で、共通のテーマがいくつか見つかった。日本研究の学際性の欠如や狭さが主な課題と見なされている。新型コロナウイルスがこの分野の直面している課題と考えている大学教員はごくわずかであった。



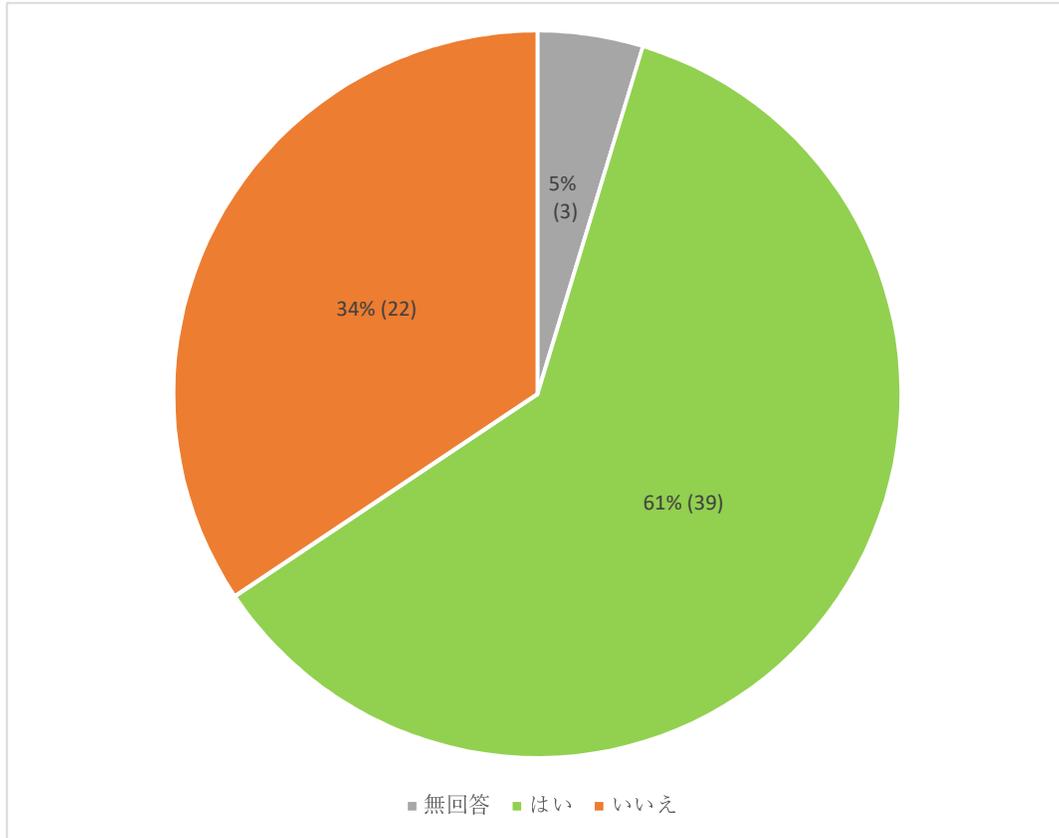
「その他」の回答の内訳は：**気候変動**(1名)、**米国の学者による分野の寡占**(1名)、**日本からの人材やデータへのアクセス**(1名)。

Q13. 日本研究の主なテーマ

自由回答式の質問で、研究者から多くの前向きな回答が寄せられた。多くの研究者は今でも、一般的に日本の人気は日本研究の重要な強みの一つであるとしている。共同研究または学際的な取り組みを通じて、日本研究を多様化するという強いテーマが見られた。ブレクジット後、日本がより中心的な位置に立てるようになるという考えを提起する研究者もあり、ヨーロッパ中心主義からの脱却も強いテーマとなっている。共通して見えてきたテーマの一覧は以下の通りである：

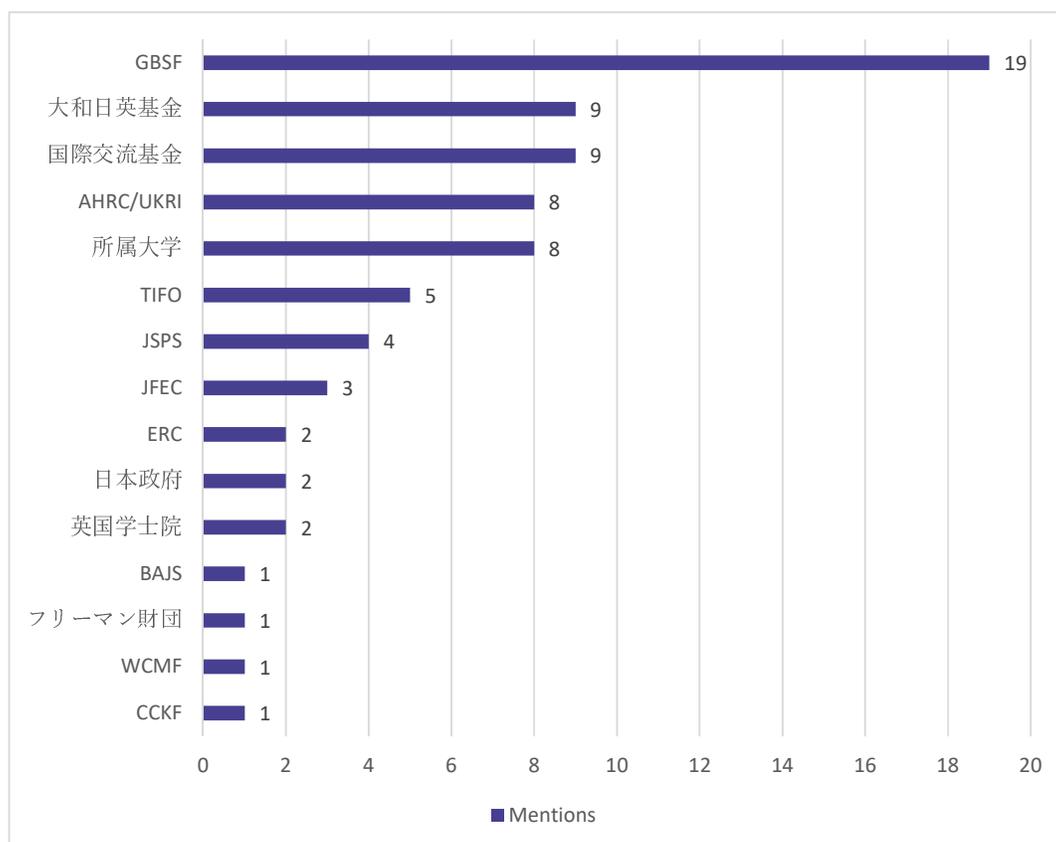
<u>テーマ</u>	<u>言及数</u>
日本の人気	15
学際的研究の機会	12
現代の動向との関連性	10
ヨーロッパ中心主義の研究からの脱却	10
共同研究の機会	10
優れた資金団体	3
オンライン機能への移行	1
強くて確立されたコミュニティ	1

Q14. 過去3年間に1,000ポンド以上の研究費を受け取っていますか？



Q15. Q14で「はい」と答えた方は、資金を提供した団体名を挙げてください。

合計で16の大学ベースでない組織が資金を提供している。日本研究を専門とする組織が授与された助成金の大部分を占めている。英国外に居住していたときに国際機関から助成金を授与された研究者もいるが、英国の研究者はこれらの助成金の対象とならないため、ここでは除外されている。



略称一覧	
GBSF	グレートブリテン・ササカワ財団
TIFO	東芝国際交流財団
AHRC	芸術人文科学研究評議会
UKRI	英国研究イノベーション機構
JSPS	日本学術振興会

国際交流基金ロンドン日本文化センター
2020年度日本研究機関調査

JFEC	Japan Foundation Endowment Committee
ERC	欧州研究会議
CCKF	蔣經國基金
WCMF	ウィンストン・チャーチル記念財団
BAJS	英国日本研究協会

学生への調査

教育機関への調査に加えて、国際交流基金は、英国の大学の学部と大学院の両方で、日本語／日本研究の課程を履修している学生にも調査を実施した。

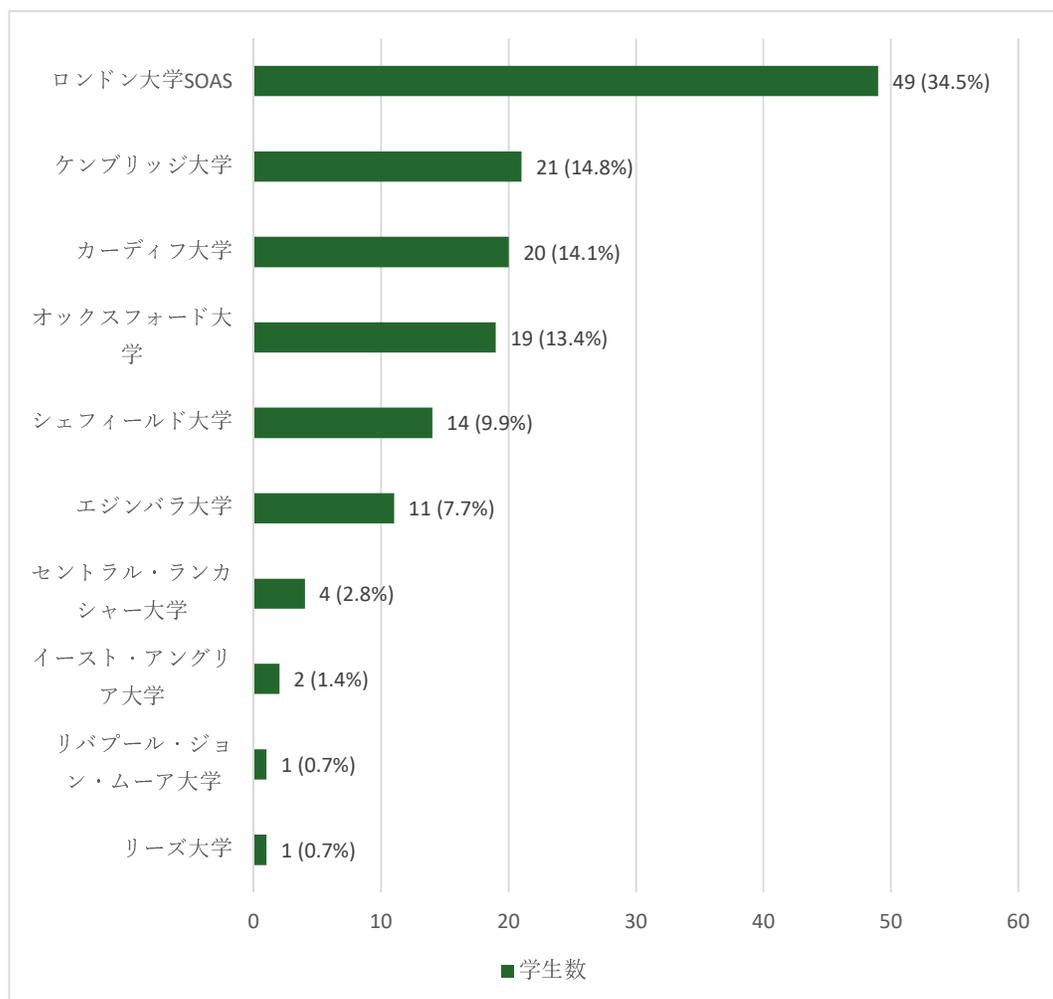
今回の調査は、日本研究に焦点を当てた単一専攻／複数専攻学位として学部または大学院で履修する学生のみを対象としている。

142名の学生から回答があったが、これは前回2015年の調査の293名からは大幅減となっている。これはデータ保護法(GDPR)により情報の扱いが厳格になったため、学生に直接連絡することが非常に難しくなったことが一因として考えられる。

註: すべての回答は原文ママ記載

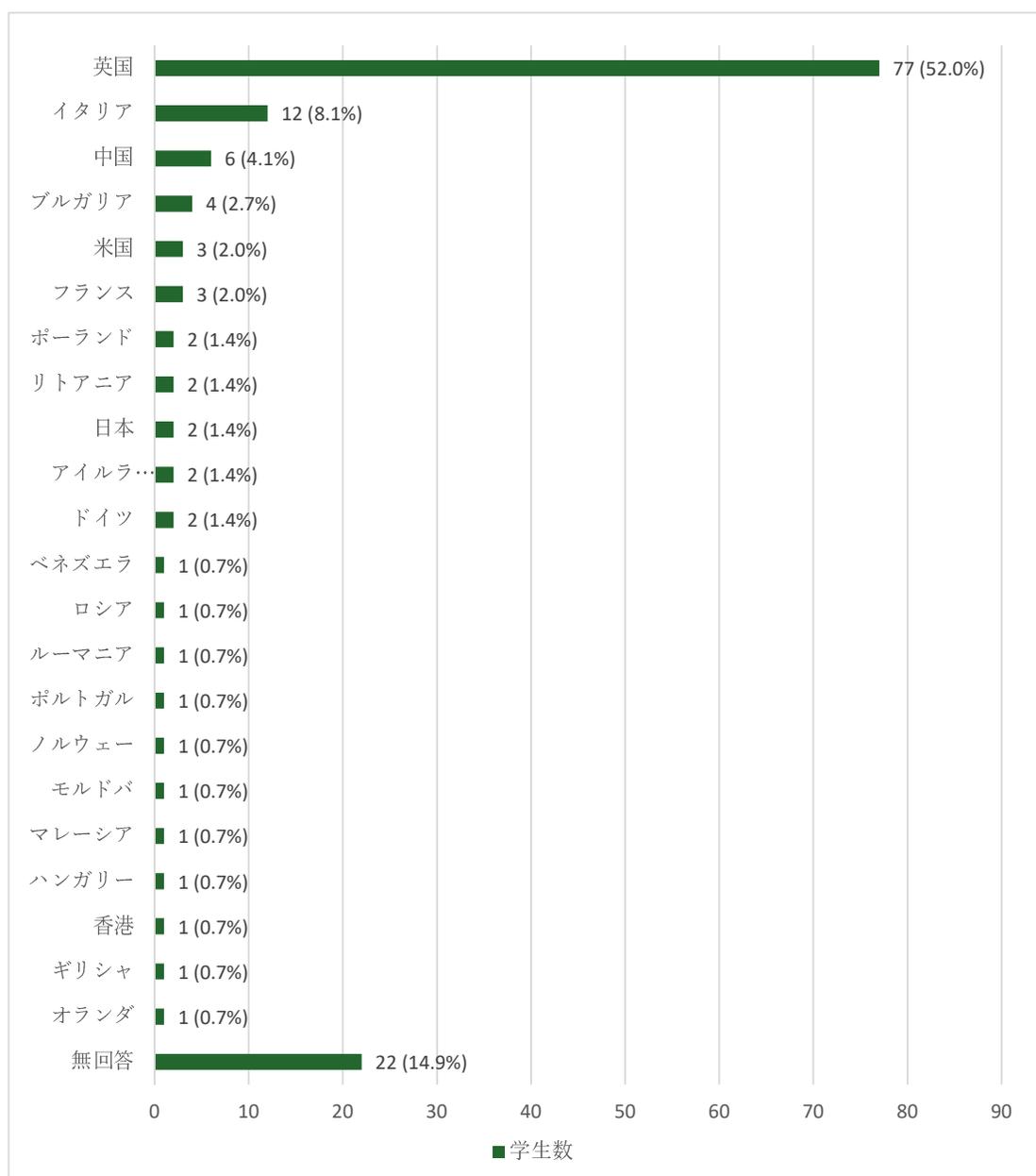
Q1. 在籍している大学

10の大学の学生から回答が寄せられ、その内訳は以下の通りである：



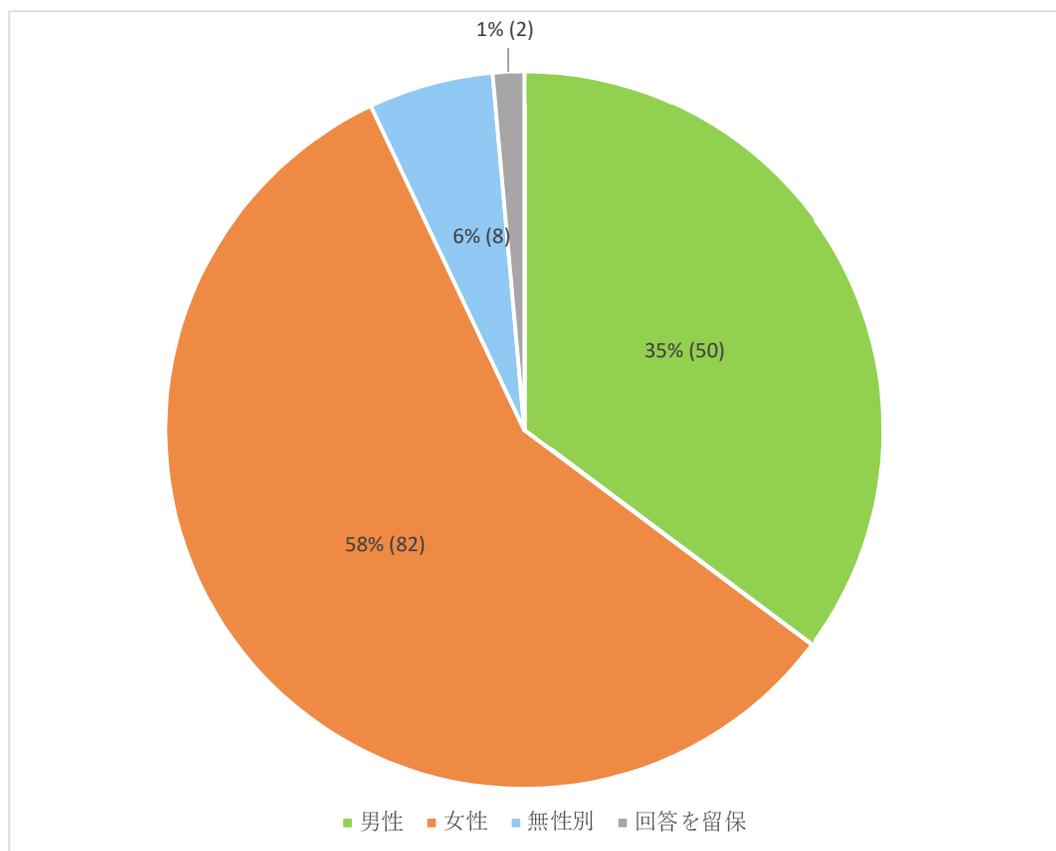
Q2. 国籍（保持するすべての国籍を教えてください）

英国籍保有者は回答者のうち 52%を占めており、その他国籍は 23 か国にわたり、全体の 33%であった。内訳は以下の通り(15%は無回答)。2015 年の調査と比べて英国籍以外の学生が 11%増加した。



Q3. 性別

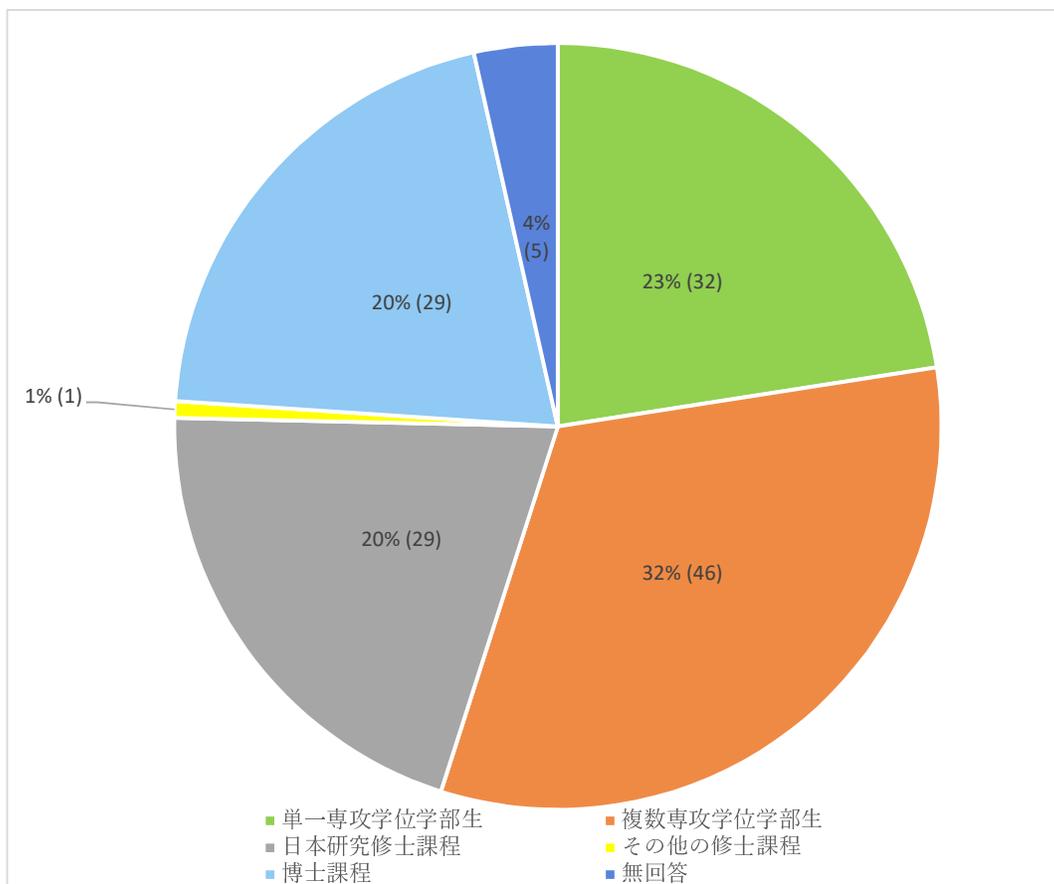
女性の割合が 58%と高く、これに対して男性は 35%である。女性学生の英国平均は 58%であるが、英国平均の統計にはノンバイナリーという選択肢はない。²



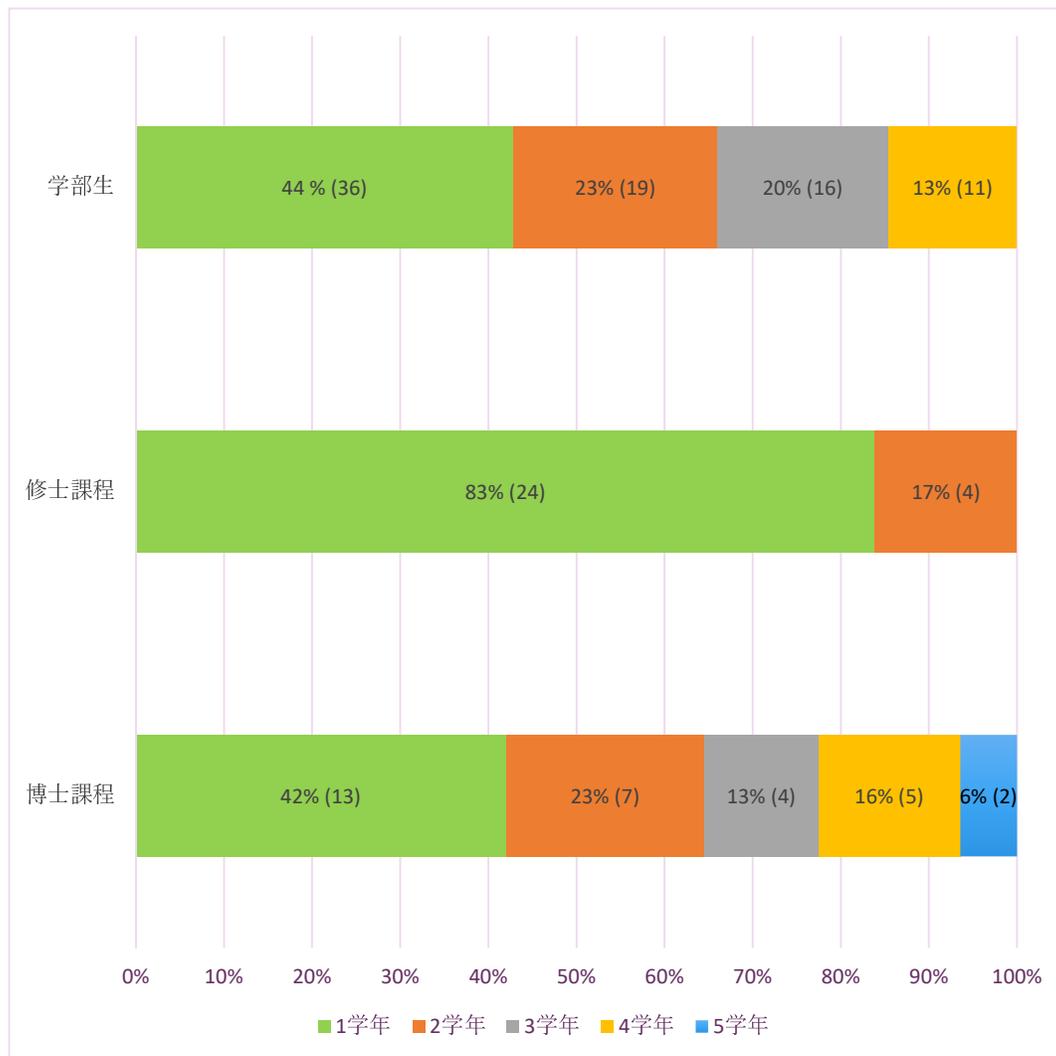
² <https://www.hepi.ac.uk/2020/03/07/mind-the-gap-gender-differences-in-higher-education/>

Q4. 履修している課程

2020年度調査では学生の分類の割合に大きな変化が見られた。2015年調査では、回答者のうち大学院生はわずか17%であった。今回は大学院生が43%を占めている。



Q5. 現時点の在籍学年



Q6. 日本関連の課程を履修した理由

これは自由回答式の質問で、回答は様々であったが、共通して見られたテーマを以下に記載する。

理由	言及数
日本語への関心	65
日本文化への関心	44
キャリアの機会／向上	18
日本への一般的な関心	18
日本の歴史への関心	13
何か違ったことをやりたい願望	12
日本を訪れたことがある	9
日本へ移住したい願望	8
挑戦のため	4
日本の文化遺産	3
国外留学したい	3
大学教員からの影響	2

今年は語学に特化した課程を履修する学生には調査を行わなかったものの、それでも言語が最も多い理由となった。上位3つの理由は、2015年の調査と変わらず同じであった。

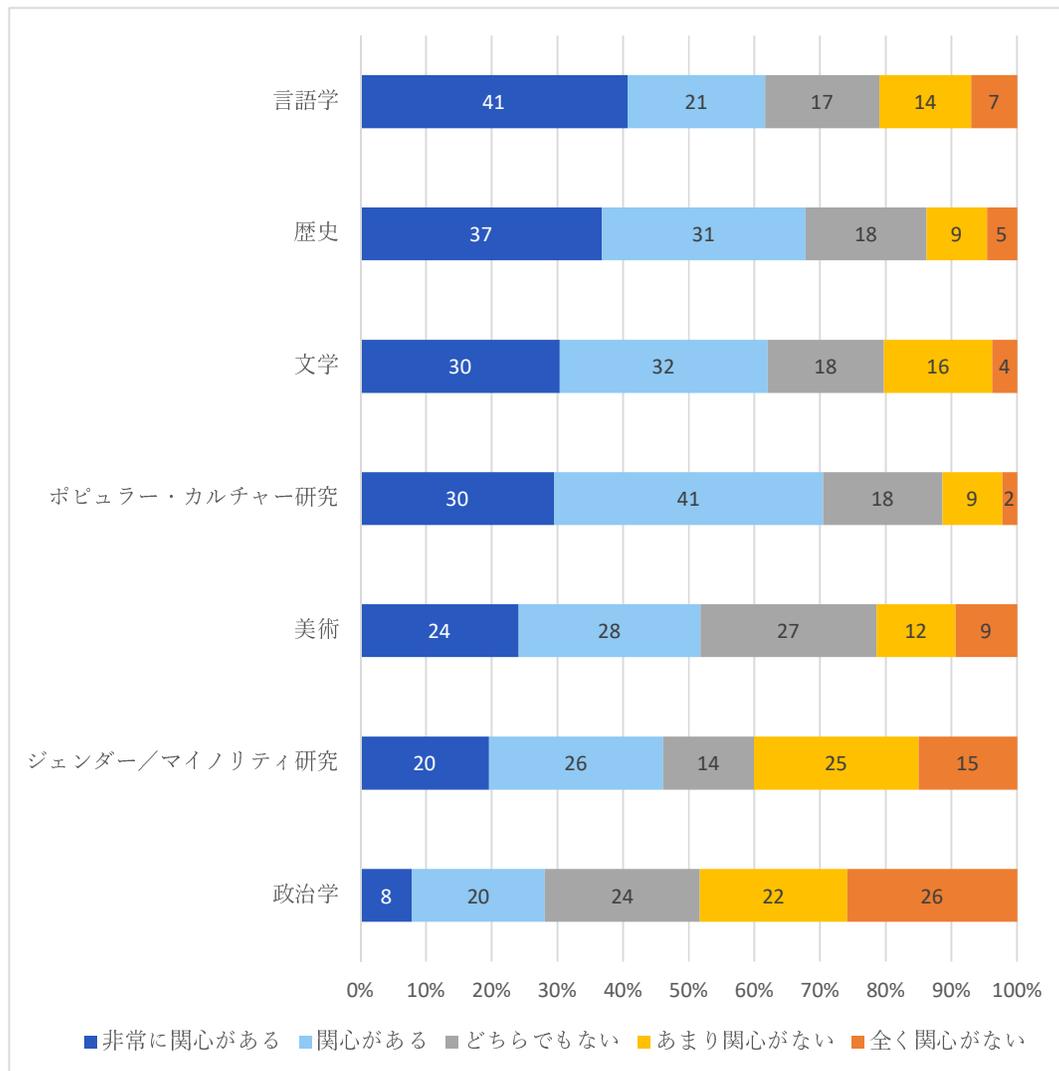
Q7. 現在の大学へ進学することを選択した理由

これもまた自由回答式の質問で、ある傾向が見えてきた。大学を選ぶ際に最も多い要因は「履修できる単位」(32件)で、続いて「大学の教員／講師／指導教官」(25件)。3番目に多い理由が「全体的な評価」(21件)であった。2015年の調査では「講師」を理由に挙げるものは少なかったが、今回は上位に上がっている。

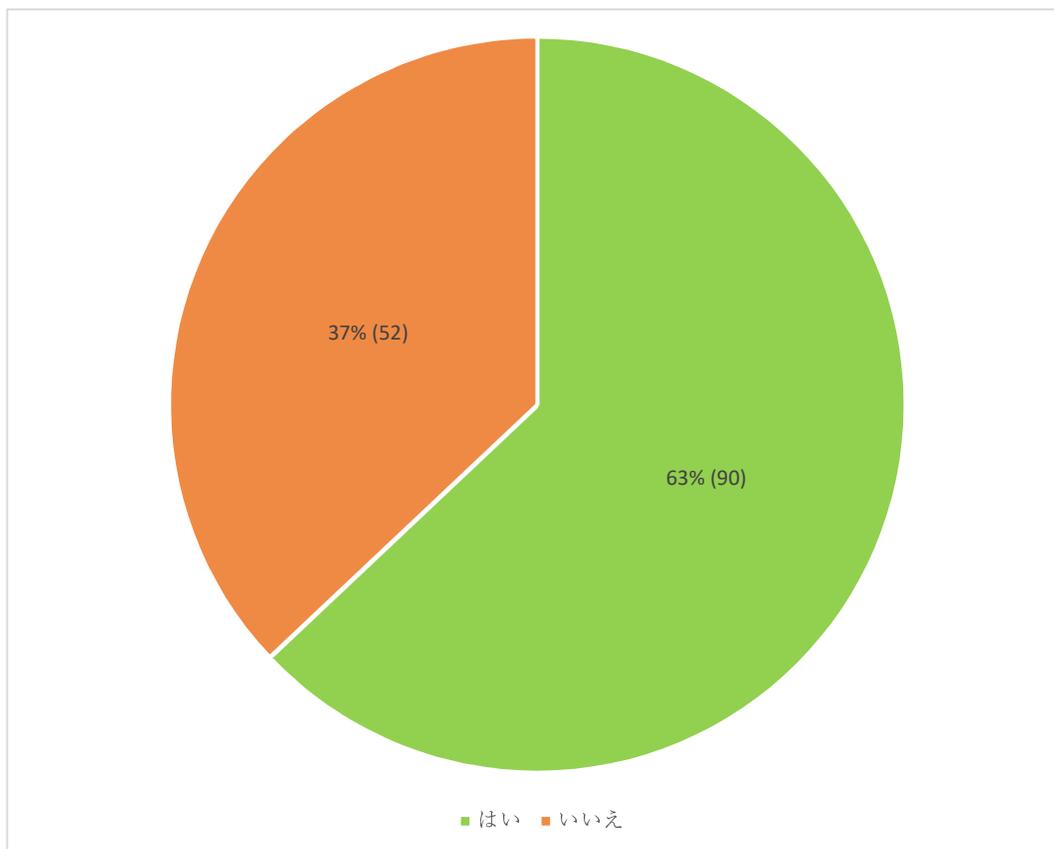
理由	言及数
提供される課程／科目単位	32
教員／講師／指導教官	25
評価	21
語学への対応	18
国外留学の機会	17
所在地	9
柔軟性	9
リソース	7
費用／資金	5
少人数クラス	4
全体的な雰囲気	2
入学条件	2

Q8. 以下の日本研究の分野にどのくらい興味がありますか？

ポピュラー・カルチャーが最も関心が高く、回答者の71%が関心があるかとても関心があるとしている。また歴史、言語学、文学に関心のある学生も多い。2015年の調査では日本語が最も関心が高く、日本のポピュラー・カルチャーは3番目であった。



Q9. 大学の課程で履修する前に日本語を学んだ経験はありますか？



この回答は、学生が日本関連の課程を履修しようと決める最大の要因が日本語であるという調査結果と合致する。課程を始める前に日本語を学んだ学生の割合は、2015年の74.1%からわずかに減少している。語学はまた、学生が課程の中で改善してもらいたいと挙げている分野の一つでもある。(Q15とQ16を参照)

「はい」と答えた学生に、日本語能力に応じて特別な対応をしたかと訊ねると、過半数(66%)が「はい」と答えている。これは、上の学年に向けた授業を受けることから、通常の課程の一部として1学年の特別授業で追加の課題や支援を受けることまで、多岐にわたった。一部の学生からは日本語授業のレベルが物足りないという声もあった。

「残念ながらありません。基礎レベルと中級レベル(2学年で学ぶレベル)のいずれかで、課授業もありますが、課程は明らかに削減されています」

「多少はありますが、とても限られています。新型感染症で状況は悪化しています。私は日本語のレベルが高すぎるので、自習しなくてはなりません」

Q11. 日本研究の学生と新進の研究者が現在直面している最も重要な問題は何だと考えますか？

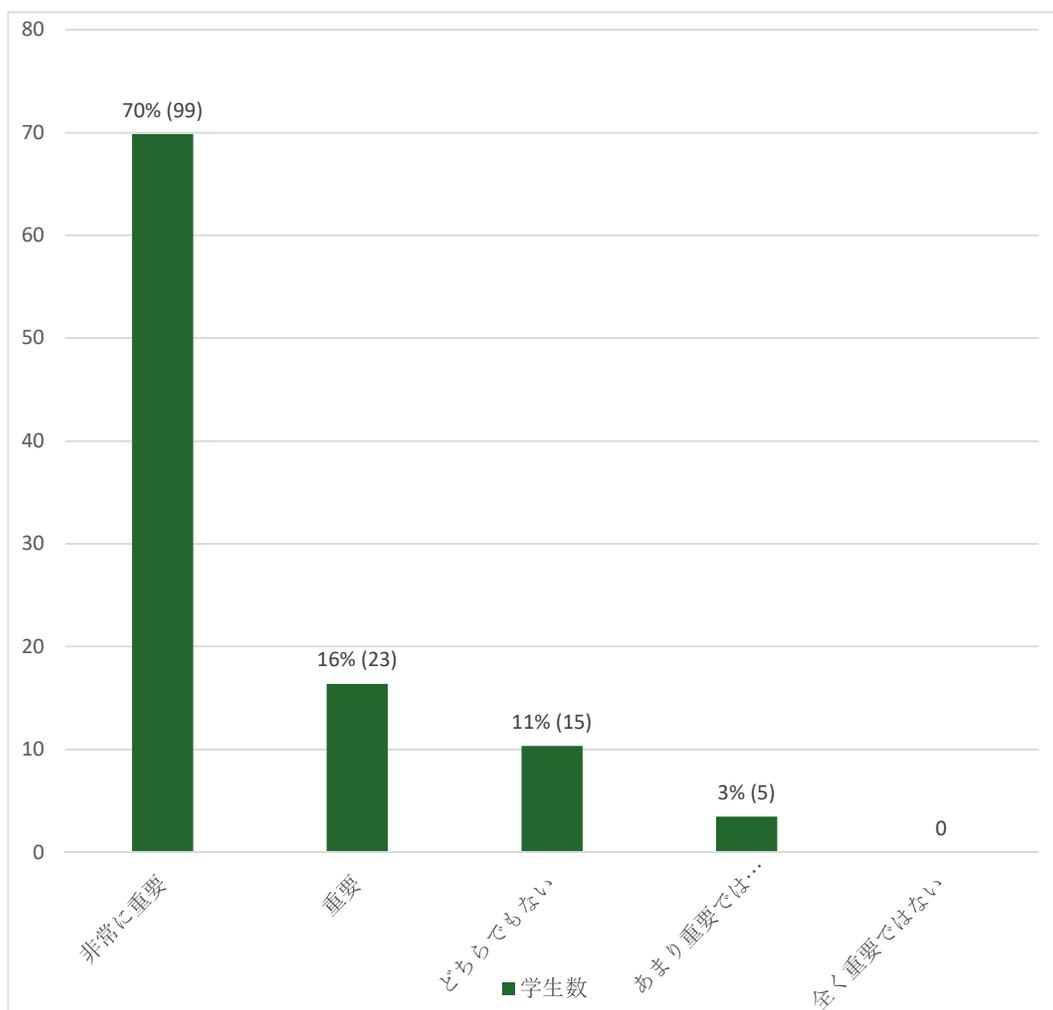
この質問には回答が少なかったが、それは学生のキャリアの経験がまだ浅いため、全体としてコメントするのが難しいと感じたからであろう。当然ながら現在学生が最も懸念しているのは、新型コロナウイルスと日本への渡航制限の問題である(24名)。多くの懸念が寄せられたもう一つの問題は日本語のリソースへのアクセスで、これには日本語テキストへのアクセスが一般的に難しいことと、課程の履修を始めたばかりでは日本語のリソースを理解するのが難しいことの両方がある(18名)。2015年には最も重要な問題は資金不足が挙げられていたが、今回は3位に下がっている。重要問題の一覧表は以下の通りである：

問題	言及数
新型コロナウイルス／渡航制限	24
リソースへのアクセス(言語を含む)	18
資金／大学教員の職の不足	9
需要のない能力	8
日本への世間の態度	7
時代遅れの学際性の欠如	7
多様性(ジェンダー、人種)の不足	4
大学教員と見なされない	3
日本人の同僚と協働する機会の不足	2

Q12. 課程の一環として日本に滞在できることは、どのくらい重要ですか？

日本に滞在することが「まったく重要ではない」という回答は1つもなく、留学は日本研究の学部課程の重要な要素の一つである。このため多くの学生が、新型コロナウイルス／渡航制限を課程履修における大きな障害と見なしている。

2020年に英国が欧州連合を離脱し、エラスムス計画からも外れた。これは日本への留学に直接影響はないが、ヨーロッパへの留学の選択肢が減ることで、学生が非ヨーロッパ中心の学位を検討するようになるかもしれない。英国でエラスムス計画に代わる枠組みが明らかになれば、この流れが現実になるか明らかになるであろう。



Q13. 最終学年の学生への質問：卒業論文のトピックは？

回答の一覧表は以下の通りである。トピックは幅広く、学生が日本関係の課程を履修しようとした要因であるポピュラー・カルチャーと言語の分野の割合は、この回答ではかなり低くなっている。

研究分野	回答	割合
社会学	文化	25.7%
	ジェンダー／マイノリティ研究	
	ジェンダー、特に日本における女性性	
	生きがい	
	日本社会	
	マージナリティ	
	マイノリティ代表	
	社会学、ファッション学、メディア学	
文学	日本のポップ・アイドルの生産と消費におけるデジタル技術の影響	20.4%
	日本古典文学	
	日本近代文学	
	日本戦後文学	
	マイノリティ文学	
	日本ポストモダン文学	
言語学	プレモダン文学(2名)	14.3%
	言語学(3名)	
	社会言語学	
歴史学	翻訳	8.5%
	日本政治史(カルト)	
	記憶遺産研究	
人類学	軍事史	8.5%
	記憶遺産研究	
	軍事史	
近代ポップ・カルチャー研究	社会言語学	8.5%
	翻訳	
	日本アニメとポピュラー音楽	
政治学	日本サブカルチャー、日本メディア、アニメ	8.5%
	国際関係	
	日本の国際関係	
災害学	日中関係	2.8%
	日本の自然災害	
政治学／歴史	政治と歴史	2.8%

Q14. 日本研究の分野で、学んでみたかったが、その機会がなかったものがありますか？

これも幅広い回答が寄せられた。以下の一覧表には回答の本質のみを載せ、余分な説明は省略した。

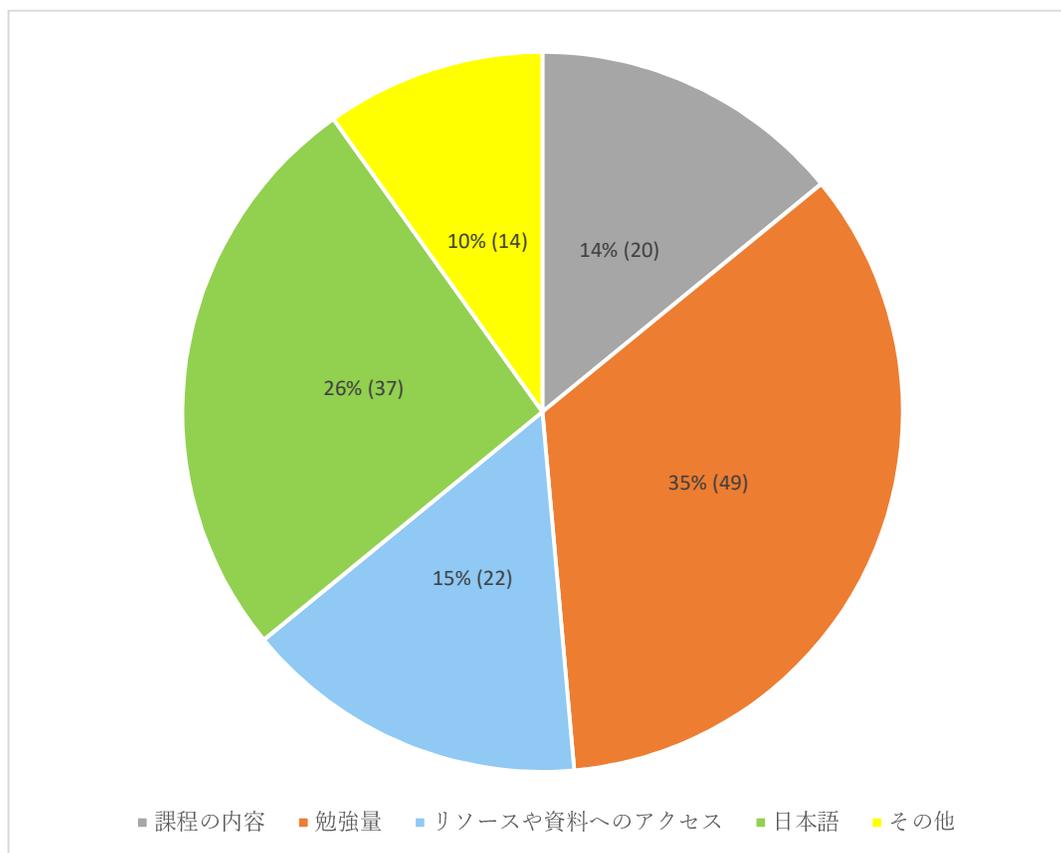
研究分野	回答
美術	日本美術
	美術史
	日本美術史
	繊維
	舞台
ビジネス	交通
コミュニケーション学	文化的仲介
	文化間コミュニケーション
歴史	オルタナティブ／民衆史
	歴史(7名)
	現代史
	歴史単位のさらなる研究
	前近代史
	大正時代以前の歴史
	琉球／沖縄史(1870年代の琉球処分以前)
言語学	日本語史
	日本語学(6名)
	日本語教授法
	マイノリティ言語(例:アイヌ語)
	メディアと言語学についてのさらなる研究
文学	日本文学の課程
	(古典作品に対して)現代作品に特化した日本文学単位(2名)
	日本文学、古典文学および近代文学
文学	文学
博物館学	文化遺産と博物館学
音楽	日本音楽
	日本の音楽文化
哲学	哲学(3名)
政治学	日本とアフリカの相互作用
	近代日本政治
	政治学

	社会／政治理論
ポピュラー・カルチャー	日本のゲーム
	研究者の視点から見た漫画
	近代メディア:テレビ、インターネット、ビデオゲーム
	ポピュラー・メディア
	日本のファンダム／オーディエンス
宗教	日本の民間信仰
	日本の宗教
	日本史における宗教構造
社会学	アイヌ研究
	社会に関する研究
	日本文化に関する研究
	文化と社会
	不良サブカルチャー
	人種に関する日本社会の問題
	日本のサブカルチャー
	ポピュラー・カルチャー
	現代文化と社会的態度
日本のジェンダー・ポリティクス	
伝統文化	神話
	日本の工芸品
	書道
	日本の伝統食品
	日本の島ごとの伝統と習慣
翻訳	日本語翻訳

Q15. 課程を履修する上で最も大変だったことは？

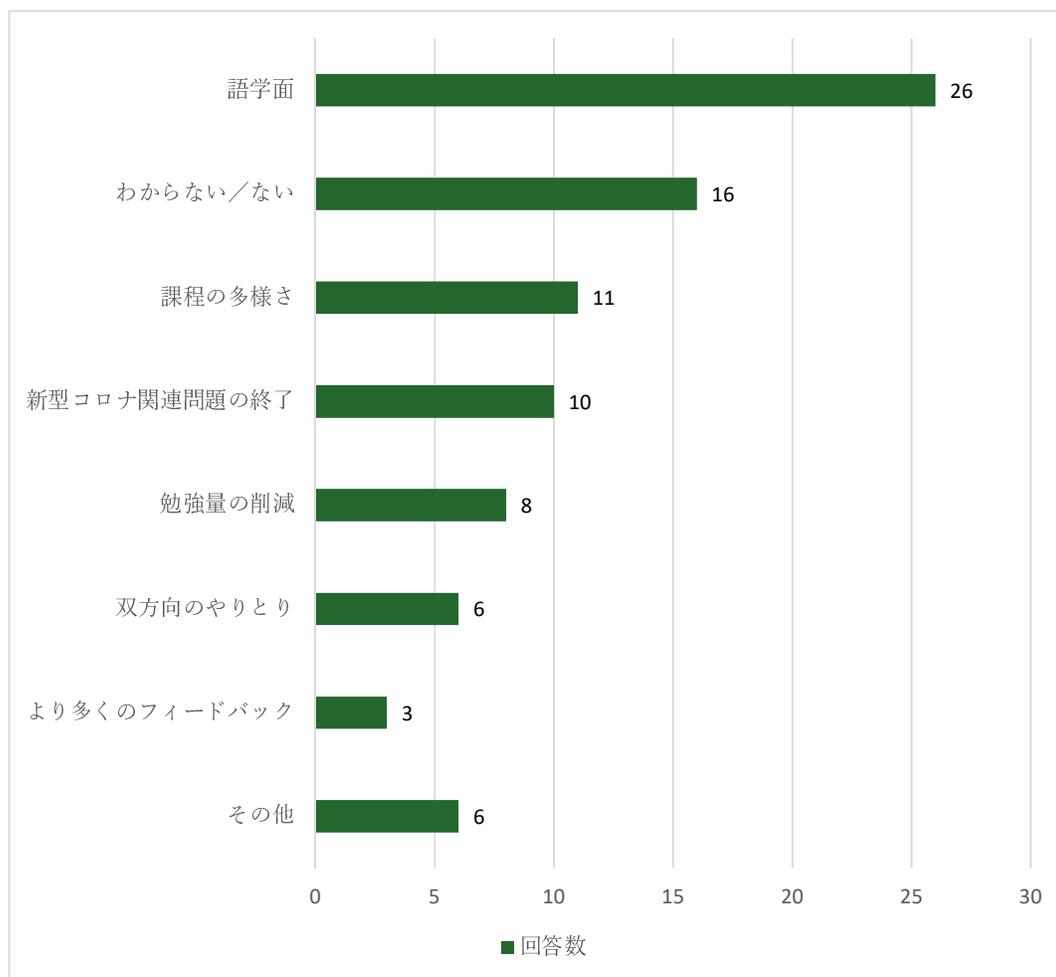
2015年の調査でも、勉強量が課程を履修する上で最も大変であったと見なされていた。2015年の調査では大変なものの一つに挙げられていた学術的な文章作成能力が、2020年の調査では回答になかった。

「その他」の回答には、課程に関する問題よりも、友人を作ることの難しさ、新しい生活に適應することの難しさといった問題が挙げられた。



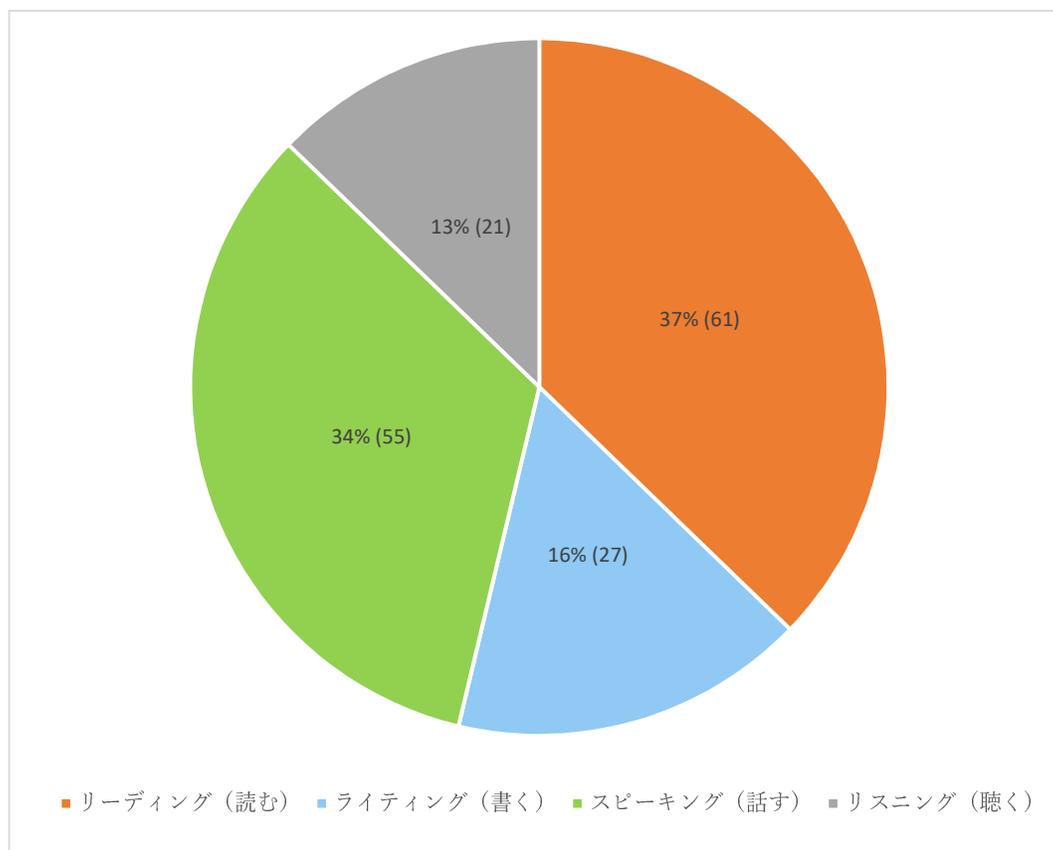
Q16. 履修した課程で改善できると思うことは？

これは自由回答式の質問で、浮かび上がってきたテーマを以下に列挙する：



「その他」の回答の内訳：1年間の国外留学(1名)、教える機会を増やす(1名)、フィールドワークや大学内/大学間のイベントへの実践的な支援を増やす(1名)、人種的多様性(1名)、課外活動を増やして勉学と将来の職業機会とのつながりを改善する(1名)

Q18. 履修した課程で感じた最も重要な日本語技能は？

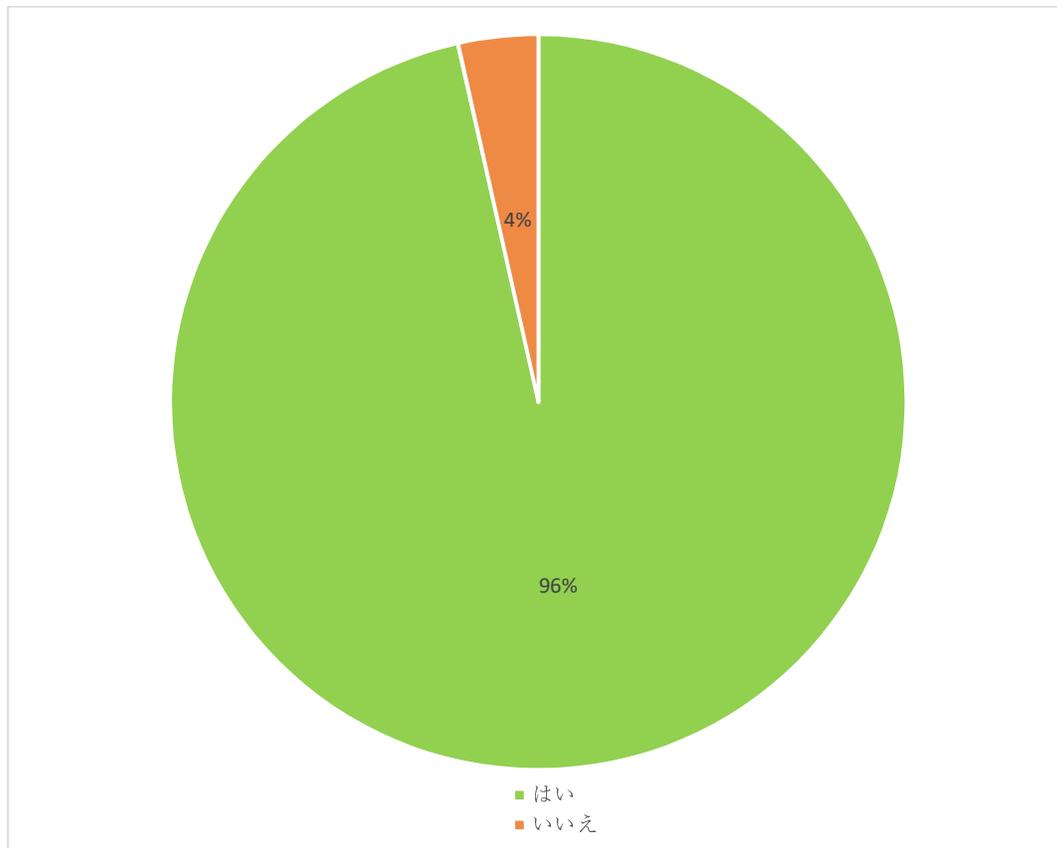


語学の各技能の重要度の順位は2015年の調査と変わらず同じであるが、その比重の変化を以下に列挙する。

語学の技能	2015年	2020年
リーディング	54%	37%
ライティング	11%	16%
スピーキング	28%	34%
リスニング	7%	13%

Q19. 日本関連の課程を大学で履修することを勧められますか？

回答者のほとんど全員が日本関係の課程を履修することを勧めると回答し、勧められないと回答した学生の総数は、2015年の1.9%から2020年は4%に若干増加した。



Q20. Q19での回答の理由を挙げてください。

理由の内訳といくつかの例を以下に列挙する。

肯定的:

視野が広がる(32名)

- 「日本と日本研究は魅力的で、世界と社会を考えるうえで新しい視野を広げてくれます」
- 「さまざまな扉が開かれます！ 将来この言語／文化に関わることを選択したことで、新鮮な視点で物事を見られる機会はあなたの役に立ちます」
- 「これは視野を広げる素晴らしい方法です」

言語を学ぶ機会(30名)

- 「さまざまな状況ですぐに適用できる貴重な言語能力を身につけられるだけではありません・・・」
- 「語学の授業は本当に素晴らしく、役に立ちます」
- 「もし友人が外国語を学ぼうと考えていたら、絶対に日本語を勧めます」

課程の内容／興味深い課程(25名)

- 「日本と英国には違いが多くあるので、勉強することで学べるものがたくさんあります」
- 「勉強する興味を掻き立てられる世界です」
- 「文化として、日本はグローバルな問題への優れた事例研究分析を提供し、日本独自の情報を活用しつつ、社会的、政治的、経済的、文化的な現象について幅広い理解と提言を可能にします」

日本への情熱の探求(14名)

- 「日本に関する研究を探求したい方にはお勧めです」
- 「日本を愛する人なら、この国への視野をより全体的に深めることができます・・・」
- 「この国へ真の興味を抱いているなら、勉強も苦役とは思えないでしょう」

就業機会(10名)

- 「東アジアにグローバル・パワーがさらに集中し始めるにつれて、日本の専門家への需要はさらに高まるでしょう」
- 「これは私に多くの扉を開けてくれました・・・就職の機会がないという考えは真実ではありません」

挑戦(6名)

- 「勉強は厳しいですが、とてもやりがいがあります」
- 「外国語に興味があり、他の文化について学びたい人にとっては、大変ですがとても充実した経験となります」

大学教員(4名)

- 「教授たちはその分野の専門家であり、過程はとても興味深いです」
- 「教授たちは素晴らしいです」

学術的スキル(2名)

- 「現行の教授法のおかげで、言語能力だけでなく、テキストを批判的に分析したり、物語を脱構築したりする能力も身につけられます」
- 「もし将来日本で研究者や大学教員になりたいなら、大学で日本関連の課程を履修することは、それを達成する助けになります」

リソースの充実(1名)

国外留学の機会(1名)

否定的:

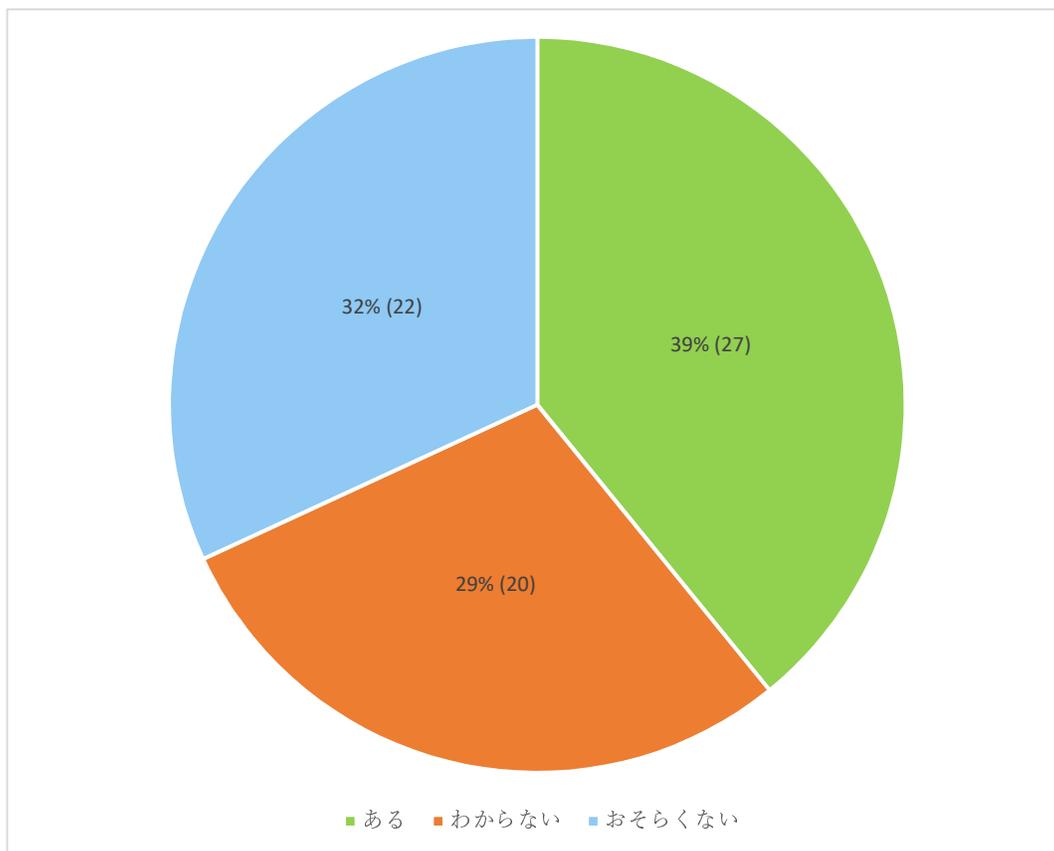
就業機会の不足(2名)

- 「日本研究の卒業生は就職の機会が多くありません」
- 「日本研究は、雇用主にとって重要または就業関連の能力の訓練と見なされていません(おそらくですが)」

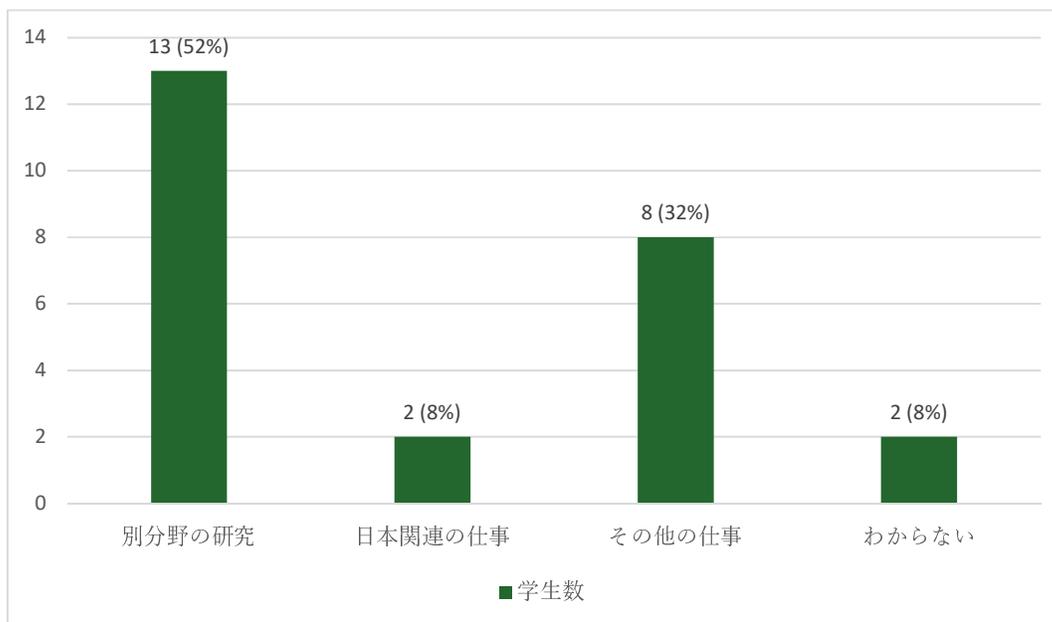
学べる分野が狭いN(1名)

難易度の高さ(1名)

Q21. 学部生への質問：大学院に進んで日本研究を続ける
考えはありますか？



Q22. 「おそらくない」と答えた方は、現在の課程を修了したら、何をしようと考えていますか？



回答例:

別分野の研究

- 「心理学と日本研究(および東アジア研究)を学んだ経験を組み合わせて、東アジアを中心とした国際関係の学位を取得したいと考えています」
- 「言語学関連の科目」
- 「ビジネス学か国際関係の修士課程」

日本関連の仕事

- 「翻訳業に携わりたいと考えおり、任天堂やスクエア・エニックスなどの企業でビデオゲームのスク립トやレイアウトをローカライズする仕事や、あるいは出版社の翻訳者として文学作品や漫画、ノンフィクションを翻訳したいです」
- 「可能ならJETプログラムで勉強したいです(日本に移住するのは費用が高すぎるので)」

その他の仕事

- 「クリエイティブ産業にも興味があるので、就職先を見つけて自分のアートの能力をさらに伸ばしたい」
- 「何かマネジメント関係の仕事」

付表

表1：2015年と2020年に日本関連の学位を修得できた（語学のみを選択肢を含む）英国の大学の学士課程の一覧

大学	2015年調査		2020年調査	
	単一専攻学位	複数専攻学位	単一専攻学位	複数専攻学位
ロンドン大学バークベック校	記載なし	BA 日本語と英語 BA 日本語と映画 BA 日本語とフランス語 かドイツ語かポルトガル語かスペイン語 BA 日本語と歴史 BA 日本語と国際法 BA 日本語とジャーナリズム BA 日本語と言語学 BA 日本語とマネジメント BA 日本語と政治学／グローバル政治	BA 日本研究	BA 日本語と英語 BA 日本語と映画／メディア BA 日本語とグローバル政治 BA 日本語と歴史 BA 日本語と国際法 BA 日本語とジャーナリズム BA 日本語とマネジメント BA 日本語と政治学 BA 日本語と国際関係 BA 日本語と美術史 BA コミュニケーションと日本語

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

バーミンガム大学	記載なし	経済学と日本語 国際ビジネスか国際関係と日本語	BA 現代語学	BA 現代語学と英語 BA 現代語学と美術史 BA 現代語学と音楽 BA 現代語学とビジネス・マネジメント BSc 国際ビジネスと日本語
ケンブリッジ大学	BA 日本研究	BA 日本研究と中国語	BA アジアと中東研究 (日本研究)	記載なし
カーディフ大学	記載なし	BSc ビジネス研究と日本語 BA フランス語と日本語 BA ドイツ語と日本語 BA イタリア語と日本語 BA ポルトガル語と日本語 BA スペイン語と日本語 BA 翻訳研究(日本語)	記載なし	BSc ビジネス研究と日本語 BA フランス語と日本語 BA ドイツ語と日本語 BA 国際関係と政治学(と語学) BA イタリア語と日本語 BA スペイン語と日本語 BA 現代語学と翻訳

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

<p>セントラル・ランカシャー大学</p>	<p>記載なし</p>	<p>BA (Hons) アジア太平洋研究／日本語 BA (Hons) 現代語学日本語 BA (Hons) TESOLと日本語 BA (Hons) 英語と言語学と日本語 BA (Hons) 英文学と日本語 LLB (Hons) 法学と国際研究(日本語)</p>	<p>記載なし</p>	<p>BA アジア太平洋研究(日本語) BA 現代語学 BA TESOLと現代語学 BA 英語と現代語学</p>
<p>ダラム大学</p>	<p>BA 日本研究</p>	<p>日本研究と共同学位</p>	<p>BA 日本研究</p>	<p>社会科学での共同学位</p>
<p>イースト・アングリア大学</p>	<p>BA 日本語 (BA 現代語学、BA 現代語学と1年間の国外留学)</p>	<p>BA 現代語学(二重学位) BA 現代語学とマネジメント研究 BA 現代語学とマネジメント研究(二重学位) BA 翻訳と通訳と現代語学(二重学位と1年間の国外留学)</p>	<p>BA 現代語学</p>	<p>BA 現代語学とマネジメント研究 BA 翻訳と通訳と現代語学 BA 翻訳、メディアと現代語学 BA 国際関係と現代語学</p>

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

		BA 翻訳、メディアと現代語学 BA 翻訳、メディアと現代語学 - 3年課程の選択可能 BA 翻訳、メディアと現代語学(二重学位)		
エディンバラ大学	BA 日本語	記載なし	BA 日本語	BA 日本語と言語学
ハートフォードシャー大学	回答なし	回答なし	記載なし	BA 英語と日本語 BA 英文学と日本語 BA 歴史と日本語 BA 哲学と日本語 BA 会計学と東アジアの語学 BA ビジネスと東アジアの語学 BA 経済学と東アジアの語学 BA イベント・マネジメントと東アジアの語学 BA 人材管理と東アジアの語学

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

				BA 国際ビジネスと東アジアの語学 BA 国際観光マネジメントと東アジアの語学 BA 観光と東アジアの語学
リーズ大学	BA 日本語	アラビア語と日本語 アジア太平洋研究と日本語 中国語と日本語 文化研究と日本語 経済学と日本語 英語と日本語 映画研究と日本語 フランス語と日本語 ドイツ語と日本語 国際ビジネスと日本語 国際開発と日本語 国際関係と日本語 イタリア語と日本語 日本語と言語学 日本語とマネジメント 日本語と哲学 日本語と政治学	BA 日本語	BA アジア太平洋研究 BA アラビア語と日本語 BA アジア太平洋研究と日本語 BA イタリア語Bと日本語 BA 日本語とロシア語A BA 日本語とロシア語B BA 中国語と日本研究 BA 現代語学とビジネス BA 現代語学と経済学 BA 現代語学と英語 BA 現代語学と映画研究 BA 現代語学と国際関係 BA 現代語学と言語学 BA 現代語学と哲学

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

		日本語とロシア語 日本語とロシア文明 日本語と東南アジア研究 日本語とスペイン語		BA 現代語学と政治学
マンチェスター大学	BA 日本研究	BA 東アジア研究 BA 現代語学とビジネスとマネジメント(日本語) BA 学位は芸術・人文科学部のほとんどの課程で日本語との共同履修が可能	BA 日本研究	BA 中国語と日本語 BA フランス語と日本語 BA ドイツ語と日本語 BA 言語学と日本語 BA 政治学と日本語 BA 社会学と日本語 BA スペイン語と日本語 BA 美術史と日本語 BA 英語と日本語 BA 映画研究と日本語 BA 現代語学とビジネスとマネジメント BSc 解剖学と現代語学 BSc 生化学と現代語学 BSc 生物学と現代語学 BSc 細胞生物学と現代語学 BSc 遺伝学と現代語学

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

				<p>BSc 生命科学と現代語学</p> <p>BSc 医学生理学と現代語学</p> <p>BSc 微生物学と現代語学</p> <p>BSc 薬理学と現代語学</p> <p>BSc 動物学と現代語学</p>
マンチェスター・メトロポリタン大学	回答なし	回答なし	記載なし	<p>BA ビジネスと日本語</p> <p>BA 英語と日本語</p> <p>BA フランス語と日本語</p> <p>BA 言語学と日本語</p> <p>BA スペイン語と日本語</p> <p>BA TESOL と日本語</p> <p>BA 国際関係と日本語</p>
ニューキャッスル大学	BA 日本研究	言語学と日本語 共同学位(日本語を含む)	BA 日本語 BA 日本研究	<p>BA 言語学と日本語</p> <p>BA 日本語と考古学</p> <p>BA 日本語とビジネス</p> <p>BA 日本語と中国語</p>

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

		<p>国際ビジネス・マネジメント(日本語を含む) 現代語学(日本語を含む) 現代語学とビジネス研究(日本語を含む) 現代語学と言語学(日本語を含む) 現代語学とマネジメント研究(日本語を含む)</p>		<p>BA 日本語と古典 BA 日本語と教育 BA 日本語と英語言語学研究 BA 日本語と英文学 BA 日本語と映画研究 BA 日本語とドキュメンタリー実践 BA 日本語とフランス語 BA 日本語と地理学 BA 日本語とドイツ語 BA 日本語と歴史 BA 日本語と美術史 BA 日本語とメディア・コミュニケーション BA 日本語と音楽 BA 日本語と哲学 BA 日本語と政治学 BA 日本語とポルトガル語 BA 日本語と社会学 BA 日本語とスペイン語とラテンアメリカ研究</p>
--	--	--	--	---

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

オックスフォード大学	BA 日本語	記載なし	BA 日本語	記載なし
オックスフォード・ブルック クス大学	BA 日本研究	BA / BSc 共同学位	BA 日本研究	BA 日本研究と英語と言 語学 BA 日本研究と歴史 BA 日本研究と国際関 係
ロンドン大学クイーン・メ アリー校	回答なし	回答なし	記載なし	BA 現代語学(副専攻で 日本語)
レディング大学	回答なし	回答なし	記載なし	BA 現代語学(副専攻で 日本語)
シェフィールド大学	BA 日本研究	マネジメントと日本語 日本研究とドイツ語 日本研究とロシア語 日本研究とスペイン語 言語学と日本研究 日本研究と歴史 フランス語と日本語	BA 日本研究	BA 東アジア研究 BA 日本研究と歴史 BA ビジネス・マネジメン トと日本語 BA 言語学と日本研究 BA 韓国研究と日本語

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

		ドイツ研究と日本語 ヒスパニック研究と日本語 ロシア語と日本語 中国研究と日本語 韓国研究と日本語		
ロンドン大学 SOAS	BA 日本語 BA 日本研究	BSc 国際マネジメント (日本) BA 日本研究と共同学位 BA 日本語と共同学位	BA 日本語	BA 日本語と開発学 BA 日本語と経済学 BA 日本語と歴史 BA 日本語と美術史／ 考古学 BA 日本語と国際関係 BA 日本語と言語学 BA 日本語と音楽 BA 日本語と政治学 BA 日本語と社会人類 学 BA 日本語と世界の哲 学 BA 東アジア研究 BA 東アジア研究と開発 学 BA 東アジア研究と経済 学

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

				BA 東アジア研究と歴史 BA 東アジア研究と美術史 BA 東アジア研究と国際関係 BA 東アジア研究と法学 BA 東アジア研究と言語学 BA 東アジア研究と音楽 BA 東アジア研究と政治学 BA 東アジア研究と社会人類学 BA 東アジア研究と世界の哲学
--	--	--	--	---

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

ウォリック大学	回答なし	回答なし	記載なし	BA 言語学と日本語 BA 現代語学 BA 現代語学と経済学 BA 現代語学と言語学
ヨーク・セント・ジョン大 学	回答なし	回答なし	記載なし	BA 日本語、TESOL と 言語学 BA 日本語、異文化間コ ミュニケーションと言語 学

表2：2015年と2020年に日本関連の学位を修得できた（語学のみを選択肢を含む）英国の大学院の一覧

大学	2015年調査	2020年調査
	学位課程	学位課程
ロンドン大学バークベック校	記載なし	MA 比較文学と文化研究 MRes 比較文学と文化研究
ケンブリッジ大学	MPhil 日本研究	MA 日本研究 MPhil アジアと中東研究
カーディフ大学	記載なし	MA 翻訳
セントラル・ランカシャー大学	MA 翻訳と通訳	MA 翻訳と通訳 MA 東アジア研究
ダラム大学	MA 翻訳研究と日本語	MA 翻訳 MA 語学、文学と文化
イースト・アングリア大学	記載なし	MA 学際的日本研究
エディンバラ大学	MSc 日本社会と文化 MSc 東アジア関係	MA 日本語 MA 日本語と言語学 MA 国際ビジネスと日本語 MSc 東アジア研究 MScR 日本語 PhD 日本語 PhD 東アジア研究

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

エセックス大学	回答なし	MA 視聴覚翻訳と文章翻訳 MA 翻訳とプロフェッショナルの実践
リーズ大学	MA 日本研究 MA アジア太平洋研究 MA 東アジア地域開発 MA 応用翻訳研究 MA 通訳と翻訳 MA 視聴覚翻訳研究	MA 応用翻訳研究 MA 視聴覚翻訳
ロンドン・メトロポリタン大学	回答なし	MA 会議通訳 MA 通訳 MA 翻訳
マンチェスター大学	MA 言語と文化(研究課程への準備) MA 翻訳研究	MA 翻訳と通訳研究 MA 語学と文化 PhD 日本研究
ニューキャッスル大学	記載なし	MLitt 日本研究 MPhil 現代語学 PhD 現代語学・日本語
オックスフォード大学	MSc 現代日本研究 MPhil 現代日本研究 MSt 日本研究 MSt 東洋研究	MSc 日本研究 MPhil 日本研究 MPhil 伝統的な東アジア DPhil 地域研究

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

ポーツマス大学	回答なし	MA 翻訳研究
シェフィールド大学	MA 日本研究 MSc 東アジアの政治経済 MSc 東アジアのビジネス	MA 東アジアのビジネス MA 国際関係と東アジア MA 東アジアの政治とメディア
ロンドン大学 SOAS	MA 日本研究 MA 日本語学習と教授 MA 日本文学 MA 専門科目と集中語学の日本語 MA アジア太平洋研究 MA 翻訳の理論と実践(アジアとアフリカの言語) MSc アジア太平洋地域に関する経済学 MSc 国際マネジメント(日本) MSc アジアの政治学 MRes 政治学と日本語	MA 日本研究 MA 日本研究と集中語学 MPhil/PhD 日本研究 MA 東アジアの美術史と考古学 MA 東アジアの美術史と考古学と集中語学 MA 東アジアのグローバル外交 MPhil/PhD 翻訳研究 MA 翻訳研究 MSc アジアの政治学
サウサンプトン大学	回答なし	MA 翻訳と専門コミュニケーション技能
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	回答なし	MSc 翻訳と技術(視聴覚) MSc 翻訳と技術(科学的、技術的、医学的) MSc 翻訳と技術(と通訳) MPhil / PhD 翻訳研究

表3：日本の大学と提携しているグループ1とグループ2の英国の大学*

*この表は、日本研究部門の外にリンクが存在する可能性があるため、網羅的されていない場合があります。

大学	提携先
ロンドン大学バークベック校	法政大学、国際基督教大学、上智大学、早稲田大学、関西大学、お茶の水女子大学
ケンブリッジ大学	同志社大学、慶應義塾大学、京都大学、一橋大学、早稲田大学
カーディフ大学	中央大学、獨協大学、成蹊大学、東京大学、東洋大学、国際基督教大学、慶應義塾大学、明治大学、早稲田大学、横浜国立大学、立命館大学、神戸大学、関西学院大学、広島大学、北九州大学
セントラル・ランカシャー大学	北星学園大学、国際教養大学、宇都宮大学、神田外語大学、目白大学、東洋大学、大東文化大学、金沢大学、福井大学、名古屋外国語大学、金城学院大学、愛知県立大学、三重大学、龍谷大学、大阪国際大学、和歌山大学、武庫川女子大学、山口大学、西南学院大学、福岡大学、久留米大学、大分大学、長崎外国語大学、鹿児島国際大学、名桜大学、熊本学園大学、東京外国語大学

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

<p>ダラム大学</p>	<p>東京大学、早稲田大学、国際基督教大学、京都大学、名古屋大学、大阪大学、千葉大学、熊本大学、九州大学(締結準備中)、広島大学(締結準備中)</p>
<p>イースト・アングリア大学</p>	<p>国際教養大学、学習院大学、北海道大学、国際基督教大学、関西大学、神戸女学院大学、京都大学、明治大学、明治学院大学、南山大学、岡山大学、大阪大学、立命館大学、龍谷大学、上智大学、東北大学、早稲田大学、横浜国立大学</p>
<p>エディンバラ大学</p>	<p>同志社大学、学習院大学、北海道大学、国際基督教大学、慶應義塾大学、関西学院大学、京都大学、岡山大学、立命館大学、成蹊大学、上智大学、筑波大学、早稲田大学、横浜国立大学</p>
<p>リーズ大学</p>	<p>国際教養大学、早稲田大学、法政大学、東京外国語大学、国際基督教大学、学習院女子大学、南山大学、同志社大学、関西外国語大学、甲南大学、神戸学院大学、大阪大学、九州大学、福岡大学、熊本大学</p>
<p>マンチェスター大学</p>	<p>中央大学、獨協大学、同志社大学、福岡女子大学、広島大学、一橋大学、北海道大学、国際基督教大学、神奈川大学、関西外国語大学、神戸大学、慶應義塾大学、関西学院大学、京都大学、明治大学、明治学院大学、南山大学、お茶の水女子大</p>

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

	学、大分大学、大阪大学、立教大学、立命館大学、埼玉大学、東京大学、東京外国語大学、早稲田大学、山形大学
ニューキャッスル大学	20 大学以上 (リストは提供されず)
オックスフォード大学	神戸大学 (日本研究担当学部以外は他大学とも提携)
オックスフォード・ブルックス大学	愛知淑徳大学、青山学院大学、学習院大学、北九州大学、京都外国語大学、明治学院大学、長崎大学、名古屋外国語大学、桜美林大学、龍谷大学、成蹊大学、筑波大学、都留文科大学、山梨大学
シェフィールド大学	国際教養大学、青山学院大学、中央大学、同志社大学、広島大学、北海道大学、法政大学、国際基督教大学、金沢大学、慶應義塾大学、神戸大学、京都大学、九州大学、明治大学、名古屋大学、岡山大学、大阪大学、小樽商科大学、立教大学、立命館大学、琉球大学、成城大学、上智大学、東北大学、東京大学、筑波大学、早稲田大学、山口大学、横浜国立大学
ロンドン大学 SOAS	各学部が個別に協定を結んでいるものもあり、全体で約 20 大学

表4：グループ1とグループ2の大学の教育分野

	語学	言語学	歴史	政治国際関係	社会学	メディア	人類学	文学	伝統文化	現代社会	経済学	科学技術	美術	その他
ロンドン大学バーベック校	X		X	X	X	X								ポピュラー・カルチャー、漫画・アニメ、多文化主義、多様性、マイノリティ
ケンブリッジ大学	X		X	X		X	X	X	X	X				
カーディフ大学	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	象徴主義、災害、翻訳

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

セントラル・ランカシャー大学	X	X	X			X	X	X	X	X		X	X	翻訳
ダラム大学	X		X			X		X				X	X	
イースト・アングリア大学	X		X	X		X		X	X				X	
エディンバラ大学	X		X	X	X		X	X	X	X			X	宗教

国際交流基金ロンドン日本文化センター 2020年度日本研究機関調査

リーズ大学	X		X	X		X		X		X				宗教
マンチェスター大学	X		X			X				X		X		宗教
ニューキャッスル大学	X							X						ポピュラー・カルチャー
オックスフォード大学	X	X	X					X	X					

国際交流基金 ロンドン日本文化センター 2020 年度日本研究機関調査

オックスフォード・ブルックス大学	X	X	X			X		X	X	X			X	
シェフィールド大学	X		X	X	X	X		X						
ロンドン大学 SOAS	X	X	X			X		X		X	X		X	伝統演劇 前近代言語 ビジネスと マネジメント 宗教